

## 第1回 高浜町総合計画審議会

日程 令和元年12月18日(木)

午後1時30分より

会場 高浜町役場会議室1、2

### 次 第

1. 委嘱状交付
2. 開会
3. 町長あいさつ
4. 委員自己紹介
5. 会長・副会長の選任
6. 会長・副会長あいさつ
7. 諮問
8. 議事
  - (1) 策定体制と策定方針等について
  - (2) 町民ワーキング委員会等の経過報告について
  - (3) 現総合計画の総括について
  - (4) 住民アンケート調査結果について
9. その他
10. 閉会

### 資料

- 資料1 町民ワーキング委員会等の経過報告について  
資料2 現総合計画の総括について  
資料3 住民アンケートの調査結果について  
封筒 委員報酬のお支払について(振込口座・個人番号届)

# 総合計画審議会委員

任期：委嘱日 令和元年12月18日～総合計画答申（令和2年11月頃）

	氏名	所属	備考
1	西野 朋宏	高浜町議会議員	町議会議員
2	小幡 憲仁	高浜町議会議員	町議会議員
3	野嶋 慎二	福井大学工学部・工学研究科 教授	学識経験者
4	福田 敏弘	教育委員	
5	田中 康隆	高浜町商工会 会長	
6	大角 一馬	若狭高浜観光協会 会長	
7	板倉 健治	若狭高浜漁業協同組合 代表理事組合長	
8	時下 昭一	J A 若狭 高浜支店 支店長	
9	石本 祥次	高浜町区長連合会 会長	
10	大森 弘子	高浜まちづくりネットワーク 会長	
11	一瀬 邦生	高浜町社会福祉協議会 会長	
12	山下 孝之	高浜町老人クラブ連合会 会長	
13	角谷 美佐子	高浜町女性ネットワーク 会長	
14	正木 久康	高浜町PTA連合会 会長	
15	長田 隆	日本労働組合総連合会福井県連合会 嶺南地域協議会 議長	
16	永禮 義己	高浜町役場 総合政策課 課長	事務局
17	杉本 泰寛	高浜町役場 総合政策課 課長補佐	事務局
18	野村 芳	高浜町役場 総合政策課 技師	事務局

(敬称略)

# 高浜町総合計画策定方針

令和元年6月4日

## 第1. 計画策定の趣旨

### (1) 策定の背景

総合計画は、よりよい“まちづくり”を総合的かつ計画的に推進するための行政の基本方針としての役割と性格を持つものであり、町の最上位計画に位置づけられます。

本町においては、平成23年度から10年間を計画期間とする高浜町総合計画に基づき、「美しい自然を舞台に一人ひとりが主役になる“暮らしたい、働きたい、訪れたいまち 高浜町”」を町の将来像として、5つの基本目標「①誰もが安心して暮らせるまち、②いきいきと働けるまち、③安全・快適で住みやすいまち、④豊かな自然を守り、地域環境に貢献するまち、⑤学びあい・教えあい、そして人を育むまち」と3つの基本要件「①住民等と行政との協働による「選ばれる町」の実現、②マネジメントサイクルを徹底した行政経営の実現、③持続可能な財政基盤の確立」を掲げ、計画的にまちづくりを進めてきました。

この総合計画の計画期間が令和2年度（2020年度）をもって終了することから、令和3年度（2021年度）からの「新たな総合計画」の策定が必要となっています。

現在本町を取り巻く環境は、少子高齢化の進展に伴い本格的な人口減少社会が到来し、生産年齢人口の減少による労働力の低下や地域経済規模の縮小、地域コミュニティの維持が危ぶまれる状況も懸念されており、老朽化の進む公共施設・インフラ施設への対応や、地域全体で支え合う社会づくりなど、これまでとは異なる多様な課題への対応が求められています。

これからの地方自治体は、自らの責任と判断で進むべき方向を決め、実行できる経営能力が求められています。そのためには、町の厳しい行財政の現状と将来懸念される課題を住民と共有しながら、選択と集中の考え方や協働のまちづくりの方向性を明らかにし、将来にわたって持続可能な活力あるまちづくりを進めていく必要があります。

本計画は、住民と行政の協働のまちづくりの目標として、町の目指すべき姿を展望し、総合的かつ計画的な行政運営の指針とするべく策定するものです。

### (2) 計画策定の法的位置付け

現総合計画は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第2条第4項の定めにより基本構想が議会の議決を経て定められました。平成23年5月に地方分権の観点から当該規定が改正され、基本構想について議会の議決を経て定める義務付けがなくなりましたが、町の目指すべき姿や方向性を明確にした総合計画の必要性を鑑み、かつ、町と町議会が一体的に行政サービスを推進するため、総合計画策定に関する必要な事項を定める「(仮称)高浜町総合計画策定条例」を制定し、当該条例に基づき、基本構想及び基本計画について議会の議決を経ることとしています。

## 第2. 計画の構成と期間

### (1) 基本構想

町の将来を展望し、まちづくりの基本理念を基に目指すべき将来像を示すとともに、これを達成するための基本方針を明確にし、計画的かつ総合的な行政運営の指針となるべきものであり、その期間は令和3年度（2021年度）から令和12年度（2030年度）までの10年間とします。

### (2) 基本計画

基本構想を受け、まちづくりの将来像を達成するための基本的な施策の体系を示すものであり、その計画期間は構想と同じく10年間とします。

基本構想の着実な実現を図るため、令和7年度（2025年度）に後期5年間（令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度））の必要な見直しを行うこととします。

### (3) 実施計画

基本計画に定められた施策を具体的な事業として、前期と後期に分けて、財政的な裏付けを持って実効性の高いものとします。なお、時代の変化に対応する観点から、毎年度3か年間を目途に修正、補完を行うことにより進捗把握と必要に応じ計画見直しを行うこととします。

## 第3. 計画策定の視点

社会経済動向の変化に対応し、地域の特性を反映した、また、住民と行政とが一体となった協働のまちづくりを進めることができる計画とするため、人口減少局面における様々な課題等を十分に勘案し、国連で採択され、我が国も目指すところである「持続可能な開発目標」いわゆるSDGsの理念を踏まえつつ、次の視点を重視し計画づくりを行うものとします。また、令和2年度（2020年度）以降の次期地方創生総合戦略の策定を見据え、検討プロセスを並行して行うことにより、その調和が図られる計画づくりを進めます。

### (1) 社会情勢の的確な把握と対応を踏まえた計画づくり

人口減少社会を迎えての社会構造の変化、ICT・IOT技術の発展・普及により産業、教育、福祉などあらゆる分野で変化がもたらされ、人々の価値観やライフスタイルも大きく変化していく中で、社会情勢の変化に対応しつつ、多様化する住民ニーズを踏まえた計画づくりを進めます。

### (2) 地域特性を反映した計画づくり

本町の持つ自然的条件、歴史的条件および社会的条件を充分配慮し、地域の特性を生か

した自主性のある計画を検討するとともに、地域の視点に立った計画づくりを進めます。

### (3) 住民参画による身近でわかりやすい計画づくり

住民と行政とのパートナーシップの確立のもと、町の状況や課題、発展方向等を共有し協働のまちづくりに向けて、計画策定の段階から住民参画の計画づくりを進めます。また、住民の視点に立った、わかりやすい内容や表現に努め、親しみやすい計画づくりを進めます。

### (4) 職員参画の計画づくり

行政運営の総合指針を策定することから、各分野相互の連携・整合の確保はもとより、職員の意識の高揚及び協力体制を確立するとともに、職員参加の計画づくりを通して、職員の人材育成に繋がる計画づくりを進めます。

### (5) 各分野の計画と整合性のある計画づくり

国・県・広域圏の各種計画の動向及び政策方向等を踏まえるとともに、地方創生総合戦略など町が策定する各分野の計画やビジョンと整合性のある計画づくりを進めます。

### (6) 持続可能な行財政運営の推進と実現性・実効性ある計画づくり

厳しい財政状況が見込まれる中、持続可能な行財政運営を進めるべく、実施事業の成果を適切に把握・評価し、改善に繋げるとともに、中長期的な財政見通しとの整合を図り、限られた経営資源を最大限活用した、選択と集中により効率的で実現性・実効性のある計画づくりを進めます。

## ※ SDGs とは

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2015年9月の国連サミットで採択された2030年を期限とする国際目標で、持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットから構成されています。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に、統合的に取り組むこととしています。

## 第4. 計画策定の実施体制

職員・町民の協働・参画により、効率的に作業を行うとともに事業段階の連携・協力、調整をスムーズに行うため、各課・関係団体の積極的な関与・検討のもとに計画策定を行います。

### (1) 高浜町総合計画審議会

高浜町総合計画案を諮問し計画内容を審議するため、高浜町総合計画審議会条例（昭和60年高浜町条例第3号）第1条に基づき、各分野から広い見識を有する者で構成する高



浜町総合計画審議会（20名以内）を設置します。

（2）高浜町総合計画町民ワーキング委員会

各階層および各分野の住民代表から構成し、ヒアリングなどを通して住民意見や提案などを集約しながら、町の将来像を含む高浜町総合計画案を策定する町民ワーキング委員会を設置します。

（3）高浜町総合計画策定委員会

行政庁内に各分野のビジョンや構想等を網羅し総合計画の内容について検討し策定する委員会（課長級）を設置します。

（4）高浜町総合計画検討委員会

行政庁内における各分野のビジョンや構想等を町の将来像や政策・事業に落とし込み、総合計画案を作成するため行政庁内に検討委員会（担当）を設置します。

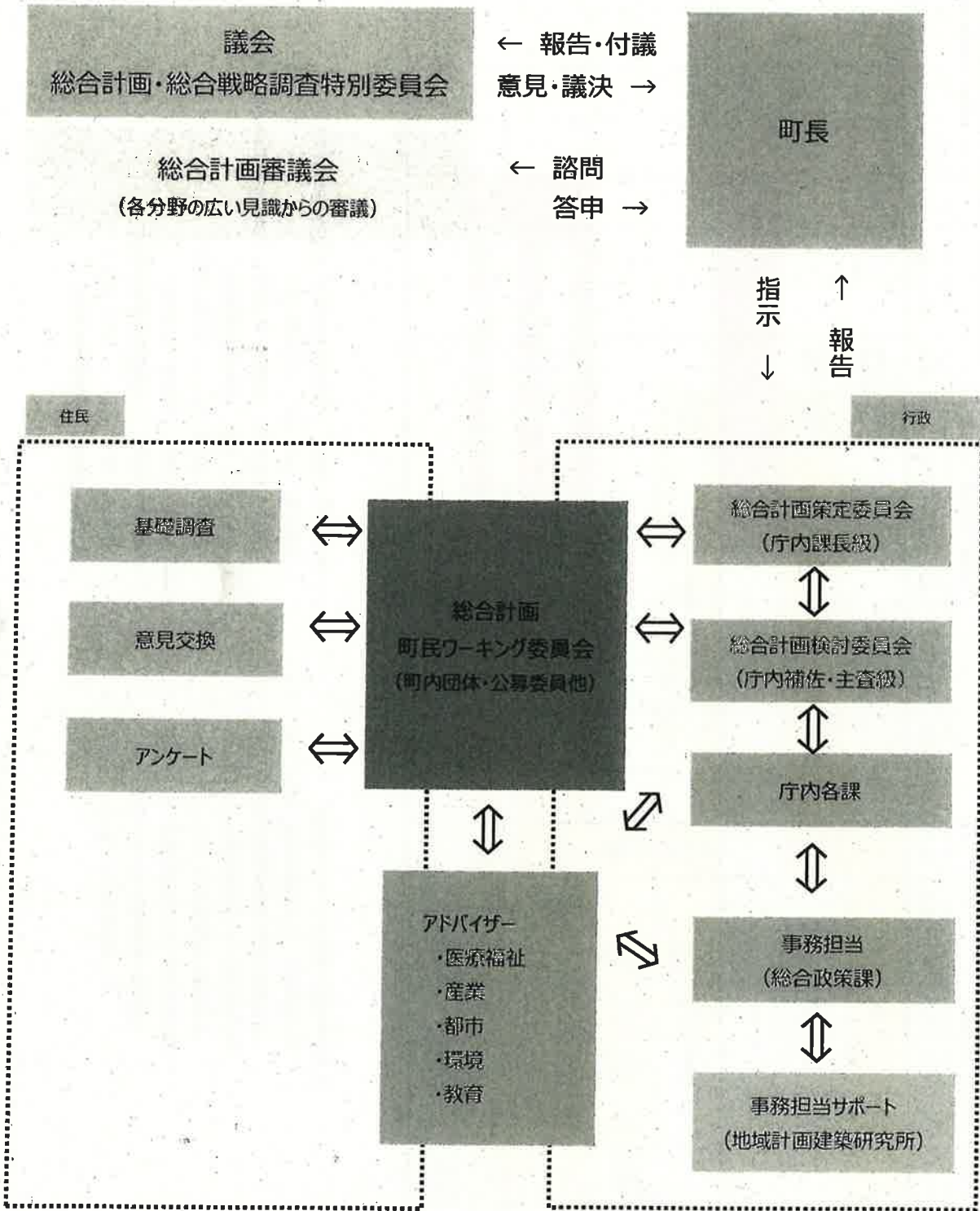
## 第5. 計画の策定期間

平成31年（2019年）4月から令和3年（2021年）3月の2か年  
（令和2年（2020年）12月議会定例会において基本構想議案の上程を予定。）

## 第6. その他

計画策定に関して必要となる事務手続きについては、総合政策課が行い、この方針に定めるもののほか、計画策定に関し必要な事項は別に定めることとします。

# 総合計画策定体制図



## 新総合計画策定スケジュール

項目 \ 期間	R1年度 (H31年度 2019年度)											R2年度 (H32年度 2020年度)											R3年度 (H33年度 2021年度)					R4年度	
	R1.6	R1.7	R1.8	R1.9	R1.10	R1.11	R1.12	R2.1	R2.2	R2.3	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.4	
総合計画 基本構想 検討							諮問											審議会 答申	本会議 承認			概要配布							
基本計画 検討							諮問											審議会 答申	本会議 承認				新計画 スタート						
実施計画 検討																						実施計画 議会報告	実施計画 スタート	概要配布					
高浜町総合計画審議会 (関係団体の長 (20名以内))						委員決定	① 12/18	② 1/29 予定		③ 3/25 予定	総合計画審議会 (4回程度)						審議会 答申												
高浜町総合計画町民ワーキング委 員会 (町内団体、公募委員他)				委員決定 委員公募	① 10/17	② 11/20	③ 12/11	④ 1/16 予定		⑤ 3/4 予定																			
高浜町総合計画策定委員会 (庁内課長級等)			設置						① 2/20 予定	総合計画策定委員会 (2回程度)																			
高浜町総合計画検討委員会 (庁内実務担当レベル)			設置	① 9/26	② 10/30	③ 11/15 ④ 11/27	⑤ 12/24 予定		⑥ 2/6 予定	総合計画検討委員会 (7回程度)																			
住民・各種団体				住民・中学 生・職員 アンケート		意見交換		団体調査						パコメ															

## 新総合計画策定に向けた進捗状況

### ○ 高浜町総合計画検討委員会 (庁内実務担当レベル)

- 第1回検討委員会開催 9/26 (木)  
主な議題 現総合計画の成果と課題
- 第2回検討委員会開催 10/30 (水)  
主な議題 めざす姿のグループワーク①
- 第3回検討委員会開催 11/15 (金)  
主な議題 めざす姿のグループワーク②
- 第4回検討委員会開催 11/27 (水)  
主な議題 めざす姿のグループワーク③

### ○ 高浜町総合計画町民ワーキング委員会

- 第1回町民ワーキング委員会開催 10/17 (木)  
主な議題 住民・協働の取組みグループワーク
- 第2回町民ワーキング委員会開催 11/20 (水)  
主な議題 めざす姿のグループワーク①
- 第3回町民ワーキング委員会開催 12/11 (金)  
主な議題 めざす姿のグループワーク②  
将来像のグループワーク

### ○ 住民アンケート調査 (町内在住18才以上 2,500名無作為抽出)

- 調査期間 9/5 (木) ~ 9/20 (金)  
回答数 1,047件 (回答率 41.88%) ※前回回答率 40.45%

### ○ 中学生アンケート調査 (町内中学生295名)

- 調査期間 9/24 (月) ~ 10/11 (金)  
回答数 285件 (回答率 96.61%)

### ○ 職員アンケート調査 (一般職及び業務職199名)

- 調査期間 9/10 (火) ~ 9/20 (金)  
回答数 188件 (回答率 94.47%)



総合計画審議会の審議スケジュール（予定）

開催予定	議事内容	予定資料
第1回 (12/18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 策定体制と策定方針等について</li> <li>○ 町民ワーキング委員会等の経過報告について</li> <li>○ 現総合計画の総括について</li> <li>○ 住民アンケート調査について</li> </ul> <p style="text-align: center;">【方針共有と経過報告】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町民ワーキング委員会等の経過報告</li> <li>○ 現総合計画の総括</li> <li>○ 住民アンケート調査</li> </ul>
第2回 (1/29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町民ワーキング委員会等の経過報告について</li> <li>○ 基本構想案たたき台について（審議）</li> </ul> <p style="text-align: center;">【基本構想案たたき台についての検討】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 町民ワーキング委員会等の経過報告</li> <li>◎ 基本構想検討資料</li> <li>◎ 基本構想案たたき台</li> </ul>
第3回 (3/25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町民ワーキング委員会等の経過報告について</li> <li>○ 基本構想（町民ワーキング委員会案）について（審議）</li> </ul> <p style="text-align: center;">【基本構想案についての検討】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 町民ワーキング委員会等の経過報告</li> <li>◎ 基本構想（町民ワーキング委員会案）</li> </ul>
第4回 (5月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本計画骨子案について（審議）</li> </ul> <p style="text-align: center;">【基本計画骨子案の検討】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 基本計画骨子案</li> </ul>
第5回 (7月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本計画案について（審議）</li> <li>○ パブリックコメントの実施について</li> </ul> <p style="text-align: center;">【基本計画案の検討】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 基本計画案</li> </ul>
第6回 (9月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パブリックコメントの結果について</li> <li>○ 総合計画案（基本構想・基本計画）について（審議）</li> </ul> <p style="text-align: center;">【総合計画案の検討】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ パブリックコメント結果</li> <li>◎ 総合計画案（基本構想・基本計画）</li> </ul>
第7回 (10月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総合計画（基本構想・基本計画）答申</li> </ul> <p style="text-align: center;">【総合計画答申】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 総合計画（基本構想・基本計画）答申</li> </ul>

## ○高浜町総合計画審議会条例

昭和60年3月19日  
条例第3号

## (設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき高浜町総合計画審議会(以下「審議会」という。)を置く。

## (所掌事務)

第2条 審議会は、町長の諮問に応じ高浜町総合計画に関する事項について、調査及び審議をする。

## (組織)

第3条 審議会は委員20人以内で組織する。

2 委員は次に掲げる者のうちから町長が任命する。

- (1) 町議会議員 2人以内
- (2) 学識経験を有する者 2人以内
- (3) その他関係機関の代表者等 16人以内

## (任期)

第4条 委員は、当該諮問にかかる審議が終了したときは、解任されるものとする。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は会務を総理し、審議会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

## (会議)

第6条 審議会は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の定数の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

## (庶務)

第7条 審議会の庶務は、総合政策課において処理する。

## (委任)

第8条 この条例で定めるもののほか、審議会の運営について必要な事項は、町長が定める。

## 附 則

## (施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

## (経過措置)

2 この条例の施行後、最初に開かれる審議会は第6条第1項の規定にかかわらず町長が招集する。

## 附 則(平成15年条例第20号)

この条例は、公布の日から施行する。

## 附 則(平成21年条例第25号)

この条例は、公布の日から施行する。

## 附 則(平成24年条例第15号)

この条例は、平成24年6月1日から施行する。

## 附 則(平成31年条例第1号)

この条例は、平成31年4月1日から施行する。



## 町民ワーキング委員会等の経過報告について

## 【委員会等開催状況】

## ○総合計画町民ワーキング委員会

第1回委員会 10/17（木）13:30～15:30 高浜町役場

第2回委員会 11/20（水）13:30～15:30 高浜町役場

第3回委員会 12/11（水）13:30～15:30 高浜町役場

⇒年度内に5回程度開催予定（基本構想案の検討）

## ○総合計画策定委員会（庁内課長級）

第1回委員会 2月頃開催予定

⇒年度内に1回程度開催予定（基本構想案の精査）

## ○総合計画検討委員会（庁内実務担当）

第1回委員会 9/26（木）13:30～15:30 高浜町役場

第2回委員会 10/30（水）13:30～16:00 高浜町役場

第3回委員会 11/15（金）13:30～16:00 高浜町役場

第4回委員会 11/27（水）13:30～16:00 高浜町役場

第5回委員会 12/24（火）13:30～ 高浜町役場

⇒年度内に7回程度開催予定（現計画の精査、基本構想案の検討）

## 【アンケート実施状況】

## ○住民アンケート調査（町内在住18才以上 2,500名無作為抽出）

調査期間 9/5（木）～9/20（金）

回収状況 有効回収数：1,047件／有効回答率：41.9%

## ○中学生アンケート調査（町内の中学校に在籍する中学生295名）

調査期間 9/24（火）～10/11（金）

回収状況 有効回収数：285件／有効回答率：96.6%

## ○職員アンケート調査（一般職及び業務職199名）

調査期間 9/10（火）～9/20（金）

回収状況 有効回収数：188件／有効回答率：94.5%



## 【委員会等実施状況】

○総合計画町民ワーキング委員会

第1回 10/17（木）13:30～15:30 高浜町役場

### 会議概要

- ・策定方針とスケジュール説明
- ・現総合計画の成果と課題（報告）
- ・「住民の取り組み」と「協働の取り組み」について（ワーク）

### ワークでの主なご意見

- ・高齢者の生きがいづくりの場となるサロン活動が充実している
- ・サロンへの移動手段の確保が難しい
- ・リタイヤした高齢男性による地域活動が進んでいる
- ・日引ふれあい広場などの地域の自主活動が進んでいる
- ・各種団体や各種イベントの継続実施するための人材が不足している
- ・町内の企業を知らない学生が多く、働く先がないと感じる人が多い
- ・各地区での行事の参加者の減少と継承が課題
- ・町内で同日にイベントを開催する際の連携、調整が必要

町民ワーキング委員会の様子



## 第2回 11/20 (水) 13:30～15:30 高浜町役場

### 会議概要

- ・現総合計画の総括について (報告)
- ・「10年後のめざす姿」について (ワーク)
  - 政策分野① 保健・医療・福祉・防災
  - 政策分野② 産業振興・観光振興
  - 政策分野③ 住環境整備・環境保全

### ワークでの主なご意見

- ・子どもから高齢者までみんなが元気なまち ①
- ・地域医療が充実した安心したまち ①
- ・いくつになっても「社会的役割」(必要とされる)がある ①
- ・誰もが必要とされる ①
- ・自助共助で災害に備えるまち ①
- ・災害に強い地域づくり ①
- ・高浜ブランドの価値向上、今ある資源を磨く ②
- ・やる気ある人の応援、若者のチャレンジを応援 ②
- ・生産する場と販売する場をつなげる仕組 ②
- ・生まれ育った町で働ける町 ②
- ・美しい、統一感のある景観、町並 ③
- ・夜でも明るい、安全・安心なまち ③
- ・子どもから高齢者まで、また、性別、障がいのあるなしにかかわらず全ての人にやさしい町 (バリアフリー) ③
- ・”もったいない”意識の醸成、高揚 ③
- ・町民だけでなく町外の人にも参加してもらおう保全活動 ③

### 町民ワーキング委員会の様子



### 第3回 12/11(水) 13:30~15:30 高浜町役場

#### 会議概要

- ・「10年後のめざす姿」について(ワーク)
  - 政策分野④ 子育て・教育
  - 政策分野⑤ 住民自治・協働
- ・まちの「将来像」とその実現に向けた「住民主体のまちづくり」について(ワーク) ⑥

#### ワークでの主なご意見

- ・大学などへの進学で町外に出ても帰りたいと思える町 ④
- ・みんなが幸せ、健やかに子育てできる、保育所、「楽校」 ④
- ・地域ぐるみの子育て体制がある ④
- ・祭りには必ず帰ってきたい高浜 ④
- ・地域内のコミュニティが保たれている ⑤
- ・地域で主役になれる場がある ⑤
- ・子どもを巻き込んで、小中高生と一緒に活動・組織がある ⑤
- ・地域、全国、海外、様々な交流と学びがある ⑥
- ・自然あふれる、海、山、自然あふれる、自然と共存する ⑥
- ・住みよいまち、住んでよかった、みんなが住みやすい 笑顔あふれて暮らす ⑥
- ・隣近所での助けあい、人や地域とのつながり、おたがいさまの精神、世代を超えた交流、これらは自慢であり、次世代にもつなぎたい ⑥
- ・みんなが高浜町の一員だと自覚する ⑥
- ・頑張る人を応援する、「我がごと」として関わってみる ⑥
- ・一人ひとりができることを考える ⑥
- ・住む人が自分たちのために各自の力を発揮 ⑥

#### 町民ワーキング委員会の様子





○総合計画検討委員会

第1回 9/26 (木) 13:30～15:30 高浜町役場

会議概要

- ・策定方針とスケジュール説明
- ・現総合計画の総括資料の作成

第2回 10/30 (水) 13:30～16:00 高浜町役場

会議概要

- ・現総合計画の総括資料の作成
- ・「次期計画に向けた課題」「10年後のめざす姿」について (ワーク)  
政策分野① 保健・医療・福祉・防災  
政策分野② 産業振興・観光振興

第3回 11/15 (金) 13:30～16:00 高浜町役場

会議概要

- ・「次期計画に向けた課題」「10年後のめざす姿」について (ワーク)  
政策分野③ 住環境整備・環境保全

第4回 11/27 (水) 13:30～16:00 高浜町役場

会議概要

- ・「次期計画に向けた課題」「10年後のめざす姿」について (ワーク)  
政策分野④ 子育て・教育・協働・その他

検討委員会の様子





## 【意見交換実施状況】

- 子育て世代との意見交換会 11/21（木）19:00～20:45 高浜町役場  
総合計画への住民意見を反映するため、子育て世代と総合計画町民ワーキング委員との意見交換会を開催（ワークショップ形式）
- 【参加者数】子育て世代 8名（男性2名、女性6名）  
町民ワーキング委員 7名（男性6名、女性1名）

### 意見交換会での主なご意見

#### 子育て施策関連

- ・「高浜町で産まれた！」といえるよう、町内で出産できる環境整備
- ・多胎児育児に訪問型のサービス（訪問看護）の導入
- ・子どもの急な病気に（夜間）対応できる病院や施設整備

#### 地域との関わり

- ・地域に愛着を持った子どもが増えるように
- ・老人と子どもの交流イベントを行う場があると良い
- ・地域の人たちと子どもがつながる、関わる地域にする
- ・親子の交流ができる町であってほしい

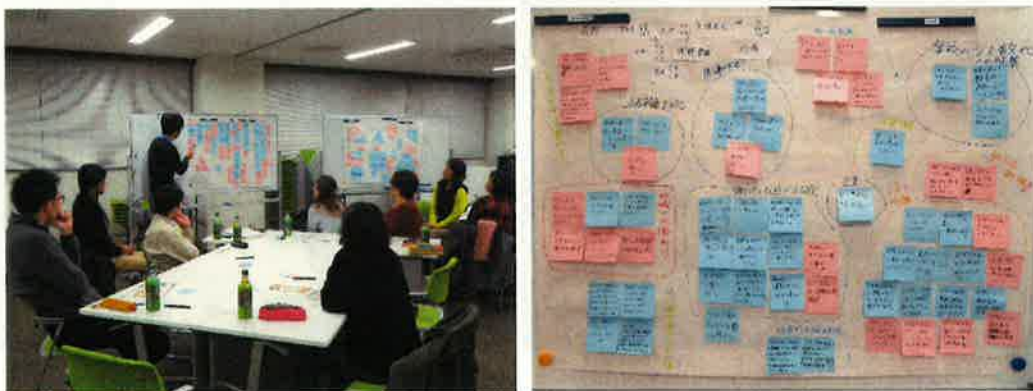
#### 公園、遊び場

- ・子どもから大人まで一緒に汗をかける遊び場を作る
- ・一つの遊び場で年齢に応じた遊びができる場所を設ける
- ・一つの遊び場で最低2種類の機能を持った場をつくる
- ・交流の場となる地域の拠点づくり

#### その他

- ・大学や進学で町外に出ても、「地元に戻って仕事しよう」、あるいは、「家庭を持ちたい」と思えるようになるとよい
- ・子育て世代が助けてほしい時、経験者がすぐ手助けできるマッチングサービスがあるとよい

### 意見交換会の様子



○住民団体（おやジューの会）との意見交換会

11/12（火） 11:00～12:00 瑞祥苑

総合計画への住民意見を反映するため、住民団体と総合計画検討委員との意見交換会を開催

【参加者数】おやジューの会会員 10名

総合計画検討委員 4名

意見交換会での主なご意見

- ・地域の文化や文化財、文化活動に対して行政の積極性が感じられない
- ・高齢化社会を見据えて施設のバリアフリーに取り組むべき
- ・個別計画と総合計画が連携しているようには感じられない
- ・住民意見を聞く機会を増やしてほしい
- ・医療、防災、鳥獣害対策など、広域的視点が必要な施策は計画の広域化が必要
- ・老朽空き家対策に取り組んで欲しい
- ・子ども（孫）を安心して遊ばせることができる場所が少ない
- ・（総合計画の）基本構想に高浜らしさを入れるべき
- ・新しい施設整備ではなく、既存施設をリニューアルし、2内容充実を図るべき
- ・色々な取組をしているが、取組結果や総括などの広報がなされておらず、それら総括を踏まえたフォローアップを丁寧に行うべき
- ・行政の取組への認知が低い、PRを上手く行っていくべき
- ・（6次化施設について）行政と議員、住民の理解醸成が図られているとは感じられない。納得できる丁寧な説明、理解醸成を図るべきではないか
- ・財政面との整合のある計画作りをしていくべき
- ・地区や地域の声を吸い上げる仕組みを構築してはどうか

## 総合計画審議会委員

令和元年12月18日現在

任期：委嘱日 令和元年12月18日～総合計画答申（令和2年11月頃）

	氏名	所属	備考
1	西野 朋宏	高浜町議会議員	町議会議員
2	小幡 憲仁	高浜町議会議員	町議会議員
3	野嶋 慎二	福井大学工学部・工学研究科 教授	学識経験者
4	福田 敏弘	教育委員	
5	田中 康隆	高浜町商工会 会長	
6	大角 一馬	若狭高浜観光協会 会長	
7	板倉 健治	若狭高浜漁業協同組合 代表理事組合長	
8	時下 昭一	J A若狭 高浜支店 支店長	
9	石本 祥次	高浜町区長連合会 会長	
10	大森 弘子	高浜まちづくりネットワーク 会長	
11	一瀬 邦生	高浜町社会福祉協議会 会長	
12	山下 孝之	高浜町老人クラブ連合会 会長	
13	角谷 美佐子	高浜町女性ネットワーク 会長	
14	正木 久康	高浜町PTA連合会 会長	
15	長田 隆	日本労働組合総連合会福井県連合会嶺南地域協議会 議長	

## 総合計画町民ワーキング委員会委員

令和元年10月24日現在

任期：委嘱日 令和元年10月17日～総合計画基本構想案策定終了

	氏名	所属	備考
1	中嶋 正光	高浜町商工会 青年部長	
2	須藤 竜乃介	若狭高浜観光協会 事務局	
3	濱側 智洋	若狭高浜漁業協同組合 和田支所	
4	今井 光	J Aわかさ 高浜支店 共済課長	
5	前田 和敬	高浜地区区長会 会長	
6	大塚 武志	和田地区委員会 委員長	
7	池本 学	青郷地区区長会 会長	
8	田中 康正	内浦地区区長会 副会長	
9	月田 ショーン	高浜まちづくりネットワーク 地域おこし協力隊	
10	田淵 誉	高浜町社会福祉協議会 事務局次長	
11	的場 輝夫	高浜町老人クラブ連合会 副会長	副委員長
12	萩野 豊子	高浜町婦人会 副会長	
13	浅野 幸典	社会教育委員兼公民館運営審議会 会長	委員長
14	山本 太史	高浜町PTA連合会 副会長	
15	山中 義和	一般公募	
16	中嶋 望晶	一般公募	

## 総合計画策定委員会委員

令和元年10月24日現在

任期：令和元年9月2日～総合計画策定終了

	氏名	所属	備考
1	野瀬 豊	町長	
2	岡本 恭典	副町長	
3	釣本 眞史	教育長	
4	村橋 誠一	総務課 課長	
5	永禮 義己	総合政策課 課長	
6	時岡 昭浩	防災安全課 課長	
7	富永 輝生	産業振興課 課長	
8	阪本 新也	建設整備課 課長	
9	松崎 邦雄	住民生活課 課長	
10	二十田 和美	税務課 課長	
11	盛次 晃則	会計管理者	
12	松岡 宏	保健福祉課 課長	
13	谷 裕子	保育所 所長代表	
14	奥本 幸一	上下水道課 課長	
15	的場 均	教育委員会事務局 局長	
16	齊藤 紀明	議会事務局 局長	

## 総合計画検討委員会委員

令和元年10月24日現在

任期：令和元年9月9日～総合計画策定終了

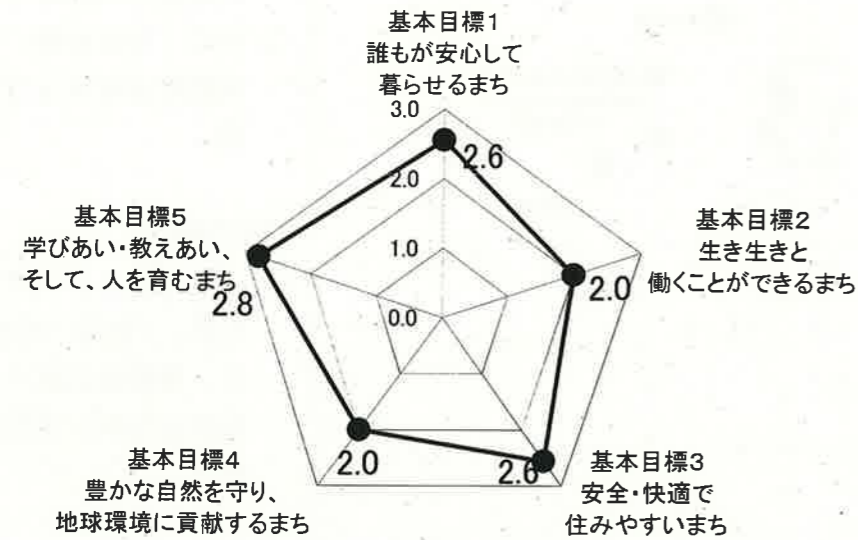
	氏名	所属	備考
1	磯野 知司	総務課 課長補佐	
2	金森 智亨	総務課 主査	(財政)
3	中川 宗浩	総合政策課 課長補佐	
4	米川 浩司	防災安全課 課長補佐	
5	千坂 浩一郎	産業振興課 課長補佐	(農林水産)
6	仲野 博之	産業振興課 課長補佐	(商工観光)
7	浜見 宏樹	建設整備課 主査	
8	佐久間 操	住民生活課 課長補佐	
9	高田 敏浩	税務課 主査	
10	千里 幸一	会計室 主査	
11	富田 力	保健福祉課 課長補佐	(保健G)
12	山崎 徹	保健福祉課 主査	(福祉G)
13	山本 恭弘	上下水道課 課長補佐	(技術)
14	辻田 博幸	上下水道課 主査	(事務)
15	小林 英文	教育委員会事務局 次長	(学校教育)
16	堀口 剛	教育委員会事務局 次長	(社会教育)
17	荒井 博貴	議会事務局 主査	

永禮 義己	総合政策課 課長	事務局
杉本 泰寛	総合政策課 課長補佐	事務局
野村 芳	総合政策課 技師	事務局

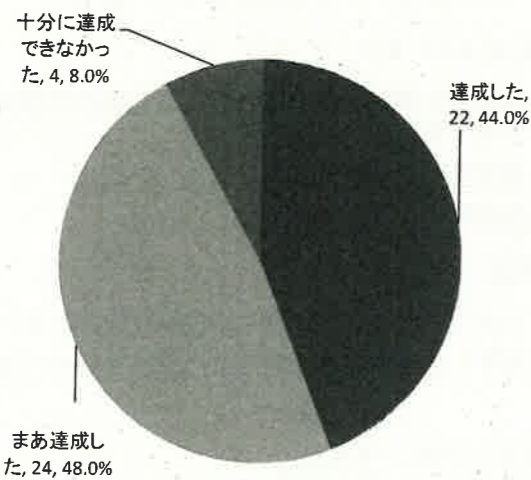


達成の自己評価(全体)

「基本目標5」が最も高く2.8、「基本目標2」「基本目標4」が2.0と低い



50 施策方針の達成状況をみると、「まあ達成した」が最も多く24 施策で48%、一方の「十分に達成できなかった」は4 施策8%



- 「十分に達成できなかった」施策方針
- ・ 景観整備を推進します
  - ・ 環境関連の協働の取り組みを支援します
  - ・ 廃棄物発生抑制、削減を促進します
  - ・ リサイクル等を推進します

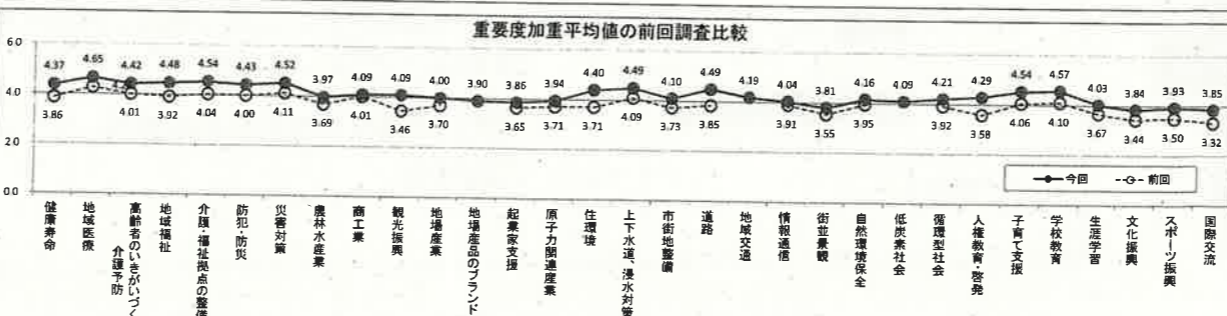
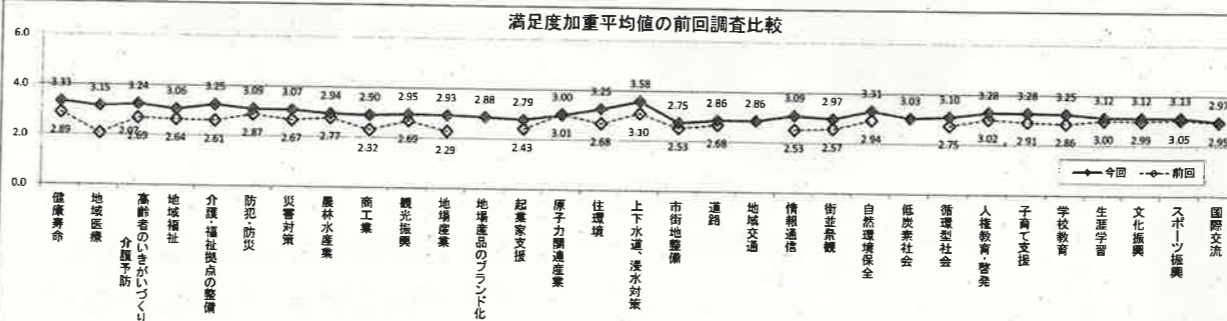
※ 基本目標に基づき、分野別目標、施策方針を位置付け、施策方針ごとに達成状況を「3：達成した」「2：まあ達成した」「1：十分に達成できなかった」の3段階で評価した

住民の評価(住民意識調査結果)



- 満足度の上位5位
- 1位 上下水道地・浸水対策 (基本目標3)
  - 2位 健康寿命 (基本目標1)
  - 3位 自然環境保全 (基本目標4)
  - 4位 人権教育・啓発 (基本目標5)
  - 5位 子育て支援 (基本目標5)
- 満足度の高い取組が位置付けられている基本目標5は、自己評価も2.8と高くなっている
- 重要度の上位5位
- 1位 地域医療 (基本目標1)
  - 2位 学校教育 (基本目標5)
  - 3位 介護・福祉拠点の整備 (基本目標1)
  - 4位 子育て支援 (基本目標5)
  - 5位 災害対策 (基本目標1)
- 安心安全、子育てに係る項目の重要度が上位となっている
- 重要度が最も高い「地域医療」の満足度は10位となっている

【参考】



- 【参考】前回調査比較
- 今回調査は前回と比較し、満足度、重要度ともに加重平均値が高い
  - 「地域医療」の満足度が大幅に高まり、その他にも「介護・福祉拠点の整備」「地場産業」は平均を大きく上回って高まっている
  - 重要度について、前回上位となっている項目の多くが、今回も上位となっている
- ※ 前回調査と今回調査では調査項目が異なるため単純な比較はできない
- ※ 前回調査を今回調査項目に読み替え、再編しているところもある
- ※ 該当する調査項目がないところは数値を記載していない(前回調査：地場産品のブランド化、地域交通、低炭素社会)



基本目標1  
誰もが安心して暮らせるまち  
[保健・医療・福祉・防災]

<目指したい姿(目標イメージ)>  
住民等と行政がお互いに役割分担をし、住民一人ひとりが健康で、暮らしの安全・安心を実感できるまちづくりが着実に進められているイメージ

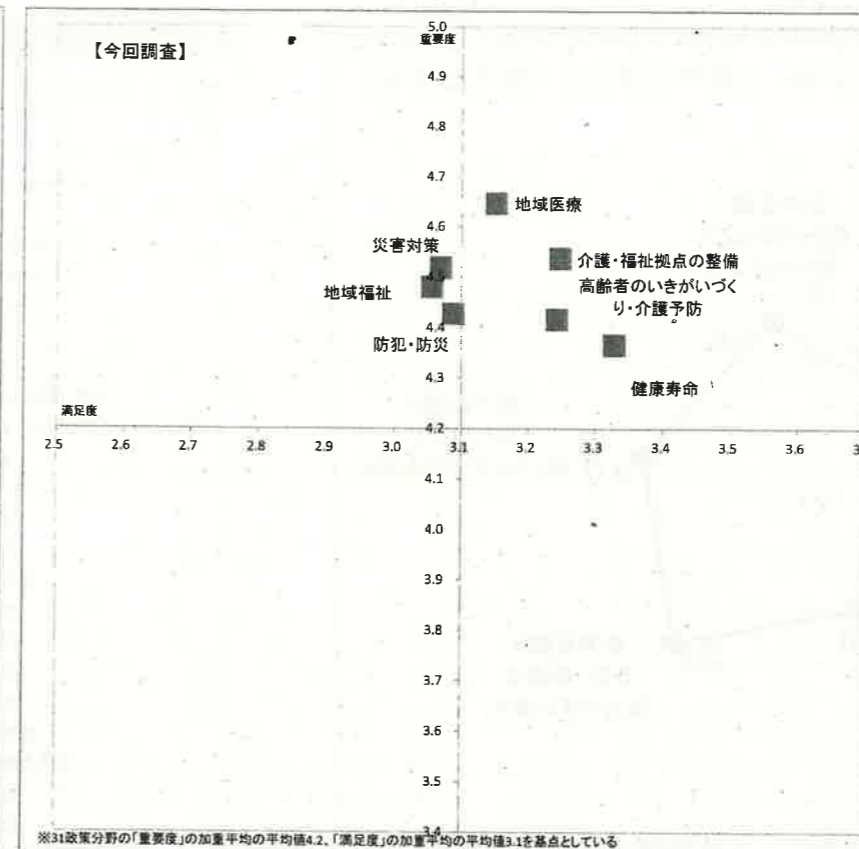
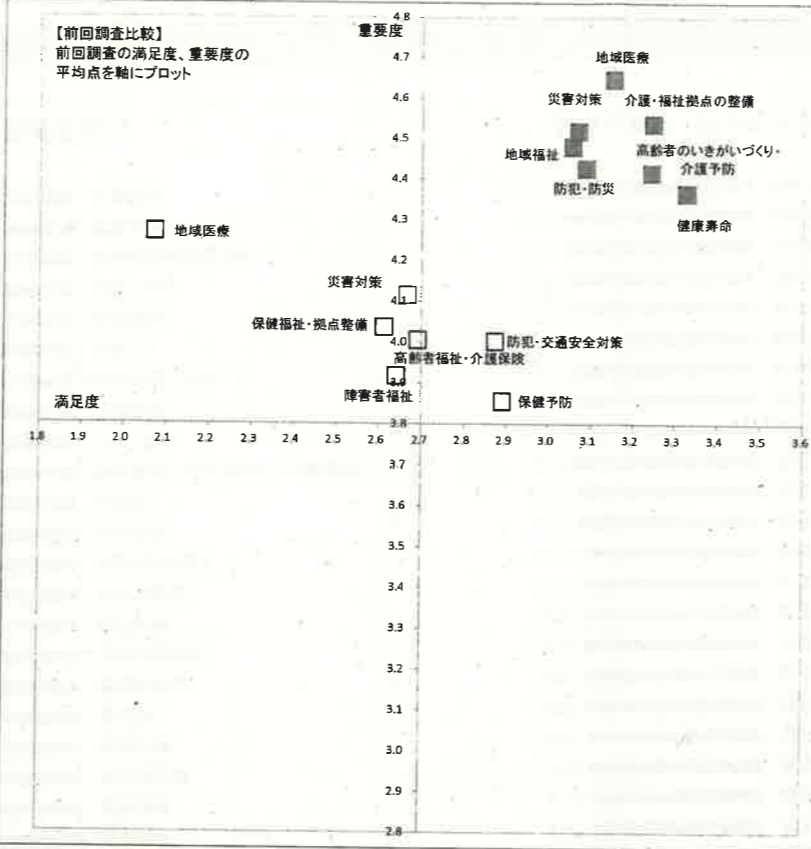
指標	実績					目標	単位
	H20	H27	H28	H29	H30	R2	
常勤医師数	5	12	12	13	12	15	人
福祉サービスの満足度	2.69	—	—	—	—	3	点
雨水対策事業整備率(和田地区)	—	—	0.5%	1.3%	1.3%	46%	%
町道柵々線整備率	—	—	3.6%	7.3%	21.8%	60%	%
防災に関する満足度	2.67	—	—	—	—	3	点
情報通信に関する満足度	2.53	—	—	—	—	3	点

分野別目標

1-1	医療、保健、福祉が連携し、安心して暮らせるまち
1-2	支え愛・助け愛で、人にやさしい福祉サービスが得られるまち
1-3	地域の人々が協働で築く、安全安心なまち

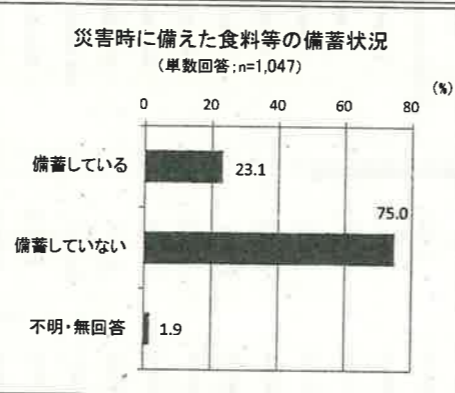
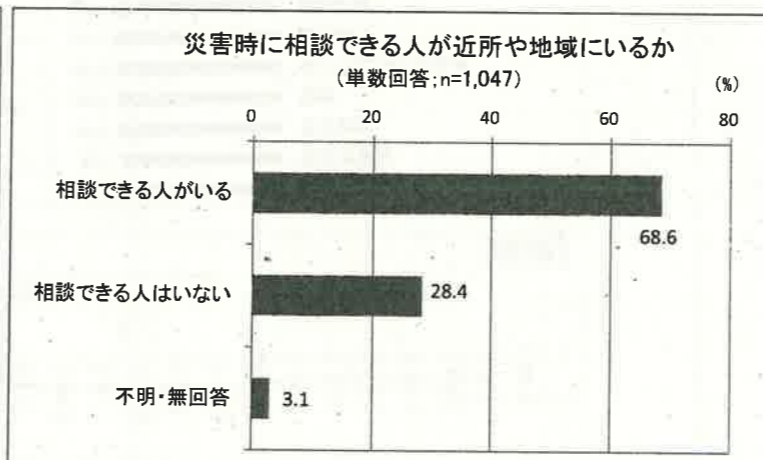
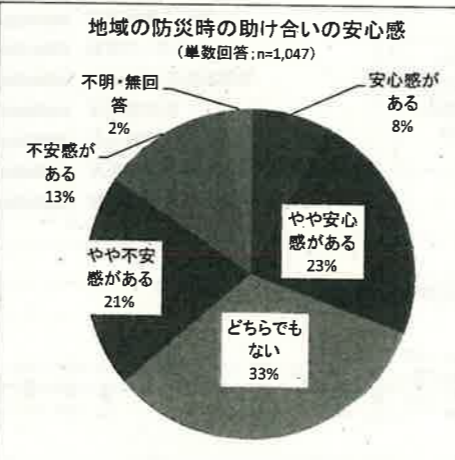
達成の自己評価(施策方針ごと)		評点→ 1 2 3		
1-1-1	住民一人ひとりの健康寿命を延伸します			
1-1-2	高浜地域医療センターを設立します			
1-1-3	地域医療を支える人材を育成・確保します			
1-2-1	生きがいづくりや自己実現を支援します			
1-2-2	介護予防対策を実現します			
1-2-3	地域ケア体制を構築します			
1-3-1	平常時の備えを充実します			
1-3-2	災害時の対応を充実します			
1-3-3	原子力安全対策を充実します			

【住民意識調査結果に基づく施策の満足度と重要度】



- 【前回調査比較】
- 全ての取組において満足度、重要度ともに高まっている
  - 特に「地域医療」の満足度が高まっている
- 【今回調査】
- 「地域福祉」「災害対策」「防犯・防災」は、重要度が高く、満足度が低い領域にある

【住民意識調査結果】



- 地域での防災時の安心感は約30%（「安心がある」「やや安心感がある」の合計）となっている
- 「災害時に近所や地域で相談できる人がいない」が30%近くとなっている
- 災害時に備えた食料等の備蓄をしている人は23%に留まる

- <「基本目標1」に係る自由記述76件>
- 福祉(41件)
    - 運転ができなくなってから(運転免許証返納後)の生活が不安(11)
    - 高齢者のための介護施設が欲しい(8)
    - 高齢者向けの居場所が欲しい(6)
  - 医療(22件)
    - 子育てのためには産科・小児科が必要(8)
    - 高齢化を見据えた医療制度の充実を望む(3)
  - 防犯・防災(13件)
    - 地域によっては夜が暗いので街灯の設置を望む(4)
    - 地すべり・崩落への対策が必要(3)
- ※一部抜粋しており、合計の件数と一致しない



1-1 医療、保健、福祉が連携し、安心して暮らせるまち

<行政の取組>

- たかはま健康チャレンジプランを策定し、住民自身が健康づくりを進める施策を展開
- 病児・病後児保育施設（若狭高浜病院附属 病児・病後児保育施設 サン・スマイル）を整備
- 福井大学寄附講座（地域プライマリケア講座）により町内をフィールドとした医学教育システムを確立
  - ・町内常勤医数（H20→H30）：5名⇒12名
- 健康のまちづくりアカデミーを開催
- 健康やまちづくりに興味のある地域住民との対話や、出会い交流の場の創出を目的とした「健高カフェ」を月1回開催

<協働の取組>

- 住民自身が健康づくりの発信者、担い手となり事業を展開（たかチャレ推進委員会約40名参加）
- 健高カフェの開催により気軽に議論ができる関係を構築
- 健康づくり推進員による健診受診勧奨を実施
- 高浜医療サポーターの会による各種情報発信
- 健康のまちづくり友好都市連盟を組織し、地域医療や健康のまちづくりの先駆的事例を発信
- 医療・介護・福祉系専門職で組織する「たかケアネット」と協働し、事例検討等ネットワークを拡大

<残された課題>

- 社会参加をする人を増やす仕組みづくり
- 有機的連携のさらなる充実
- 医療・介護・福祉ニーズの多様化
- 寄附講座教員（指導医）、医療従事者の育成・確保
- 地域住民の積極的なアカデミーへの参加
- ★健康カフェの参加者の固定化、減少

1-2 支え愛・助け愛で、人にやさしい福祉サービスが得られるまち

<行政の取組>

- 高齢者の閉じこもり予防や生きがいづくりを目的に高齢者の地域活動の拠点となる集いの場（サロン）の設立推進
  - ・開催地区数（H23→H30）：17箇所→38箇所
  - ・参加人数（H23→H30）：2,070人→3,215人
- 老人クラブ連合会の自主活動（サークル活動等）を通して、高齢者の健康、生きがい、仲間づくりを支援
- 在宅要介護高齢者への介護用品の支給
- 介護職員初任者研修費用助成による介護人材確保

<協働の取組>

- サロン活動の中で、介護予防等の講師を派遣するなど行政と各地区が協働し、高齢者の閉じこもり予防や生きがいづくりを目的とした地域交流の場を創出
- 公民館講座との共催や若狭高浜病院のリハビリ専門職を講師として招くなど、関係機関と協働し介護予防事業を推進
- 町内のサロンや企業等で「認知症サポーター養成講座」を開催、認知症ケアネットワークへの参加協働体制を構築
- 民生委員、社会福祉協議会、在宅介護支援センター、行政等が協働し、高齢者世帯の見守り活動「ご近助見守りネットワーク」の体制を構築
- ★リタイア世代の男性、1人暮らし高齢者などを対象とした集いの場の実施
- ★廃校を活用した集いの場の開催
- ★障害者の自主的な交流会を年に1回開催（障がいや年齢に関係なく）

<残された課題>

- 高齢者の積極的な参加を促し、フレイル予防を推進
- 高齢者は増加しているが、老人クラブ連合会の会員数は減少傾向にあり、活動への影響が懸念
  - ・会員数（H23→H30）：2,761人→2,344人
- 介護サービスを支える人材の不足
- 認知症高齢者の増加
- 超高齢化社会の進展により、地域福祉活動の必要量は大幅に増大
- ★サロンへの移動手手段の確保が課題となっている
- ★気がかり世帯への対応が難しい
- ★ゴミ出し高齢者にはゴミ出しはキツイ。ゴミ捨て場までが遠い
- ★移送介護タクシーが不足している

1-3 地域の人々が協働で築く、安全安心なまち

<行政の取組>

- 防災ガイドブックやハザードマップなど緊急時に確認できるよう工夫しながら作成し、保存版として各戸配布
- 各区による自主防災組織の設立推進
  - ・組織率 63%（36区/57区）
- 防災資機材の整備、訓練、研修等の活動支援
- 災害時要支援者台帳システムを整備
- 緊急情報ネットワークシステム、防災行政無線の強化
- 放射線防護施設を整備 6施設（内浦公民館、旧音海小中学校、青郷小学校、中央体育館、役場庁舎、若狭消防高浜分署）

<協働の取組>

- 自主防災組織の編成、防災セミナーの開催、防災リーダーの育成、地区防災訓練等を実施
- 町内小中学校、保育所、地域住民、病院、警察、消防等が参加した地震・津波避難訓練を実施
- 国・県・町が連携して実施する原子力防災訓練への住民参加

<残された課題>

- 平常時から防犯・防災に関する備え、知識の強化
- 避難行動要支援者名簿の消防、警察、自主防災会への提供
- 地域ぐるみで避難行動を実行する仕組みづくり
- ★自主防災組織のない地区がある
- ★地区で実施する避難訓練の質の向上

★：第1回町民ワーキングでの「住民主体の取組」「協働の取組」に係る意見



基本目標2  
いきいきと働けることができる  
まち [産業振興・観光振興]

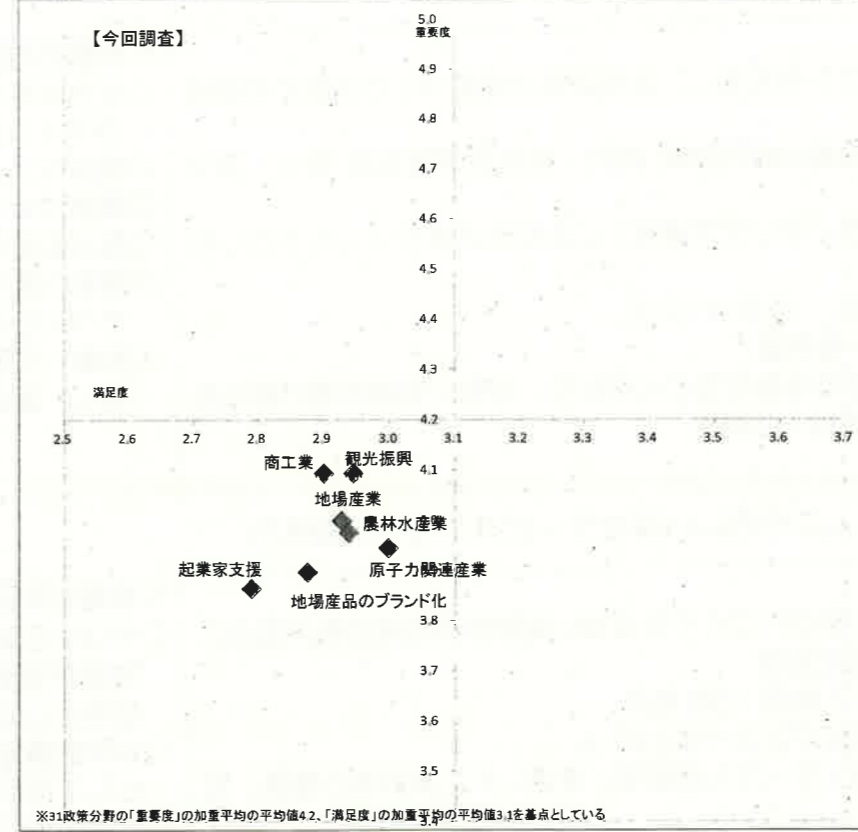
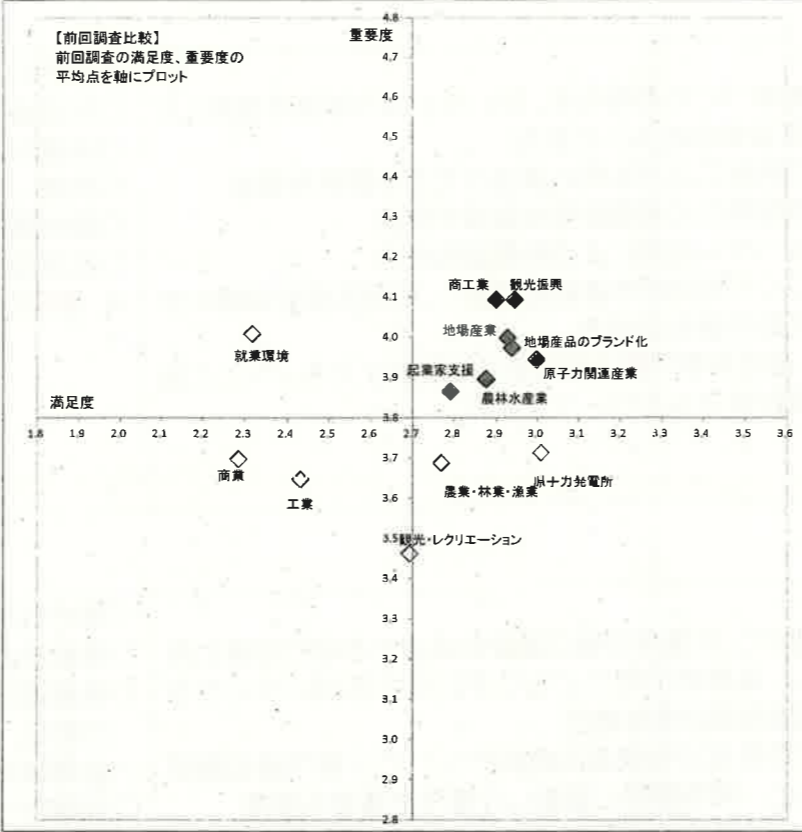
<目指したい姿(目標イメージ)>  
地場産業の活性化と原子力産業の活用がより進み、さらには選ばれる町となるための、「まち・地域・産品」のブランド化が進み、新たな魅力が創出されているイメージ

指標	実績					目標 R2	単位
	H20	H27	H28	H29	H30		
農業生産基盤・地すべり	2.6	—	—	—	—	3	点
イチゴ、野菜加工など	—	50	70	76	137	200	人
年間鳥獣捕獲件数	40	1,258	1,383	992	1,102	1,000	頭
漁業者の所得向上率(開業10年後10%)	—	—	—	—	—	2%	%
年間ふるさと納税額	—	39百万	21百万	14百万	28百万	5千万	円
グルメ観光入込客数	11.7万 (H21実績)	12万	11万	11万	11万	20万	人
自発的な住民まちづくり事業件数(年間)	—	8	9	8	3	10	件
まちづくりファンド設置	—	—	—	—	—	1	件
観光入込数	88万	85万	91万	85万	84万	100万	人
外国人観光客数	—	500	621	1,000	1,242	8千	人
年間販売額	—	—	0	0	50万	4千万	円
創業・起業件数(累計)	—	4	0	3	4	10	件

分野別目標	
2-1	地場産業が元気で、生きがいを持って働けるまち
2-2	ブランド化を推進し、選ばれるための魅力を創出するまち
2-3	起業家を支援し、新たな産業と働く魅力を創出するまち
2-4	原子力と共生し、関連産業を育てるまち

達成の自己評価(施策方針ごと)		評点 → 1 2 3		
2-1-1	鳥獣害水産害ゼロを目指します			
2-1-2	地場産業の利活用を拡大します			
2-1-3	経営能力強化後継者育成、雇用支援を推進します			
2-2-1	閃きの発掘、及び閃きの実際の活動に支援します			
2-2-2	販路開拓、及びブランド価値向上に向けて継続的に支援します			
2-2-3	ウェブサイトによる販売拠点づくりを支援します			
2-2-4	ブランド化と観光集客の相乗効果を実現します			
2-3-1	「ニーズ」と「シーズ」を発掘・育成します			
2-3-2	起業家のチャレンジを支援します			
2-3-3	事例等を調査し、ビジネスモデルを構築します			
2-4-1	業務の絞込みのための実態調査を実施します			
2-4-2	育成のための支援体制を構築します			
2-4-3	品質向上とOJT定着のために支援します			

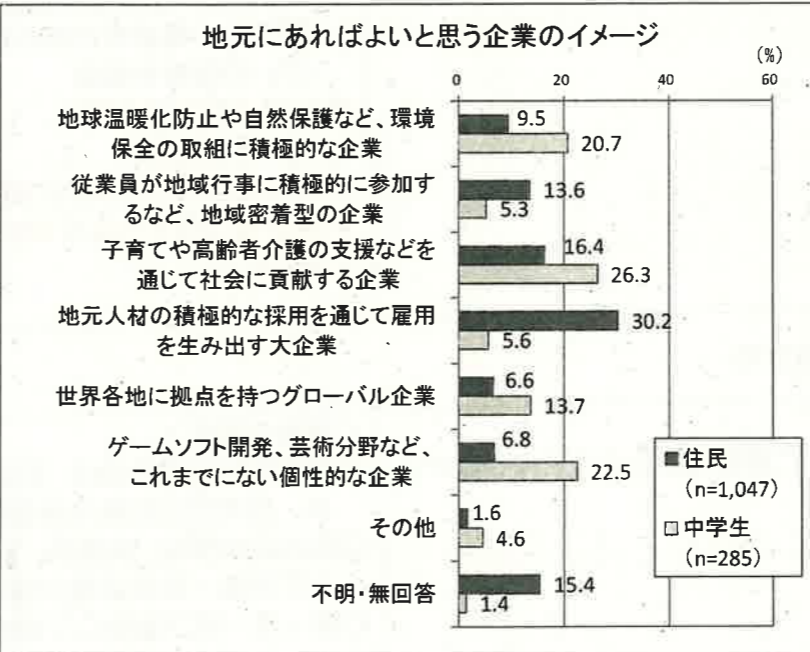
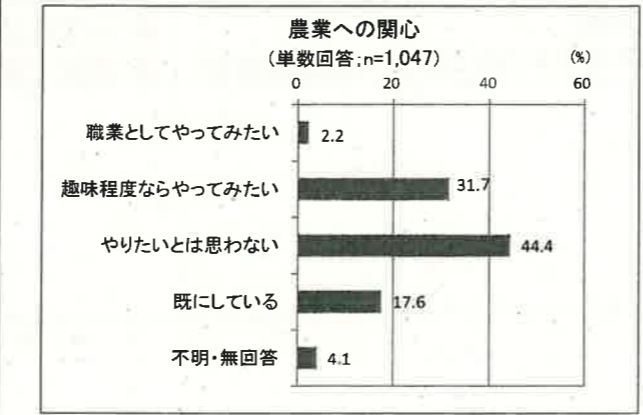
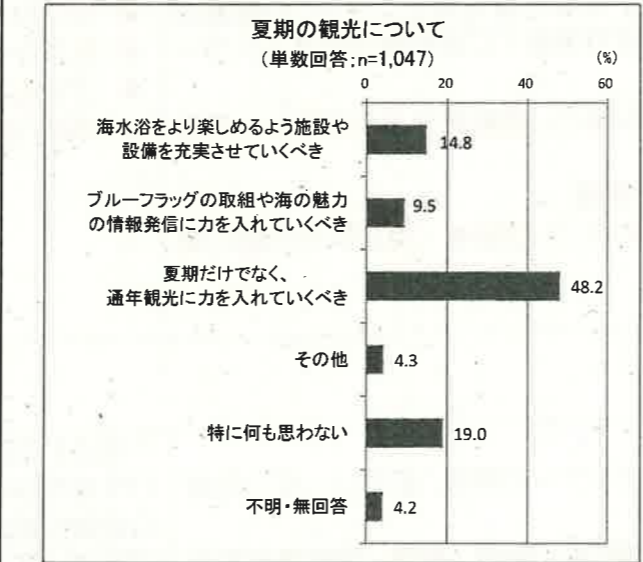
【住民意識調査結果に基づく施策の満足度と重要度】



【前回調査比較】  
○ 全ての取組において満足度、重要度ともに高まっている  
○ 前回調査では取組の満足度にばらつきがみられたが、今回は概ね同程度の評価が得られている

【今回調査】  
○ 全ての取組が満足度、重要度ともに平均を下回る領域にある

【住民意識調査結果】



○ 「夏期だけでなく、通年観光に力を入れるべき」と過半数近くの住民が考えている

○ 「趣味程度であれば農業をやってみたい」と約30%の住民が農業へ関心を持っている

○ 地元であればよいと思う企業として、住民は「地元人材を積極的に雇用する大企業」、中学生は「子育てや高齢者介護などを通じて社会に貢献する企業」が最も多い

<「基本目標2」に係る自由記述105件>

- 観光振興(37件)  
道の駅は他地域と比較するといろいろと問題点が目立つ(6)  
ブルーフラッグ認定は良い、よりPRすべき(6)  
ブルーフラッグは話題のみ先走り過ぎではないか(5)
  - 商工業(26件)  
若い世代の就労先となるような企業を誘致して欲しい(11)  
利便性や商品の取扱量などに優れた全国チェーン店などが欲しい(9)
  - 農林水産業(18件)  
害獣対策を充分行って欲しい(5)
  - 地場産業など(16件)  
地元で新たな産業を立ち上げる(5)
  - 原子力関連産業(8件)  
原子力発電所に頼らない(産業構成、税金など)方向性を持つべき(7)
- ※一部抜粋しており、合計の件数と一致しない



2-1 地場産業が元気で、生きがいを持って働けるまち		
<p>&lt;行政の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○鳥獣被害に対し、捕獲・防御・追払いを総合的に取り組む鳥獣被害対策実施隊を中心とした体制を構築</li> <li>○農家所得の向上を目指し、大規模園芸ハウスによるトマトやイチゴの栽培を開始</li> <li>○漁協組織の強靱化と漁価向上、あわせて観光誘客など6次産業化施設の整備を促進</li> <li>○商談会や展示会への出展など販路の開拓を支援</li> <li>○新規創業や新規分野への事業拡大を目指す事業者への支援</li> </ul>	<p>&lt;協働の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各集落において、捕獲・防御・追払いが適切に実施されているかを確認する集落点検を実施</li> <li>○今寺区が中心となった棚田オーナー制度</li> <li>○食育を推進し、地場の魚や農産物を給食等に積極的に活用</li> <li>○地域の地場産品を加工販売する地域商社が設立</li> <li>○商工会による地場産品のブラッシュアップを実施</li> <li>○就職希望者への情報提供を広く実施するため舞鶴市と連携し就職フェアを共同開催し、事業者の求人への支援を実施</li> </ul>	<p>&lt;残された課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○集落点検で発見できた問題を、集落自らが改善できるような体制構築</li> <li>○時代の変化に合わせた農業者や漁業者への支援</li> <li>○地場産品のブラッシュアップ後の販売状況など経過確認と販路拡大</li> <li>○後継者育成の意思を持たない事業者の増加</li> <li>○地元求職者に対する地域の就業求人情報の発信</li> <li>○町内労働力の正確な情報収集</li> <li>★高浜町の企業を知らない学生が多く働く先がないと感じる人も多い。就職相談会などの情報が届いてない。</li> </ul>
2-2 ブランド化を推進し、選ばれるための魅力を創出するまち		
<p>&lt;行政の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○町内の閃きまちづくり活動への支援</li> <li>・閃きまちづくり補助金（H22～）：102件</li> <li>○美しい海岸を地域全体で継続して保全していく中でブルーフラッグの認証取得を推進し、アジアで初めて取得</li> <li>○観光パンフレットを見直し、ふるさとパンフレット大賞を受賞</li> <li>○地域資源である海を最大限生かした誘客のためのイベント等を開催</li> </ul>	<p>&lt;協働の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○芝桜を植栽管理することで、地域内活性に寄与する取組みを実施（横津海区）</li> <li>○漁火想から若手花火グループ「櫓龍」が活躍</li> <li>○自然環境保全と地域活性のためビオトープを整備し、子どもたちへの環境教育を実施（中寄区）</li> <li>○内浦竹の活用を推進（内浦竹竹クラブ）</li> <li>○高級食材のブランド化として漁業者や養殖事業者による若狭ふぐや若狭ぐじの特産化を推進</li> <li>○観光協会と民宿事業者を中心とした浜ベキューの展開</li> <li>○漁協、民宿、観光協会、ライフセーバーなど地域事業者が連携し団体誘客として教育旅行を誘致</li> <li>○観光協会と若狭町の民間事業者がSUPやシーカヤックによるパドリングフェスタを実施</li> </ul>	<p>&lt;残された課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○継続した活動が困難な団体が多く、補助金申請件数自体も年々減少</li> <li>○補助団体の自主事業・収益増による自立化</li> <li>○事業者が主体的に動けるような環境整備・側面的支援策の構築</li> <li>○お土産品や夏季観光コンテンツの更なるブラッシュアップ</li> <li>★立ち上げ後、継続して活動するための人材、予算の確保</li> </ul>
2-3 起業家を支援し、新たな産業と働く魅力を創出するまち		
<p>&lt;行政の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○たかはま未来人サミットを実施し、新たな事業提案の機会を醸成</li> <li>○起業しやすい環境を整えるべく創業促進補助金を創設</li> <li>○商店街の振興とまちなか活性化のため空き家改修を積極的に支援しNPOによる運営やまちなか交流館利用により空き家利用が具現化</li> <li>○空き家情報バンクの設置</li> <li>○空き家リフォーム費用の支援</li> <li>○民間企業と学生と行政が連携し学生浜茶屋を運営</li> </ul>	<p>&lt;協働の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観光事業や商工業、地域まちづくりなど、分野を問わず集える取組みが増加したことで、多業種連携が促進</li> <li>○起業の相談窓口が商工会に一本化し、行政・銀行・地域づくり団体等が連携し起業家支援サポートを実施</li> <li>○まちなか交流館において、NPOなどによるまちなかにぎわい創出のための活動を実施</li> <li>○和田地区において、空き家、空き店舗の利用者の拡大、飲食店経営者の参入、ブルーフラッグ対応窓口が創出</li> </ul>	<p>&lt;残された課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実現可能提案の具現化と支援手法</li> <li>○町外起業家の受け入れ態勢構築やサポート事業の養成</li> <li>○コミュニティグループにおける収益事業の提案と支援による自立</li> <li>○セミナー等の継続的な開催</li> <li>○チャレンジ起業家の掘り起し</li> </ul>
2-4 原子力と共生し、関連産業を育てるまち		
<p>&lt;行政の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○県内企業情報誌への情報提供、舞鶴市との合同で就職フェアの実施</li> <li>○雇用者を対象として、資格取得、研修参加等の教育訓練事業に対する人材育成補助金の交付</li> </ul>	<p>&lt;協働の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○商工会と連携した地元企業に対するニーズ調査の実施</li> </ul>	<p>&lt;残された課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○電力事業者のニーズと地元企業の強みのミスマッチを解消</li> <li>○雇用維持と地元企業の人材育成のための新たな支援策の検討</li> </ul>

★：第1回町民ワーキングでの「住民主体の取組」「協働の取組」に係る意見



基本目標3  
安全・快適で住みやすいまち  
[住環境整備]

<目指したい姿(目標イメージ)>  
美しい自然を背景に住みやすい定住環境に恵まれ、買い物や医療、行政サービスなどワンストップで賄えるにぎわい拠点もあり、便利な地域交通が行き届いているイメージ

達成の自己評価(全体)

指標	実績					目標 R2	単位
	H20	H27	H28	H29	H30		
公共下水道整備率	—	72.00%	72.70%	72.70%	93.50%	94.30%	%
単身高齢者用住宅改修整備率(H27事業開始)	—	—	20%	20%	40%	80%	%
空き家活用件数(累計)	—	2件	18件	32件	50件	25件	件
転入超過数H52に転入超へ	▲60 (H22実績)	▲74	14	▲71	▲8	▲30	人
地域商社の設立	—	—	—	—	—	1組織	件
城山エリア交流人口	4.8万 (H21実績)	5.8万	6万人	5.5万人	5.9万人	10万	人
新庁舎整備 広域行政の推進の満足度	-2.56	—	—	—	—	3	点
赤ふんバス年間利用者数	10,802 (H24実績)	16,708	16,180	20,349 (土日含む)	19,871 (土日含む)	20,000	人
利用登録者数	700 (H24実績)	1,280	1,300	1,430	1,526	1,500	人

分野別目標

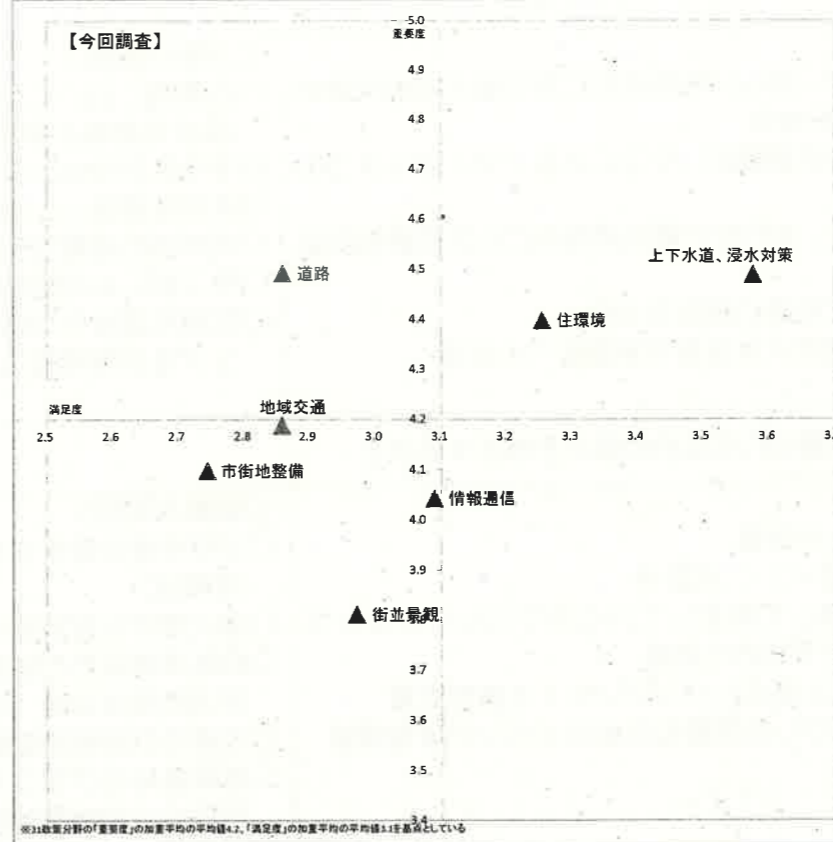
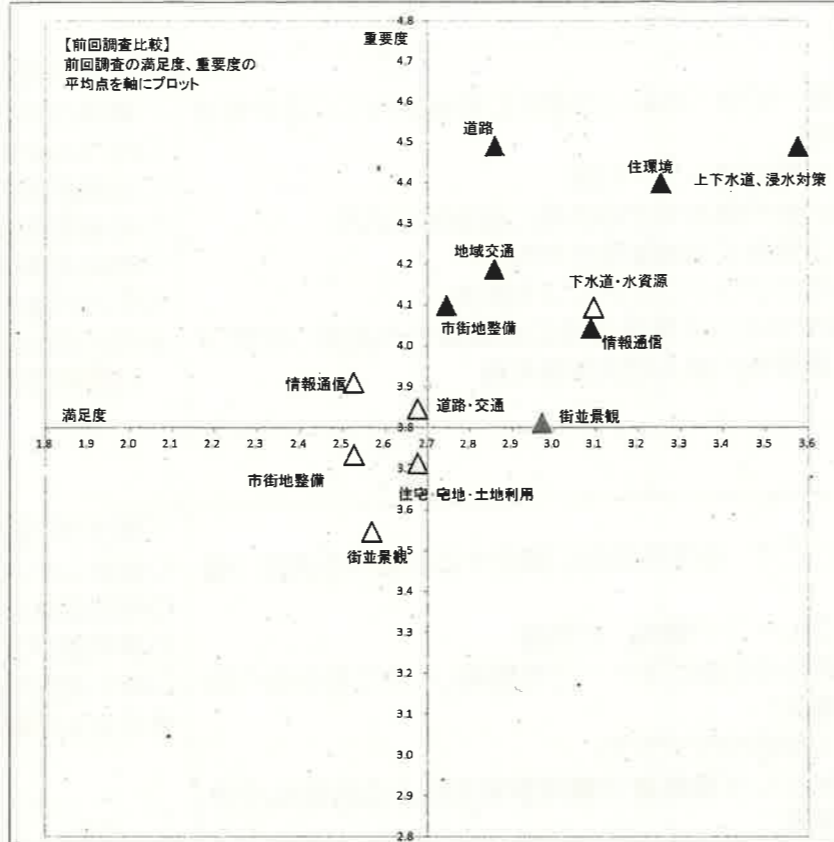
- 3-1 快適で住みやすく、移り住みたくなるまち
- 3-2 個性ある地域資源を活かした、あたたかい気のあるまち
- 3-3 地域交通ネットワークが整備され、利便性の高いまち

達成の自己評価(施策方針ごと)

評点→ 1 2 3

3-1-1 住みやすい生活環境を整備します	3
3-1-2 景観整備を推進します	2
3-1-3 情報提供および情報基盤の整備を推進します	2
3-2-1 安心・行政機能集約ゾーンを創出します	2
3-2-2 にぎわいと景観再生ゾーンを創出します	2
3-2-3 地域資源を活かした魅力的なまちづくりを推進します	2
3-3-1 地域交通ネットワークを再構築します	2
3-3-2 地域住民の利用促進策を実施します	2
3-3-3 道路ネットワークを整備します	2

【住民意識調査結果に基づく施策の満足度と重要度】



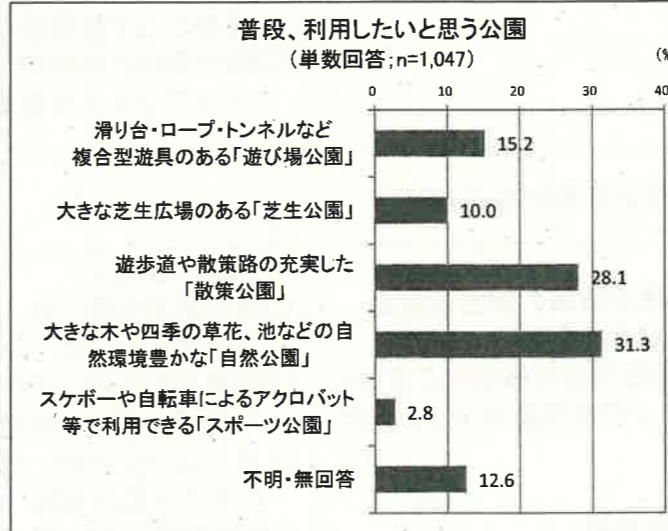
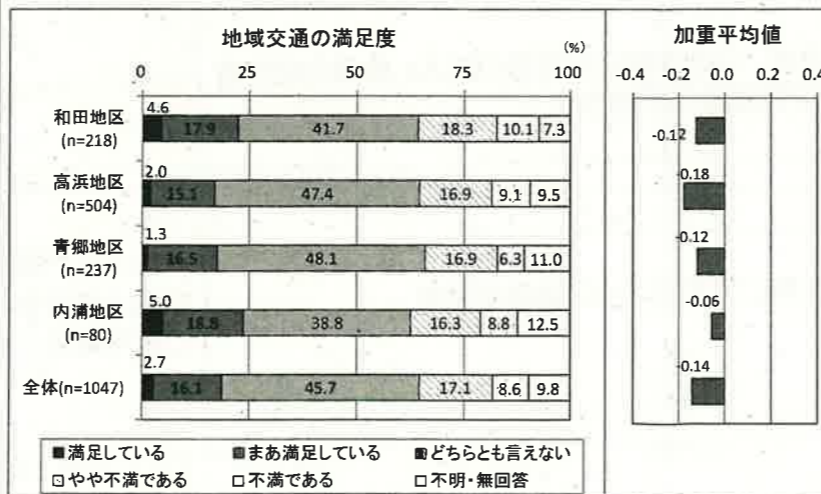
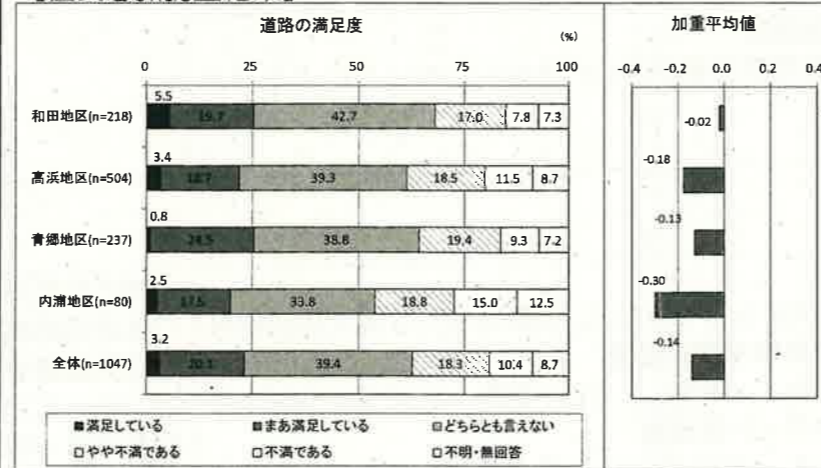
【前回調査比較】

- 全ての取組において満足度、重要度ともに高まっている
- 重要度が高く、満足度が低かった「情報通信」「道路・交通」は満足度、重要度ともに高くなっている

【今回調査】

- 「道路」は、重要度が高く、満足度が低い領域にある

【住民意識調査結果】



- 道路の満足度はどの地区も低いですが、その中では「和田地区」で「満足している」が多くなっている
- 地域交通の満足度はどの地区も低いですが、その中では、「内浦地区」で「満足している」が多くなっている
- 普段、利用したい公園として「自然公園」が最も多く約30%となっている

<「基本目標3」に係る自由記述>

105件>

- 道路/交通 (35件)
    - 生活道路が狭すぎる (9)
    - 地域交通の充実を望む (9)
    - 舗装、避難経路などの道路整備をして欲しい (8)
    - バスの料金・路線を見直して欲しい (6)
  - 街並景観 (31件)
    - 空き家が増え、景観や防犯上好ましくない (13)
    - 各地域のゴミや雑草の処理が不十分 (8)
    - 浜の整備、街路樹や花などで景観をより良くしたい (8)
  - 住環境/市街地の整備 (24件)
    - 子どものための遊び場が欲しい (13)
    - 公園など住民が楽しめる場所が欲しい (5)
  - 生活のための情報提供 (15件)
    - ゴミの区分、回収日などの情報が必要 (5)
- ※一部抜粋しており、合計の件数と一致しない



<p>3-1 快適で住みやすく、移り住みたくなるまち</p>		
<p>&lt;行政の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○都市計画マスタープランに基づいて、用途地域の指定や変更、まちなか居住の推進を実施</li> <li>○上水道送水管新設工事（高浜配水池～上水道センター）による送水管の耐震化</li> <li>○子生地区と三松地区の農業集落排水を公共下水道へ統合により施設維持管理コストを削減</li> <li>○公営住宅の長寿命化を推進、単身高齢者の増加へ対応すべく住宅改修を実施（緑ヶ丘団地）</li> <li>○ホームページ、データ放送をリニューアル</li> <li>○民間企業の参入を促進し、町内全域に光ファイバー網を整備</li> </ul>	<p>&lt;協働の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○水質浄化等を目的に青郷愛林会等と協働で関谷川上流部において水源涵養林保全推進植樹を実施</li> <li>○快適な河川環境づくりを目的に、近隣地区住民と『地域を繋ぐ河川環境づくり推進事業』を実施</li> <li>○広報紙面の充実を図るため、まちづくりネットワークと連携し、広報紙の作成編集を実施</li> </ul>	<p>&lt;残された課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○（水道）施設運営管理と老朽化対策及び更新に移行する時期となるため、包括的民間委託、効果的な施設、管路の更新等を検討していく中で、財源の確保、料金の見直し等も必要</li> <li>○（下水道）施設・管路等の老朽化による維持管理コストの増加が見込まれることから、計画的かつ適正な維持管理</li> <li>○（河川等）継続した橋梁点検および計画に基づく修繕等の適正な維持管理</li> <li>○（公営住宅）ニーズに即した更新整備を検討</li> </ul>
<p>3-2 個性ある地域資源を活かした、あたたかい活気のあるまち</p>		
<p>&lt;行政の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○福井大学寄付講座（地域プライマリケア講座）を軸に、医学教育および住民啓発に重点的に取り組み、医療従事者の育成・確保と住民への地域医療に対する意識を醸成</li> <li>○和田診療所及び高浜病院に医療機器等を整備</li> <li>○町役場の新築移転と高浜公民館を新たに合築整備し、住民の利便性を向上</li> <li>○城山荘および公園の基本構想と基本計画を策定</li> <li>○漁港再整備の全体計画を策定し、加工場改修、6次産業化施設新設、漁港の再整備を推進</li> <li>○青葉山の多種多様な薬草資源を活かし、ハーバルビレッジの整備、栽培ハウスを設置し、薬草事業を展開</li> <li>○路地や民宿を活かした和田 de 路地祭を地域・移住者・来訪者・大学と連携して毎年開催し、郷土愛や関係人口の創出を支援</li> </ul>	<p>&lt;協働の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「たかはま地域医療サポーター」と協働し、住民啓発や地域との交流、社会参加の場を創出 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療を守り育てる五か条の作成</li> <li>・啓発チラシ、ビデオの作成</li> <li>・救急受診フローチャートの作成</li> <li>・地域医療フォーラムの企画、催行</li> <li>・中学生、医学生教育への協力</li> </ul> </li> <li>○城山荘の指定管理者にせくみ屋が参画し、設えや接客対応の向上により顧客の満足度がアップし売上増を実現</li> <li>○漁港再整備に向けて若狭高浜協同組合を中心に、漁師自らが関わることで漁師町のにぎわいと活性化を推進</li> <li>○青葉山麓研究所や青の里地球まるごと会議により自然学校の開催や環境保全活動を実施</li> <li>○やまぼうしの会、和田公民館、和田小学校、地区委員会など、地域の各種団体と協働し、和田 de 路地祭の運営や交流の場を創出 <ul style="list-style-type: none"> <li>★オープンガーデンの開催（2018年プレ開催、2019年実施）</li> <li>★婚活イベントの開催（商工会青年部・婦人福祉協議会）</li> </ul> </li> </ul>	<p>&lt;残された課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○寄附講座教員（指導医）、医療従事者の育成・確保</li> <li>○和田診療所および町内医療機関の安定的な経営</li> <li>○地域医療サポーターの人材確保</li> <li>○町内宿泊施設との差別化の整理</li> <li>○城山荘と城山公園の一体的な管理の検討</li> <li>○漁業者の漁価収益増</li> <li>○地域商社の事業収益の安定化</li> <li>○非農地利用の薬草利用拡大</li> <li>○地元主体での活動の継続性 <ul style="list-style-type: none"> <li>★城山荘民間委託のサービス向上</li> <li>★各地区での行事の参加者の減少と継承</li> <li>★行事を開催する際のボランティアの確保</li> <li>★町内で同日にイベントを開催する際の連携、調整</li> <li>★4地区での情報交換等の交流の促進</li> <li>★青葉山を活かした観光（登山ルートの整備、環境教育など）</li> <li>★高浜まちづくりネットワークの中間支援組織として機能発揮</li> </ul> </li> </ul>
<p>3-3 地域交通ネットワークが整備され、利便性の高いまち</p>		
<p>&lt;行政の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○オンデマンド交通（通称「赤いんバス」）の本格運行開始（H24～）</li> <li>○内浦地区において、地域主体の移動支援事業「内浦ぐるりんバス」の運行開始（R1.10～）</li> <li>○国道27号線の青葉トンネルのバイパス化を国に要望</li> <li>○原子力災害に備えた災害制圧道路（町道柿ヶ渡線等）の整備着手</li> <li>○町道中山観音寺の拡幅工事着手</li> <li>○生活道路の一部拡幅・付替えや冬季除雪など、適正な維持管理を実施</li> </ul>	<p>&lt;協働の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○内浦地区の移動支援事業実施にあたって、住民主体の組織（一般社団法人内浦ぐるりん倶楽部）が設立</li> <li>○内浦ぐるりん倶楽部の設立や運行形態の確立、関係機関との調整等は、地域と行政が協働して実施</li> <li>○生活交通や避難路の拡幅、新設などの道路事業に関する地域や地権者の理解や協力により実施</li> </ul>	<p>&lt;残された課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○交通弱者の方で、公共交通を充分利用できない方々の利用向上策</li> <li>○内浦地区主体の移動支援事業の安全かつ安定的な継続と利用拡大</li> <li>○道路ネットワークとして機能するため未整備区間の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>★観光客が町内の観光地を周遊できる移動手段の確保</li> </ul> </li> </ul>

★：第1回町民ワーキングでの「住民主体の取組」「協働の取組」に係る意見



基本目標4

豊かな自然を守り、地球環境に  
貢献するまち [環境保全]

<目指したい姿(目標イメージ)>

高浜が誇る豊かな自然環境が守られ、住民、事業者、  
団体グループ、行政の連携の中で、地球環境にやさし  
いまちが実現されているイメージ

指標

指標	実績					目標	単位
	H20	H27	H28	H29	H30	R2	
青葉山登山者数	—	4,132	3,176	3,421	3,439	5,000	人
自然環境保全の満足度(5点満点)	2.57	—	—	—	—	3	点
町有灯LED化率	—	37%	38%	40%	44%	100%	%
区有灯LED化率	—	30%	36%	43%	56%	60%	%
年間自然体験参加者数	—	0人	1,365	1,262	1,340	500人	人
循環型社会の満足度(5点満点)	2.75	—	—	—	—	3	点

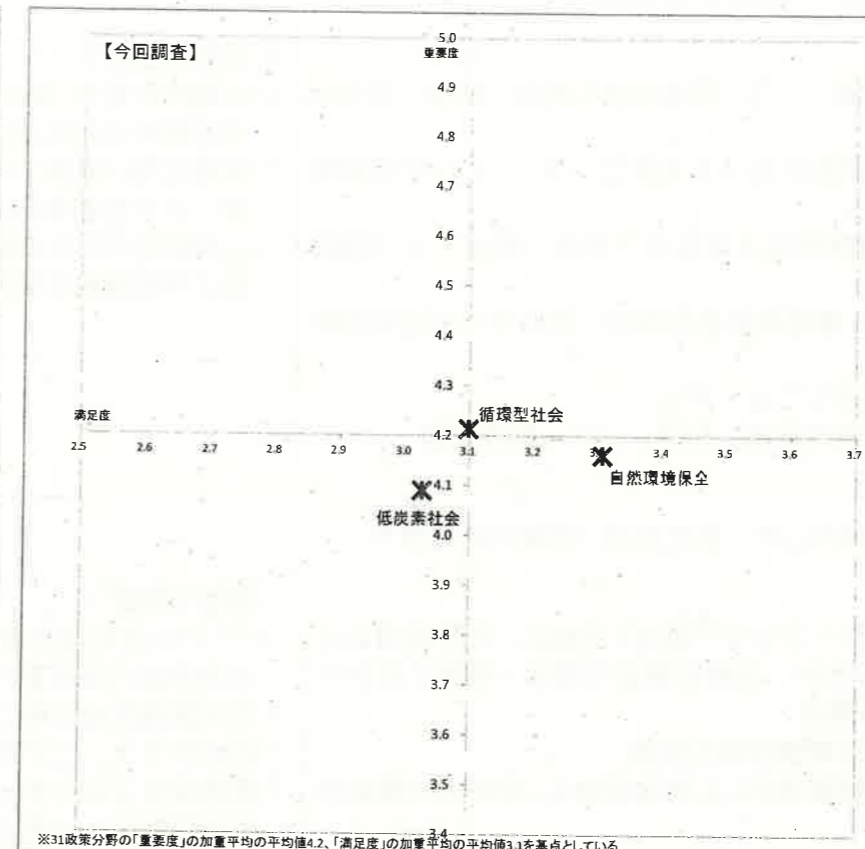
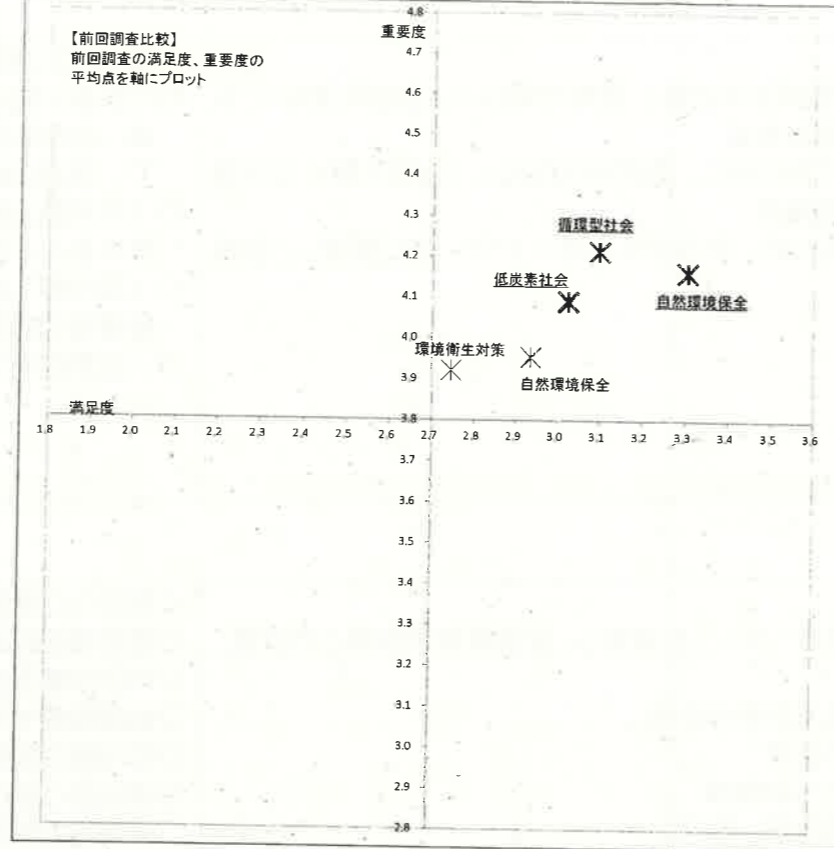
分野別目標

4-1	豊かな自然環境を、次世代に引き継ぐまち
4-2	低炭素社会の実現を推進し、環境を支えるま ち
4-3	廃棄物の削減・再使用・再利用を推進し、循 環型社会を実現するまち

達成の自己評価(施策方針ごと)

施策方針	評点 → 1 2 3		
	1	2	3
4-1-1 自然環境を再認識・再発見し見える化します			
4-1-2 環境関連の協働の取り組みを支援します			
4-1-3 持続可能な仕組みを構築します			
4-2-1 行政業務の中で低炭素社会の取り組みを推進します			
4-2-2 事業者や住民の自発的な取り組みを支援します			
4-2-3 低炭素社会に向けた仕組みづくりを推進します			
4-3-1 廃棄物発生の抑制、削減を促進します			
4-3-2 リサイクル等を推進します			
4-3-3 環境学習の機会や情報提供を充実します			

【住民意識調査結果に基づく施策の満足度と重要度】



【前回調査比較】  
○ 全ての取組において  
満足度、重要度とも  
に高まっている

【今回調査】  
・ 「低炭素社会」が満  
足度、重要度ともに  
低い領域にある

※ 「低炭素社会」の項目は前  
回未調査

【住民意識調査結果】

「自慢できる地域資源」として、住民、中学生ともに自然環境に関することとして、  
「海」「山」をあげている

※ ( ) は件数

	住民	中学生
自然環境に関 すること	山について 187件 山(101)、青葉山(68)、安土山(5)、ハ ーバルビレッジ(7)、登山道・遊歩道(6)	100件 山(28)、青葉山(69)、安土山(2)
	海について 196件 海(168)、和田浜(21)、ブルーフラッグ (7)	249件 海(131)、和田浜/ブルーフラッグ(101)、 明鏡洞(17)
	その他 13件 城山公園について(10)、星空について (3)	39件 豊かな自然、美しい自然、きれいな自然など の「自然」に係る意見(21) 城山公園について(4)、オオキンレイ(12)、 棚田(2)
景色・景観・まちなみに関する こと	22件 山の風景(6)、沿岸の風景(4)、昔ながら の町並み(5)、その他(7)	なし
歴史文化に関するもの	7件 寺社仏閣(5)、町屋(1)、古民家(1)	41件 祭(12)、七年祭(19)、歴史(4)、和田路地祭 (3)、漁火想(3)、
食文化に関するもの	64件 海産物(22)、魚(14)、農産物(12)、米 (4)、トマト(4)、その他(8)	18件 魚(13)、食べ物がおいしい(5)
その他	24件 町民の人柄(9)、葉草(6)、季節のイベン トや祭(3)、その他(6)	20件 町民の人柄・やさしい、あいさつをしてくれ る(19)、その他(1)

<「基本目標4」に係る自由記述3件>

- 自然環境の保全(3件)  
今、身近にある豊かな自然環境を守る(3)



4-1 豊かな自然環境を、次世代に引き継ぐまち

<p>&lt;行政の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○若狭和田ビーチが国際環境認証「ブルーフラッグ」を取得</li> <li>○旧青葉山青少年旅行村をハーバルビレッジと改名し、「健康長寿の里」として再整備</li> <li>○海のルールブックやブループラスといった季刊誌を発行し、周知啓発を</li> <li>○閃きまちづくり補助金により、ゆりの里倶楽部等の環境保全団体の活動を支援</li> <li>○シーズアースデーを開催し、環境グループ同士の交流の場を提供しネットワーク化を推進</li> <li>○プロジェクトWETと呼ばれる、体験型の水の環境教育プログラムを指導できる資格を取得する講習会を開催し、リーダーを育成したほか、公民館活動として、水辺の生き物調査等を実施</li> </ul>	<p>&lt;協働の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブルーフラッグの取得に向けて、浜ひろいなどの美化活動や環境教育活動など、協力が不可欠な各種団体やボランティアと活動を実施</li> <li>○ブルーフラッグの環境教育にあたっては、和田ライフセービングクラブが指導を実施</li> <li>○青葉山麓研究所や青の里地球まるごと会議により自然学校の開催や環境保全活動を実施</li> <li>○各区や海浜組合、旅館組合、浜茶屋など多様な方々による海浜美化活動や町内清掃活動を実施</li> <li>○ゆりの里倶楽部等の環境保全団体が自然環境保全活動を実施</li> <li>○白宣言に基づき、自主的に浜ひろいを実施する活動が拡大</li> <li>○町内一斉のクリーンキャンペーンを実施</li> <li>★住民による砂浜の清掃</li> <li>★田んぼビオトープ、里山観察など高浜の自然を子ども達に知ってもらう活動</li> </ul>	<p>&lt;残された課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブルーフラッグ認証には毎年の審査をクリアする必要があるため、関係者への継続的な支援と認知度向上の取組み</li> <li>○ブルーフラッグについて、関係者の認識は深まったものの、町民全体への認識については深まっていないため、町民全体の認識を広めることが課題</li> <li>○各種保全活動にあっては、参画者の減少、活動資金不足による活動縮小が課題</li> <li>○環境教育プログラムのリーダー資格の取得者の増員</li> <li>★高浜の豊かな自然を守る取組（メダカ、カブトムシなど都市部の業者による乱獲防止）</li> </ul>
--	--	---

4-2 低炭素社会の実現を推進し、環境を支えるまち

<p>&lt;行政の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新庁舎のエコ化推進（LED・空調システム）</li> <li>○電気自動車補助金制度によりEVを普及</li> <li>○環境基本計画の代替として高浜エコ里を提唱し、低炭素社会の取組みを推進</li> <li>○エルどらんと連携し、町の環境貢献についてPRを実施</li> <li>○再生可能エネルギーの導入に向けた導入可能性調査を実施</li> <li>○スローライフ化への取組みとして、環境保全団体の竹林整備に対し支援</li> <li>○環境負荷の低減、公共交通、高齢者の安全、など多面的で複合効果を発揮できるオンデマンドバスを運行</li> <li>○県との連携より、県民運動「LOVE・アース・ふくい」を実施し、楽しく参加できる省エネ行動を展開</li> </ul>	<p>&lt;協働の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○電気自動車補助金活用によるEVの普及</li> <li>○地区単位で実施しているクリーンキャンペーンに対し支援</li> <li>○エルどらんと連携し、町の環境貢献についてPRを実施</li> <li>○商工会と連携し、おいしい福井食べ切り運動を展開</li> <li>○次世代園芸事業者に対しヒートポンプ導入に対する支援や、民間事業者とバイオマス発電事業について検討するなど、事業者の低炭素化への取組みを実施</li> <li>○内浦竹竹クラブの実施する竹林の利活用を含めた保全活動を支援</li> </ul>	<p>&lt;残された課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境保全活動を通して利益が循環する（儲かる）仕組みづくりを構築</li> <li>○環境保全活動団体の後継者育成</li> <li>○公共施設の再エネの導入の方向性について取りまとめたことから、実現へ向けた各種調整</li> <li>○県民運動「LOVE・アース・ふくい」の認知度が低いいため、認知度向上に向けた取組み</li> </ul>
---	---	--

4-3 廃棄物の削減・再使用・再利用を推進し、循環型社会を実現するまち

<p>&lt;行政の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎月発行される広報紙にごみの現状等を掲載することより、ごみの減量・分別を意識づける周知を実施</li> <li>○集団資源ごみ回収を実施する町内団体等（婦人会、PTA保護者会）に対する支援を実施</li> <li>○ごみ減量化行動計画を策定（H22）</li> <li>○一般廃棄物（ごみ）基本計画を策定（H30）</li> <li>○町内事業所の外国人労働者に対し、ごみの分別方法の説明会を実施</li> <li>○町内の小学4年生を対象に、ごみ処理施設の見学とごみについての説明会を実施</li> </ul>	<p>&lt;協働の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○集団資源ごみ回収を実施する町内団体（婦人会、PTA保護者会）に対する支援を実施</li> <li>○町内事業所と連携し、雇用者である外国人労働者に対し、ごみの分別方法の説明会を実施</li> <li>○町内の小学4年生を対象に、ごみ処理施設の見学とごみについての説明会を実施</li> </ul>	<p>&lt;残された課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ごみの減量・分別収集の進展</li> <li>○ごみの出ない商品等や簡易包装・無包装などの事業者の取組進展</li> <li>○事業者の資源ごみ店頭回収や回収項目の増加などの取組進展</li> </ul>
---	---	--

★：第1回町民ワーキングでの「住民主体の取組」「協働の取組」に係る意見



基本目標5  
**学びあい・教えあい、そして、  
 人を育むまち** [子育て・教育・協働]

<目指したい姿(目標イメージ)>  
 安心して子育てができ、豊かな人間性を生まれ、心豊かな人生をおくることができるまちのイメージ

指標	実績					目標 R2	単位
	H20	H27	H28	H29	H30		
合計特殊出生率	1.62 (H22実績)	1.69	—	—	—	1.76	
子育て支援の満足度	2.8	—	—	—	—	3	点
年間結婚者数	25	38	50	57	56	40	人
出生数	94 (H22実績)	83	75	84	91	100	人
生涯学習の満足度	2.86	—	—	—	—	3	点
スポーツ振興の満足度	3.02	—	—	—	—	3.2	点

分野別目標

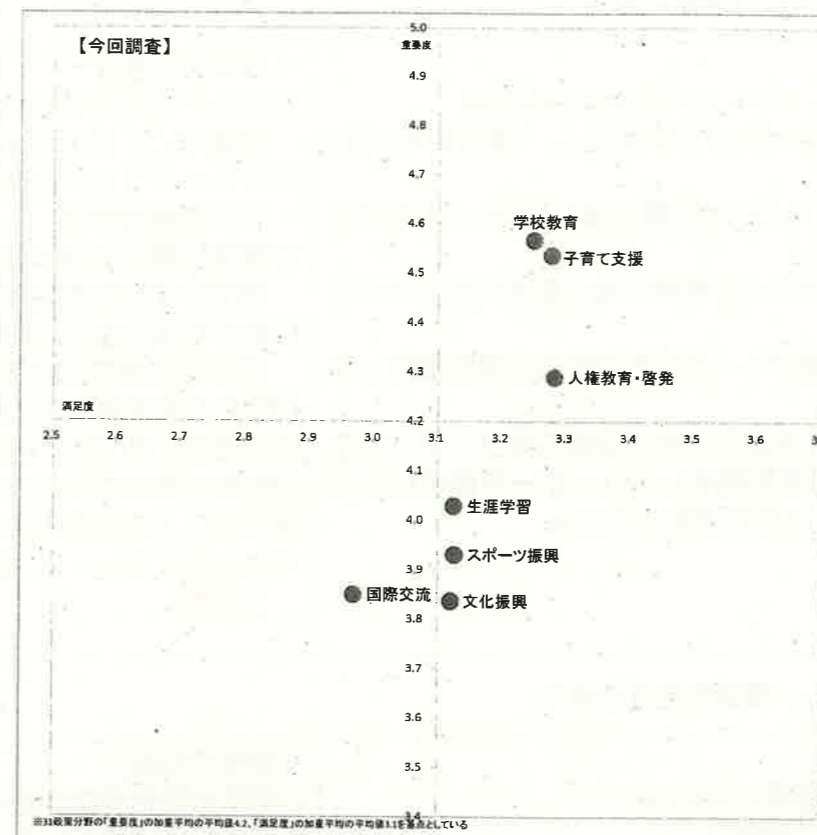
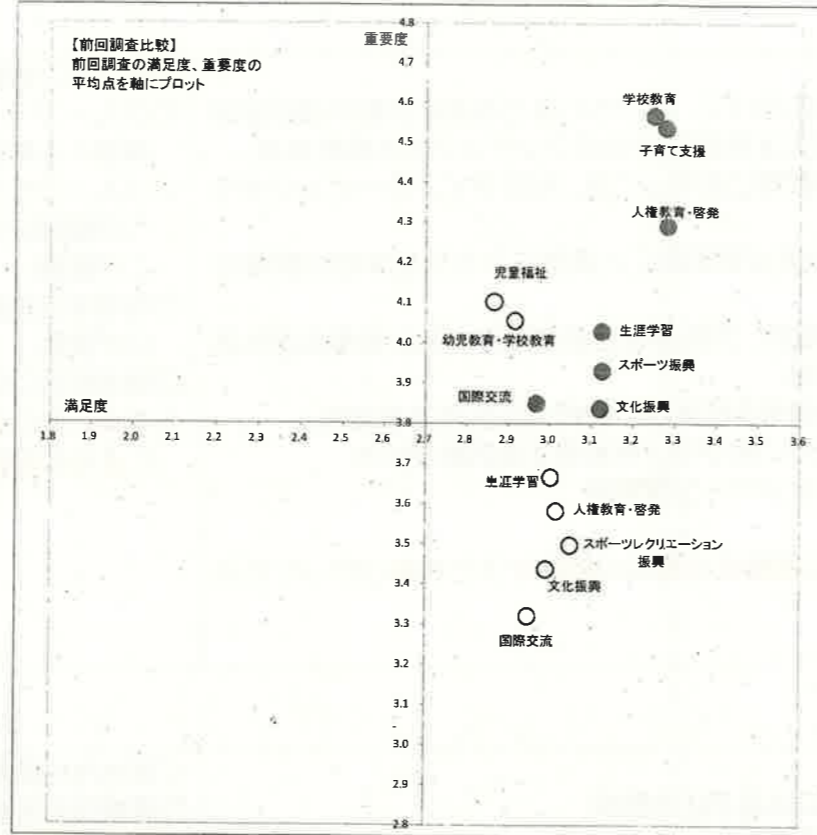
5-1	安心して子育てでき、子どもが元気に育ちあうまち
5-2	学校・家庭・地域が連携し、地域社会に求められる人材を育成するまち
5-3	生涯を通じて、多様な活動が気軽に楽しめるまち

達成の自己評価(施策方針ごと)

評点→ 1 2 3

5-1-1	母子の健やかな成長を支援します	
5-1-2	子育てに関する不安を取り除きます	
5-1-3	地域で子育てを支援します	
5-2-1	学校・家庭・地域の連携を強化し、社会に貢献できる人材を育成します	
5-2-2	児童生徒の学力向上に取り組めます	
5-2-3	学ぶ場としての環境整備を推進します	
5-3-1	社会教育活動を支援します	
5-3-2	地域の伝統芸能の保護継承と新しい文化の創造を推進します	
5-3-3	スポーツ振興を促進します	
5-3-4	国際社会に対応できるまちづくり・ひとづくりを推進します	

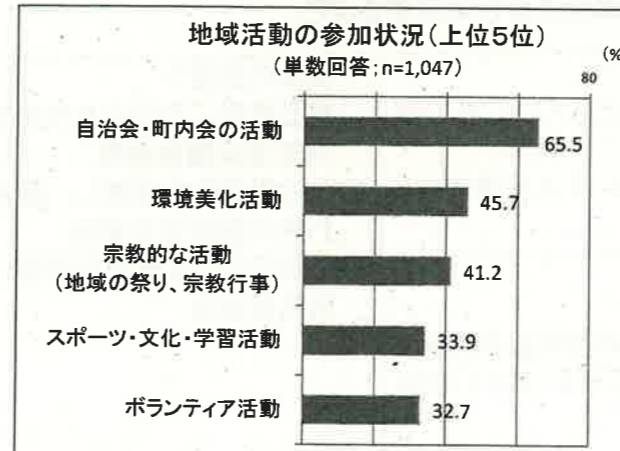
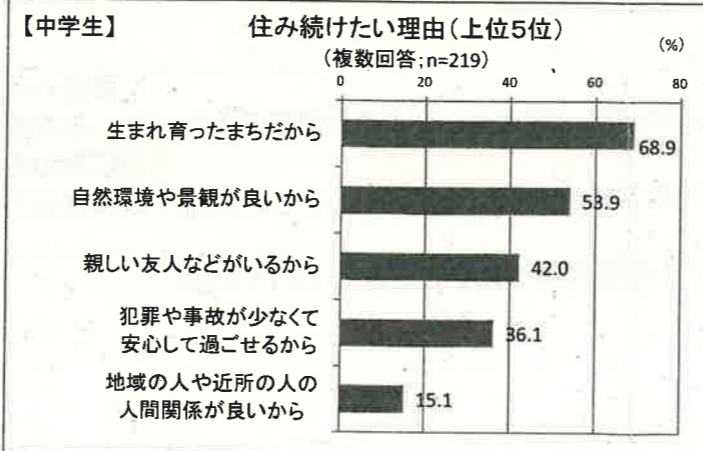
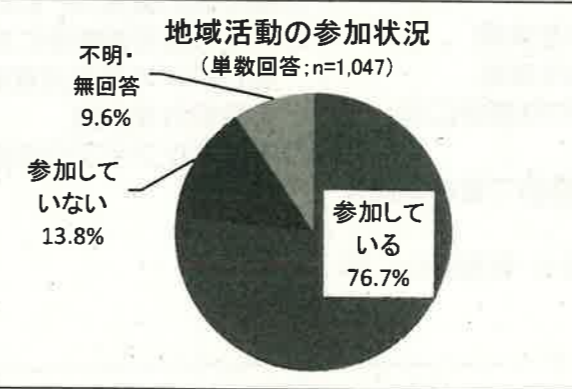
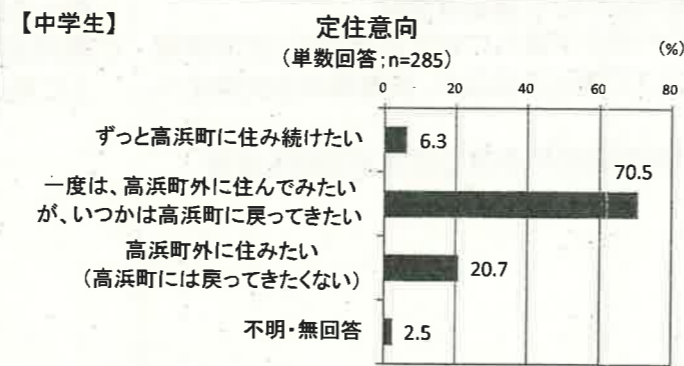
【住民意識調査結果に基づく施策の満足度と重要度】



【前回調査比較】  
 ○ 全ての取組において満足度、重要度ともに高まっている

【今回調査】  
 ・「学校教育」「子育て支援」は前回調査と同様に満足度、重要度ともに高い領域にある  
 ・「生涯学習」「スポーツ振興」「文化振興」「国際交流」は重要度が平均を下回る

【住民意識調査結果】



○ 中学生の70%が「一度は高浜町外に住んでみたいが、いつかは戻ってきたい」と回答し、その理由として「生まれ育ったまち」「自然環境や景観が良い」が上位となっている  
 ○ 77%の住民が地域活動に参加しており、自治会・町内会への参加率が最も高く約65%となっている

<「基本目標5」に係る自由記述49件>

- 子育て支援 (11件)  
 子育て支援をより充実させていって欲しい (4)  
 待機児童など、保育園にはいくつかの問題がある (4)
- 学校教育 (6件)  
 就学支援、人材育成、特色ある教育内容など教育環境が充実したまちにしてほしい (6)
- 文化振興 (32件)  
 スポーツ施設が欲しい (7)  
 七年祭への参加が強制的なので困る (5)  
 花火大会は一度にまとめたほうがいいのか (4)  
 各地のイベントを仕切るのは高齢者の負担になっている (4)

※ 一部抜粋しており、合計の件数と一致しない



5-1 安心して子育てでき、子どもが元気に育ちあうまち

<p>&lt;行政の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○健康診査、健康相談、家庭訪問等、母子の健康支援を実施</li> <li>・各種健康診査・健康相談受診率：ほぼ 100%</li> <li>○平日の延長保育、土曜保育の拡充、病児・病後児保育を開始</li> <li>○民間の認定こども園の整備や高浜保育所の改修・移転に向けた準備を実施</li> <li>○妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援をさらに充実させた相談支援機能を担う子育て世代包括支援センターkurumuを設置</li> <li>○妊娠中から特定妊婦を把握するとともに、要保護児童においても早期発見・支援につなげられる支援体制を構築</li> <li>○子宝手当の支給、保育料軽減（第2子半額・第3子無料）、不妊治療費助成拡大を実施</li> <li>○母同士の仲間づくりの支援から kurumu を拠点とした子育てを地域で育くむ仕組みを構築</li> </ul>	<p>&lt;協働の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療機関や学校、児童発達支援事業所などの他機関や庁内の他課と密に連携を図りながら、母子保健事業を運営</li> <li>○福井大学プライマリケア講座と連携しながら、町内医療機関で継続して診療が出来るような体制を構築</li> <li>○児童虐待防止に関する関係機関の連携強化を推進</li> <li>○子育て世代に対する支援できることについて、社会福祉協議会、婦人福祉協議会、シルバー人材センターで検討を開始</li> <li>○町内の旅館と連携し、産後デイケア事業（助産師や保育士等が母乳相談、乳房ケア、育児相談を行う他、入浴、沐浴、お母さん同士で昼食や交流を行い、産後の心身の疲労をリフレッシュ）を実施</li> </ul>	<p>&lt;残された課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○産婦人科が減少しており、安心して妊娠・出産が出来る体制の確保が困難</li> <li>○小児科医の人材確保が困難</li> <li>○継続して保育ニーズに対応できるよう、スタッフの確保と体制の確保が必要</li> <li>○総合診療医の継続的な確保、地域におけるかかりつけ医制の推進</li> <li>○増える特定妊婦・要保護児童の支援に関する適切な進捗管理と関係機関との連携調整</li> <li>○継続的な児童虐待防止に関する広報と周知が必要</li> <li>○子育てを支える地域としての仕組みづくり</li> </ul>
--	---	--

5-2 学校・家庭・地域が連携し、地域社会に求められる人材を育成するまち

<p>&lt;行政の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特色ある学校づくり事業補助金を活用し、各地域（学区）に応じた特色ある事業を実施</li> <li>○ヒューマンサークル・ジュニア（青郷小学校）およびヒューマンサークル（高浜中学校）による地区学習会を実施</li> <li>○福井大学教職大学院への教員派遣や研修会を実施</li> <li>○町費単独採用講師、部活動指導員、学校運営支援員、スクールカウンセラー、相談員等を配置</li> <li>○ALT配置し、小学校、保育所から英語に親しめる環境を整備。また、オーストラリアへの海外派遣や韓国保寧市の小学校との姉妹校交流を実施</li> <li>○小中学校にタブレット等を整備、ICT支援員配置</li> <li>○UIターン奨学金返還サポート制度を開始</li> <li>○小中学校施設の空調設置や体育館等の施設改修</li> </ul>	<p>&lt;協働の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域と学校の連携に伴う事業の充実、地域と学校が関わることで地域人材の活用や地域文化の伝承に貢献</li> <li>○老人会や生徒の保護者を中心とし、学校生活ボランティアとして登録を行い、農業体験や習字学習・絵本の読み聞かせ等を実施</li> <li>○学校や保育所との連携によるALTの活用推進</li> <li>○海外の学校等の交流による国際理解教育の醸成</li> <li>★通学路の見守り活動</li> <li>★神野浦区でのスクールバスの運行</li> </ul>	<p>&lt;残された課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域において、学校と関わる方の固定化が進んでおり、新たな人選が必要</li> <li>○共働き世帯の増加や高齢化に伴う、学校ボランティアの減少</li> <li>○時代に応じた人権学習の充実（ネットいじめ・LGBT等）</li> <li>○町費単独採用講師、スクールカウンセラー等の人材確保が困難</li> <li>○学校施設等の経年劣化による大規模改修</li> </ul>
---	---	--

5-3 生涯を通じて、多様な活動が気軽に楽しめるまち

<p>&lt;行政の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ニーズに即した生涯学習講座等の企画運営</li> <li>○文化会館の設備改修及び図書館の増改築実施</li> <li>○町史資料編（2種類）の冊子を刊行</li> <li>○青葉ふれあいドームの建設、中央体育館を改築し、施設内にランニングコースを設置</li> <li>○文化活動支援・シニアスポーツ補助金を新設</li> <li>○手軽に楽しめる競技のスポーツ教室を開催</li> <li>○スポーツ少年団指導者やスポーツ推進員への研修会を実施</li> <li>○高浜小学校と保寧市鳴川小学校との姉妹校交流を町内4校に拡大</li> </ul>	<p>&lt;協働の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○公民館や図書館、資料館等において有識者（町民）らから成る運営協議会を設け意見集約し、事業の企画に反映</li> <li>○公民館講座から新たなサークルが成立</li> <li>○高浜、和田公民館の建設にあたって、地区住民とともに検討を進め、ニーズを反映した利便性の高い施設の建設を推進</li> <li>○文芸協会との共催により鑑賞事業を開催</li> <li>○町スポーツ協会や体育推進員他関係団体との協力により生涯スポーツの普及啓発を推進</li> <li>○相互交流（ホームステイ）により国際理解を醸成</li> </ul>	<p>&lt;残された課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○的確なニーズの把握手法の検討</li> <li>○社会教育施設の利用者拡大</li> <li>○公民館利用者の固定化</li> <li>○無関心層への情報発信</li> <li>○増え続ける郷土資料等の保存場所の確保と保護継承の手法、手段の確立</li> <li>○文化財保護の専門人材の確保</li> <li>○少子化に伴うスポーツ少年団の在り方の検討</li> <li>○各種スポーツ団体構成員の拡充</li> <li>○スポーツ推進員の固定化</li> </ul>
--	--	---

★：第1回町民ワーキングでの「住民主体の取組」「協働の取組」に係る意見

高浜町総合計画策定に向けた住民アンケート調査  
報告書



## 目次

1. 調査概要	1	3. 高浜町総合計画について	32
報告書の見方	1	(1) 「高浜町総合計画」の認知	32
2. 調査結果	2	(2) 各政策の満足度	33
1. 回答者属性	2	(3) 各政策の重要度	43
(1) 性別と年代	2	(4) 各政策の満足度と重要度	49
(2) 家族構成	3	4. 町政について	56
(3) 居住地区	3	(1) 町政への関心	56
(4) 居住年数	4	(2) 行政の満足度	59
(5) 居住したきっかけ	4	5. 就職状況と雇用について	64
(6) 職業	6	(1) 現在の仕事の満足度（現在、仕事をしている人のみ回答）	64
(7) 就業・就学先	6	(2) 地元で就職することについて（現在、仕事をしていない人のみ回答）	65
2. 暮らしや考え方について	7	(3) 子どもの現在の仕事や就職について	66
(1) 高浜町への愛着	7	(4) 自身が就きたい、子どもに就かせたい職業	67
(2) 定住意向	9	(5) 希望の仕事に就くために役立つと思う支援	69
(3) 10年前と比較した今の生活環境	11	(6) 雇用先の企業に配慮してほしいこと	70
(4) 今と比較した10年後の生活環境	12	(7) 地元であればよいと思う企業のイメージ	71
(5) 高浜町で実施している観光イベントの方向	13	6. 地域との関わりについて	72
(6) 公衆トイレについて	13	(1) 近所づきあいの状況	72
(7) 農業への関心	14	(2) 人への信頼に関する考え方	75
(8) 夏季の観光について	15	(3) 地域活動への参加状況	76
(9) 地域の防災時の助け合いの安心感	15	(4) 今後、地域での子育て支援として取り組んでみたいこと	79
(10) 災害時に備えた食料等の備蓄状況	18	7. 自由記述の内容	80
(11) 災害時に相談できる人が近所や地域にいるか	18		
(12) 直近1年間の公民館の利用状況	21		
(13) 直近1年間の体育施設の利用状況	21		
(14) 「広報たかはま」を読む頻度	22		
(15) 高浜町のホームページの利用頻度	22		
(16) チャンネルO（9チャンネル）の視聴頻度	24		
(17) 高浜町のデータ放送の視聴頻度	25		
(18) 高浜町メール配信サービスの登録状況	26		
(19) 情報を得る媒体	27		
(20) 普段、利用したいと思う公園	29		
(21) 自慢できる高浜の地域資源	31		

## 1. 調査概要

### ① 調査の目的

この調査は令和2年度に「高浜町総合計画」が計画期末を迎えることから、次期計画を策定するにあたって、これまでのまちづくりの評価や今後のまちづくりのニーズ等の住民意見を広く把握することを目的に実施しました。

### ② 調査の対象

【調査対象】高浜町在住の18歳以上の市民

【選定方法】無作為抽出

抽出数：2,500人 抽出基準日：令和元年8月20日現在

### ③ 調査の方法

調査は無記名とし、令和元年9月5日（木）～9月20日（金）を調査期間として、郵送により実施しました。

### ④ 回収の状況

有効回収数：1,047件／有効回答率：41.9%

## 報告書の見方

- 回答結果は、各項目の不明を含む有効サンプル数に対する百分比(%)で示し、百分比は小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを表示しています。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの比率を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- 図表中の「n」は集計対象者総数または、回答者限定設問の限定条件に該当者数を示しています。

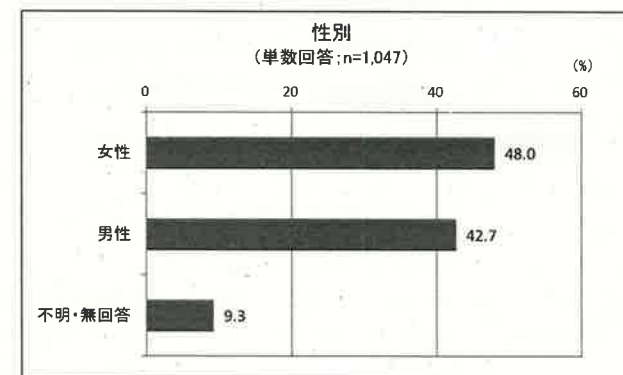
## 2. 調査結果

### 1. 回答者属性

#### (1) 性別と年代

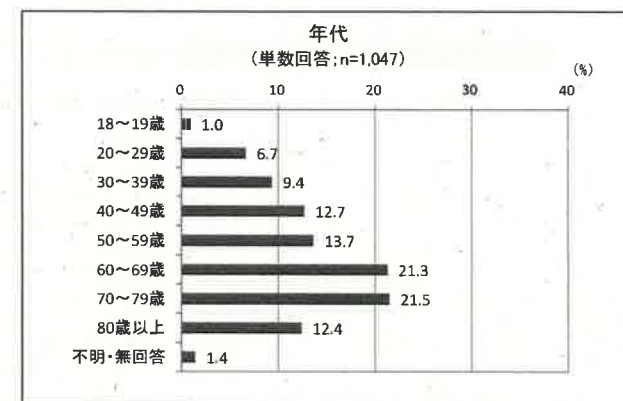
##### 【性別】

「女性」が48.0%、「男性」が42.7%となっています。



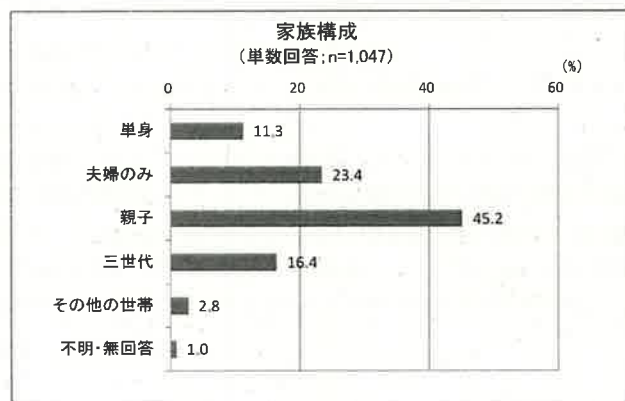
##### 【年代】

「70～79歳」が最も多く21.5%、次いで「60～69歳」が21.3%、「50～59歳」が13.7%、「40～49歳」が12.7%などとなっています。



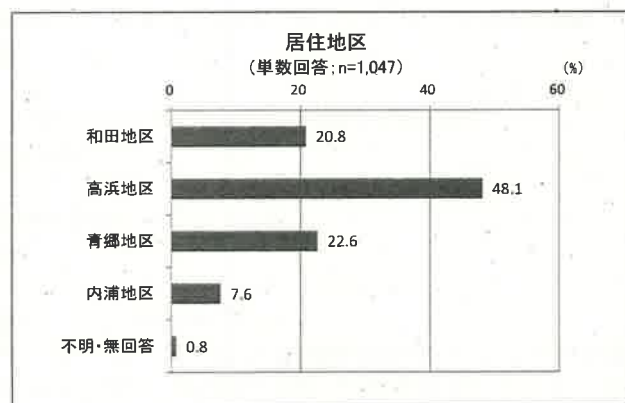
## (2) 家族構成

「親子」が最も多く45.2%、次いで「夫婦のみ」が23.4%、「三世代」が16.4%などとなっています。



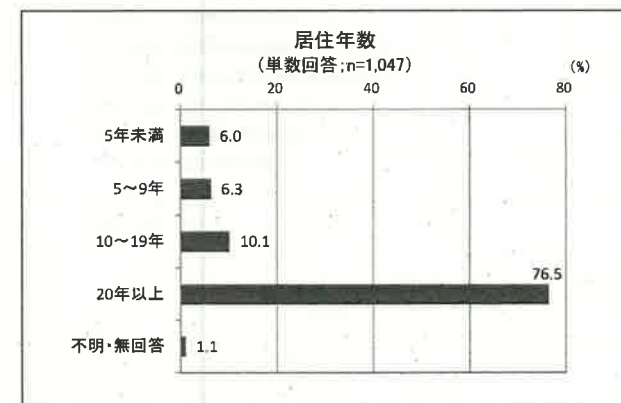
## (3) 居住地区

「高浜地区」が最も多く48.1%、次いで「青郷地区」が22.6%、「和田地区」が20.8%、「内浦地区」が7.6%となっています。



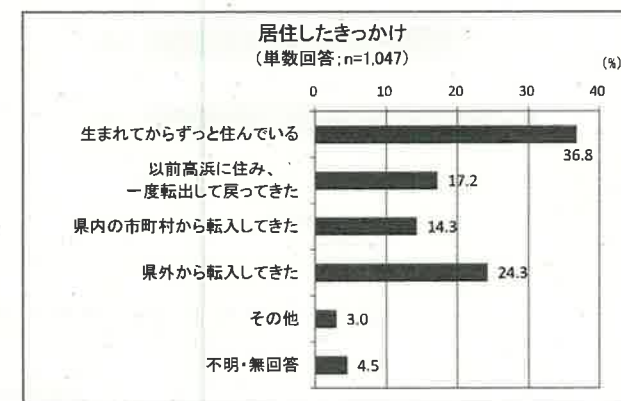
## (4) 居住年数

「20年以上」が最も多く76.5%、次いで「10~19年」が10.1%、「5~9年」が6.3%などとなっています。



## (5) 居住したきっかけ

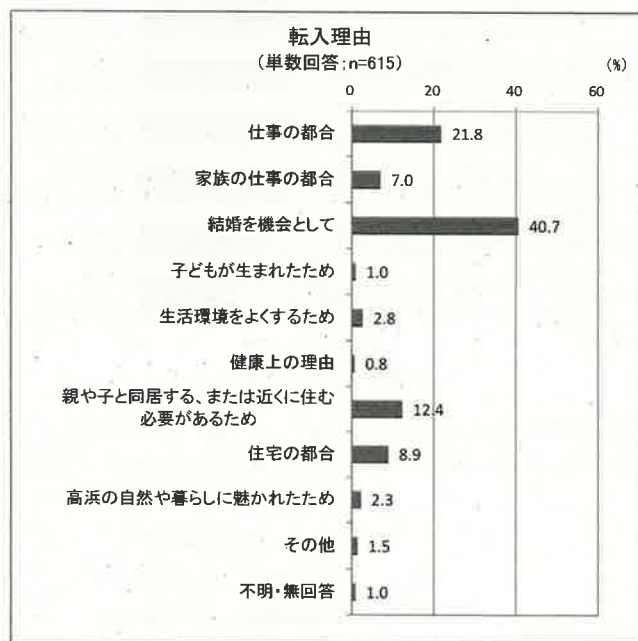
「生まれてからずっと住んでいる」が最も多く36.8%、次いで「県外から転入してきた」が24.3%、「以前高浜に住み、一度転出して戻ってきた」が17.2%などとなっています。



■ 転入理由

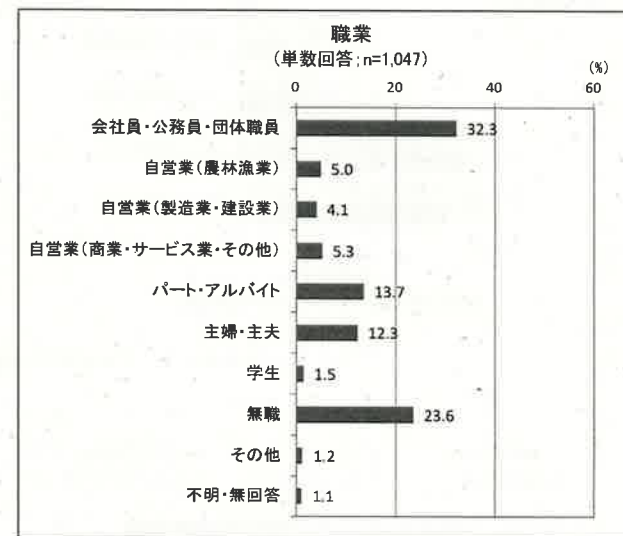
（「以前高浜に住み、一度転出して戻ってきた」「県内の市町村から転入してきた」「県外から転入してきた」の回答者）

「結婚を機会として」が最も多く 40.7%、次いで「仕事の都合」が 21.8%、「親や子と同居する、または近くに住む必要があるため」が 12.4%などとなっています。



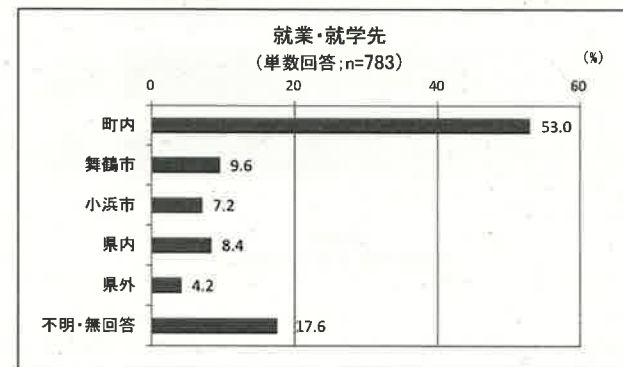
(6) 職業

「会社員・公務員・団体職員」が最も多く 32.3%、次いで「無職」が 23.6%、「パート・アルバイト」が 13.7%、「主婦・主夫」が 12.3%などとなっています。



(7) 就業・就学先

「町内」が最も多く 53.0%、次いで「舞鶴市」が 9.6%、「県内」が 8.4%などとなっています。

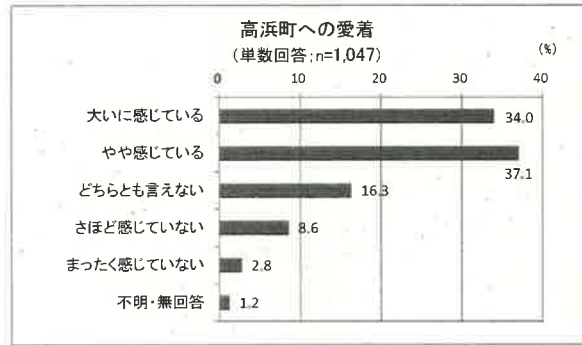




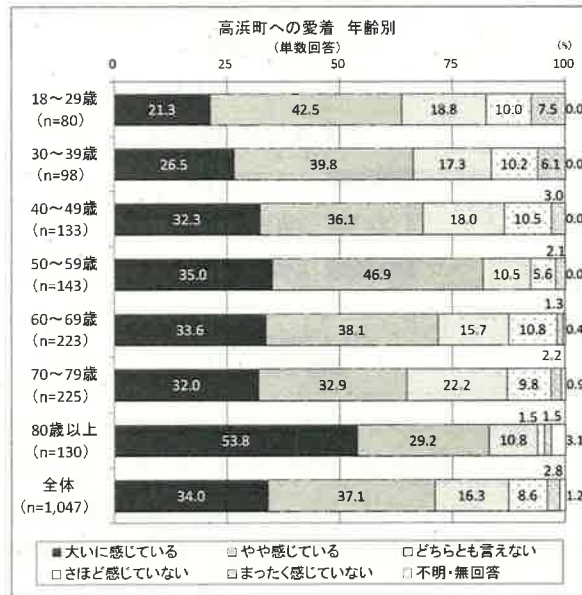
## 2. 暮らしや考え方について

### (1) 高浜町への愛着

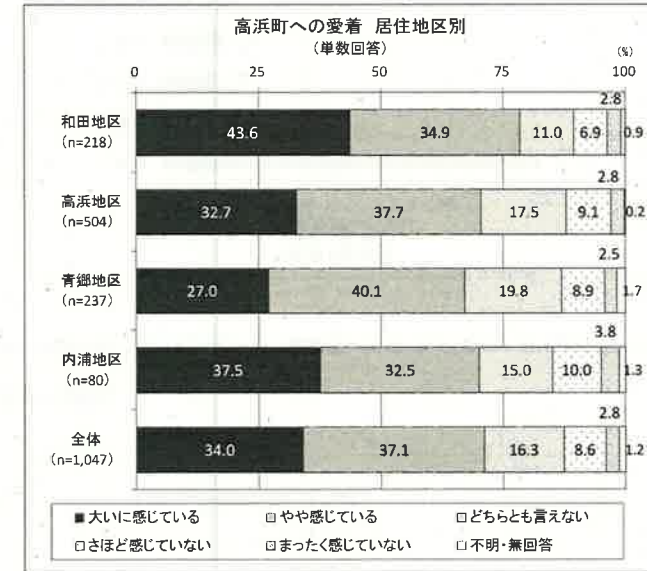
「やや感じている」が最も多く37.1%、次いで「大いに感じている」が34.0%となっています。一方、「さほど感じていない」が8.6%、「まったく感じていない」が2.8%などとなっています。



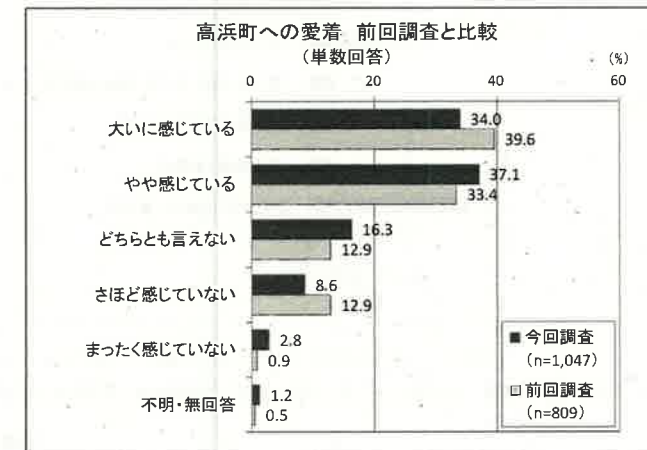
年齢別にみると、どの年代でも愛着を『感じている』（「大いに感じている」「やや感じている」の合計）が60%を超えています。また、年齢別による有意な差はみられません。



居住地区別にみると、どの居住地区でも愛着を『感じている』（「大いに感じている」「やや感じている」の合計）が65%を超えています。また、居住地区別による有意な差はみられません。

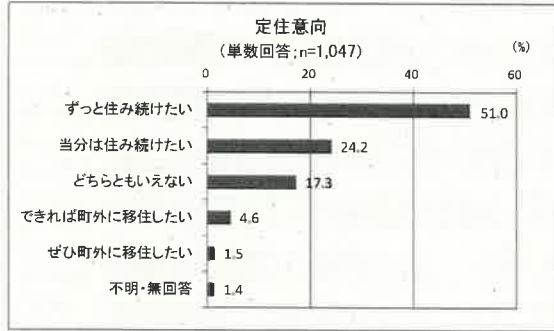


前回調査と比較すると、有意な差はみられません。



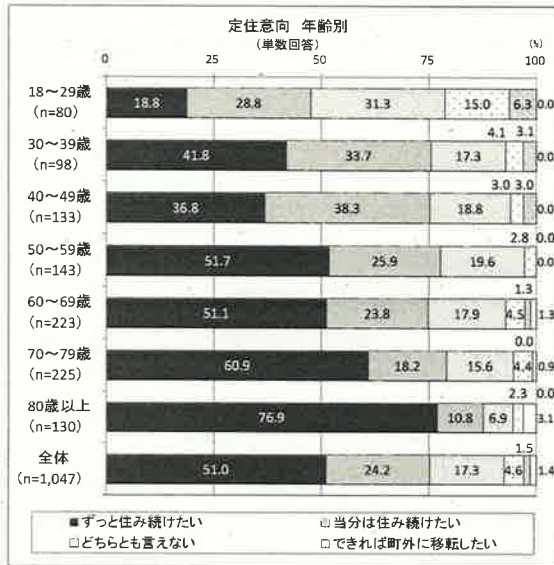
(2) 定住意向

「ずっと住み続けたい」が最も多く 51.0%、次いで「当分は住み続けたい」が 24.2%、「どちらともいえない」が 17.3%となっています。一方、「できれば町外に移住したい」が 4.6%、「ぜひ町外に移住したい」が 1.5%となっています。

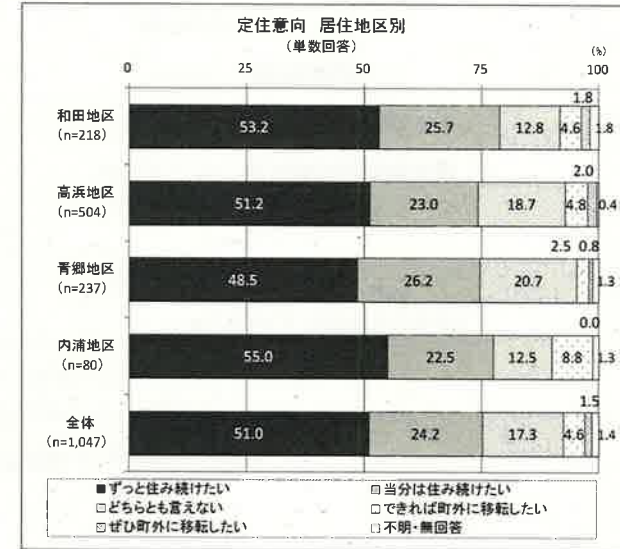


年齢別にみると、「18～29歳」以外の年代では『住み続けたい』（「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」の合計）が 70% を超えています。

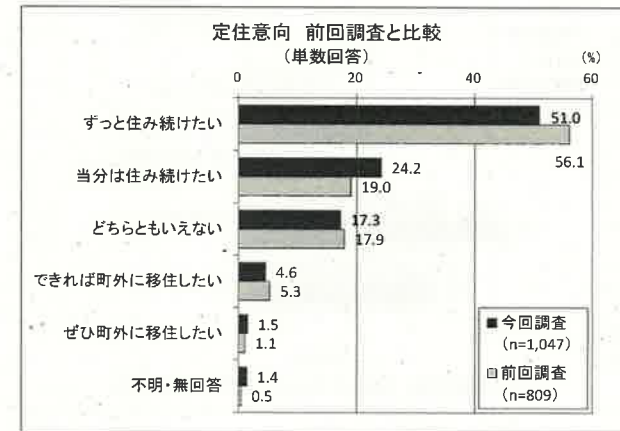
「18～29歳」では『住み続けたい』が少なく、50歳代から70歳代では多くなっています。



居住地区別にみると、どの居住地区でも『住み続けたい』（「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」の合計）が 70% を超えています。また、居住地区別による有意な差はみられません。

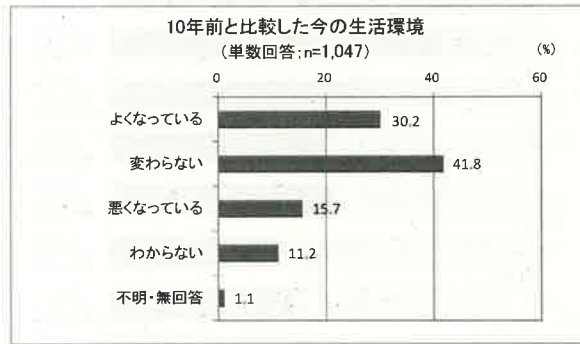


前回調査と比較すると、有意な差はみられません。

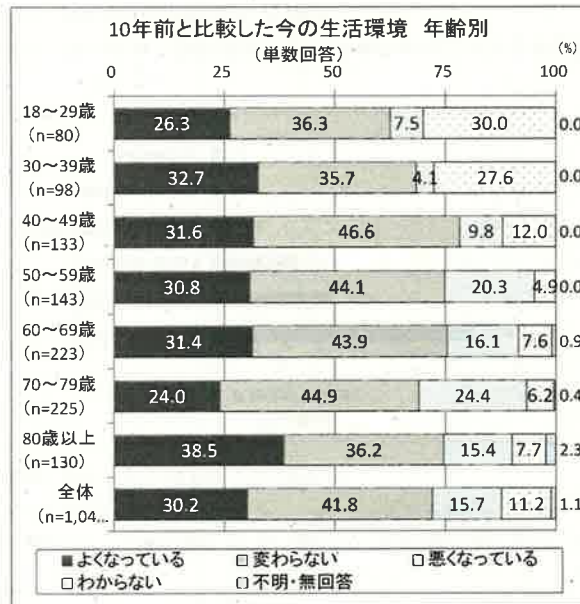


(3) 10年前と比較した今の生活環境

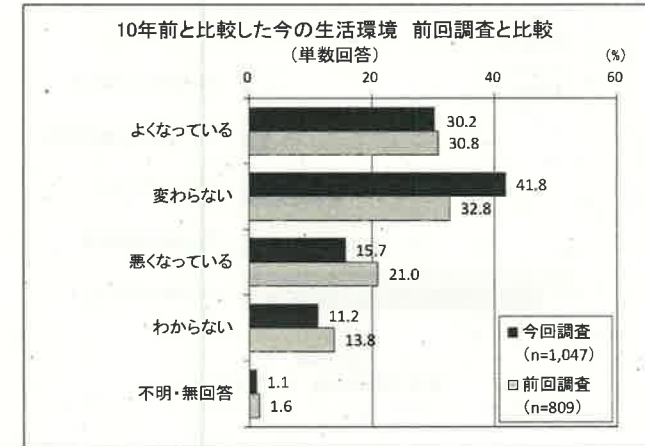
「変わらない」が最も多く41.8%、次いで「よくなっている」が30.2%となっています。一方、「悪くなっている」が15.7%などとなっています。



年齢別にみると、どの年代も「変わらない」が最も多く、「70～79歳」以外の年代では、「よくなっている」が「悪くなっている」を上回っています。また、年齢別による有意な差はみられません。

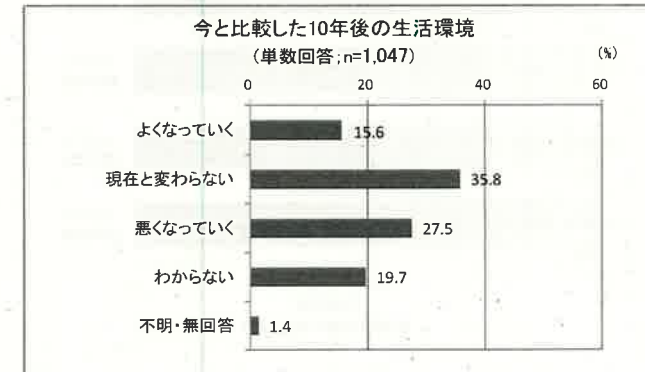


前回調査と比較すると、「変わらない」が増加しています。



(4) 今と比較した10年後の生活環境

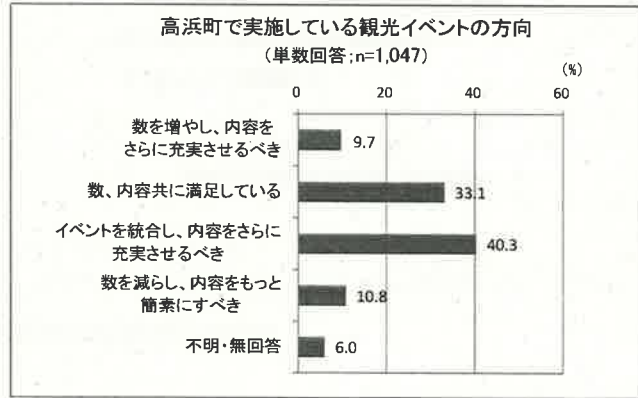
「現在と変わらない」が最も多く35.8%、次いで「悪くなっていく」が27.5%、「わからない」が19.7%などとなっています。





(5) 高浜町で実施している観光イベントの方向

「イベントを統合し、内容をさらに充実させるべき」が最も多く 40.3%、次いで「数、内容共に満足している」が 33.1%、「数を減らし、内容をもっと簡素にすべき」が 10.8%などとなっています。

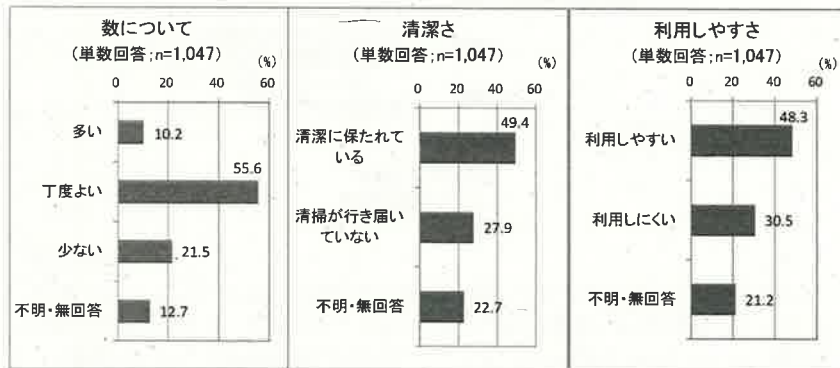


(6) 公衆トイレについて

数は「丁度よい」が 55.6%、「少ない」が 21.5%などとなっています。

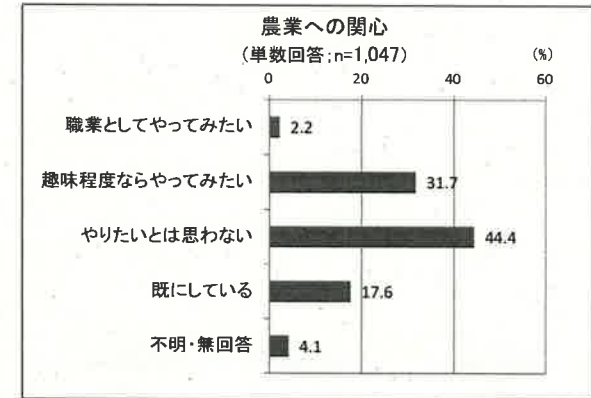
清潔さは「清潔に保たれている」が 49.4%、「清掃が行き届いていない」が 27.9%となっています。

利用しやすさは「利用しやすい」が 48.3%、「利用しにくい」が 30.5%となっています。

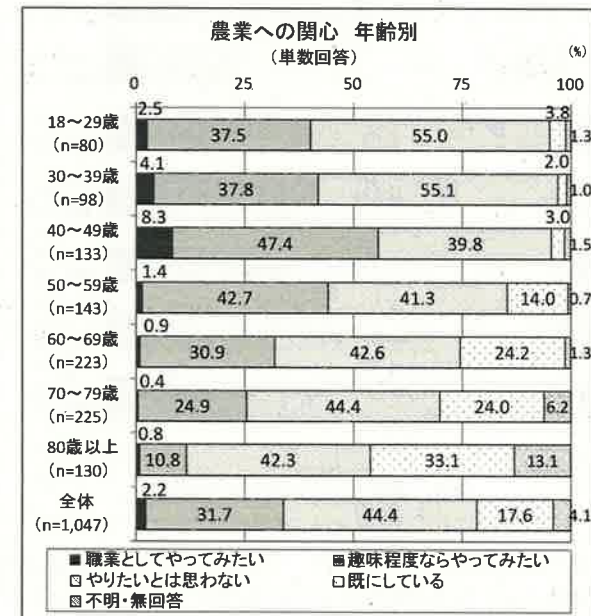


(7) 農業への関心

「やりたいとは思わない」が最も多く 44.4%、次いで「趣味程度ならやってみたい」が 31.7%、「既になっている」が 17.6%などとなっています。

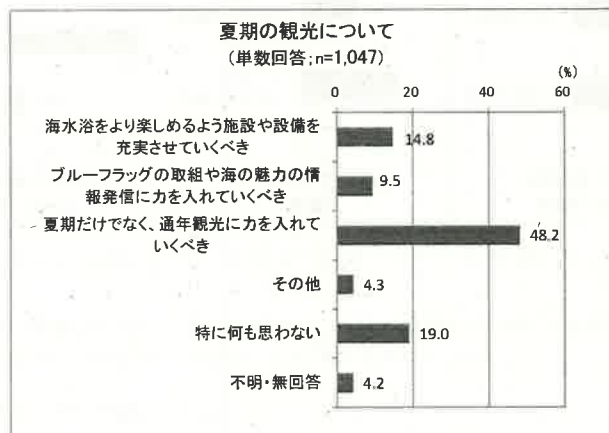


年齢別にみると、どの年代でも「やりたいとは思わない」が最も多く、40%を超えています。また、年齢別による有意な差はみられません。



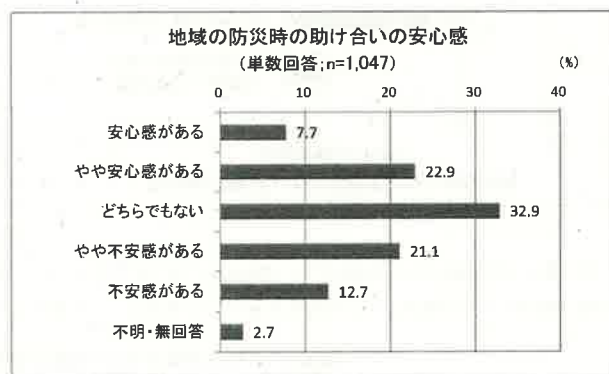
(8) 夏季の観光について

「夏期だけでなく、通年観光に力を入れていくべき」が最も多く 48.2%、次いで「特に何も思わない」が 19.0%、「海水浴をより楽しめるよう施設や設備を充実させていくべき」が 14.8%、「ブルーフラッグの取組や海の魅力の情報発信に力を入れていくべき」が 9.5%などとなっています。



(9) 地域の防災時の助け合いの安心感

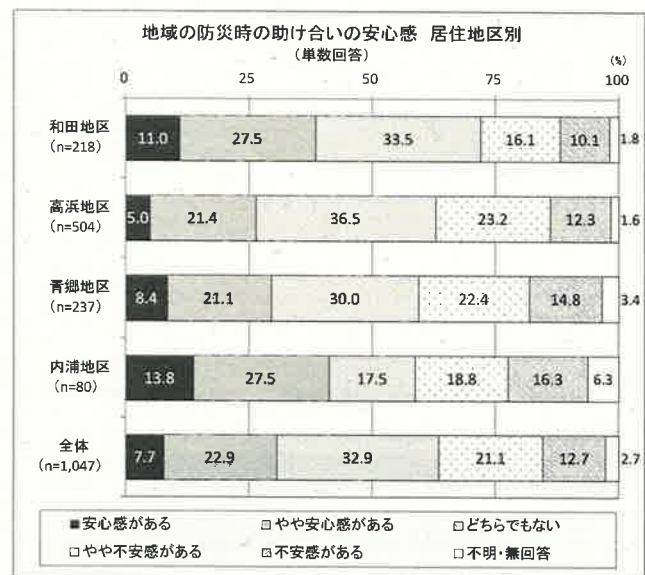
「どちらでもない」が最も多く 32.9%、次いで「やや安心感がある」が 22.9%、「やや不安感がある」が 21.1%となっています。



年齢別にみると、「18～29歳」以外の年代では『不安感がある』（「やや不安感がある」「不安感がある」の合計）が20%を超えています。また、年齢別による有意な差はみられません。

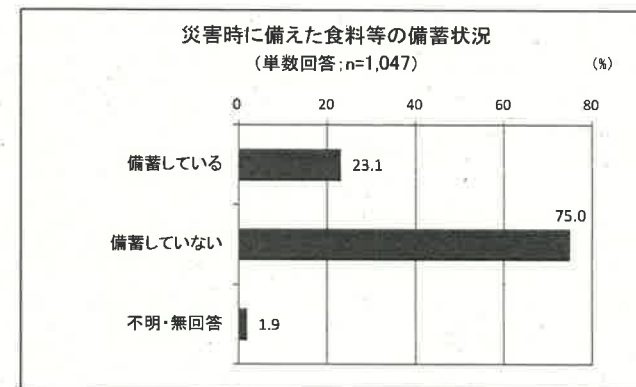


居住地区別にみると、どの居住地区でも『不安感がある』(「やや不安感がある」「不安感がある」の合計)が25%を超えています。また、居住地区別による有意な差はみられません。



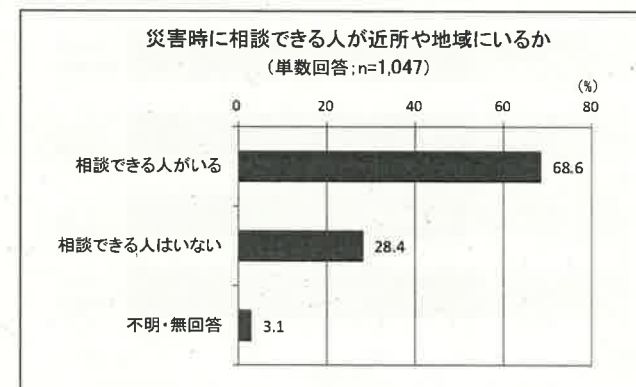
(10) 災害時に備えた食料等の備蓄状況

「備蓄していない」が75.0%、「備蓄している」が23.1%となっています。



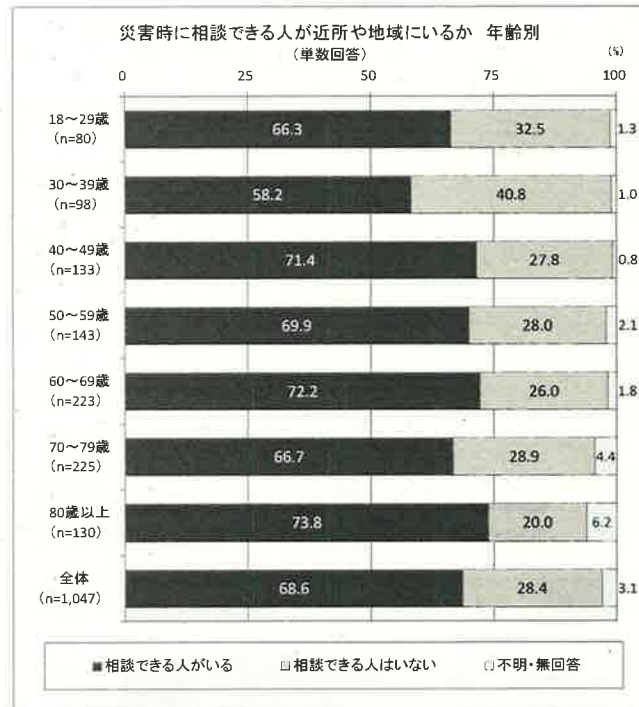
(11) 災害時に相談できる人が近所や地域にいるか

「相談できる人がいる」が68.6%、「相談できる人はいない」が28.4%となっています。

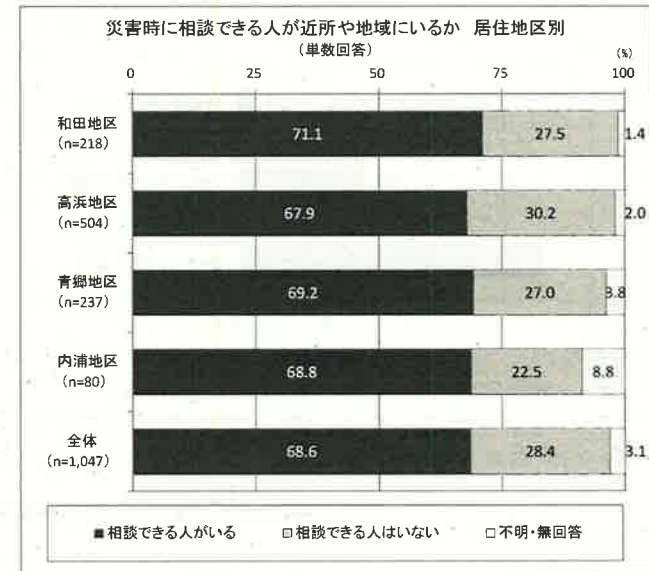




年齢別にみると、どの年代でも「相談できる人はいない」が20%を超えています。また、年齢別による有意な差はみられません。

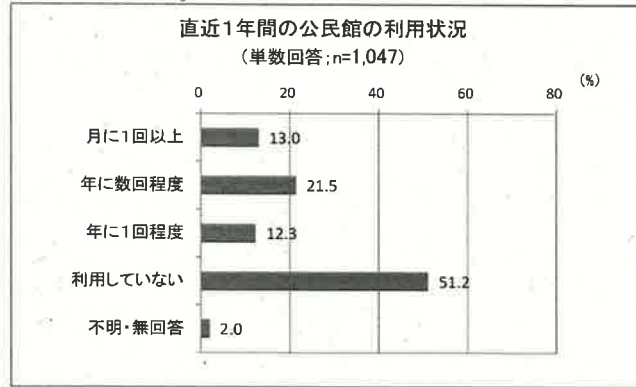


居住地区別にみると、どの居住地区でも「相談できる人はいない」が20%を超えています。また、居住地区別による有意な差はみられません。



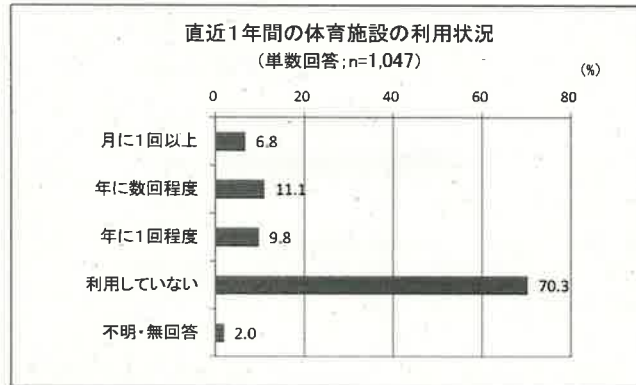
(12) 直近1年間の公民館の利用状況

「利用していない」が最も多く51.2%、次いで「年に数回程度」が21.5%、「月に1回以上」が13.0%、「年に1回程度」が12.3%となっています。



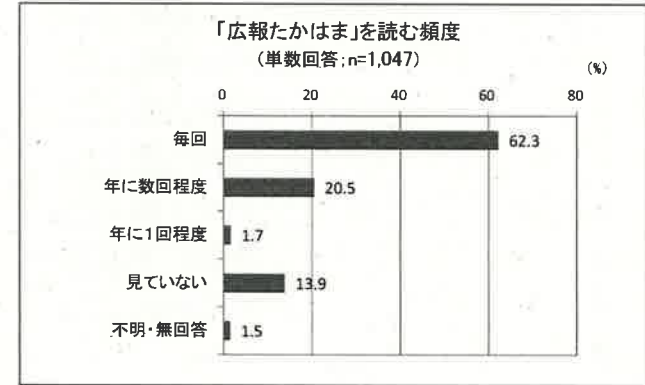
(13) 直近1年間の体育施設の利用状況

「利用していない」が最も多く70.3%、次いで「年に数回程度」が11.1%、「年に1回程度」が9.8%、「月に1回以上」が6.8%となっています。



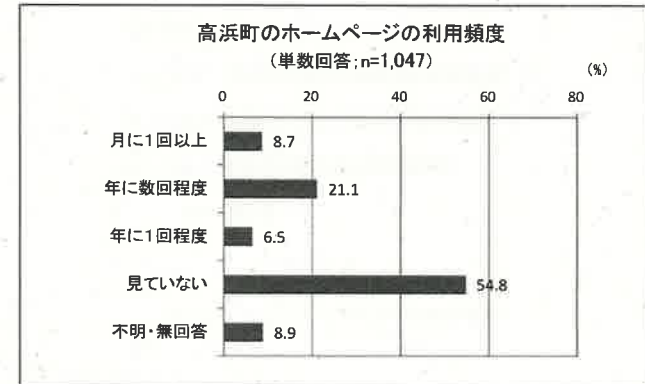
(14) 「広報たかはま」を読む頻度

「毎回」が最も多く62.3%、次いで「年に数回程度」が20.5%となっています。一方、「見えていない」が13.9%、「年に1回程度」が1.7%となっています。



(15) 高浜町のホームページの利用頻度

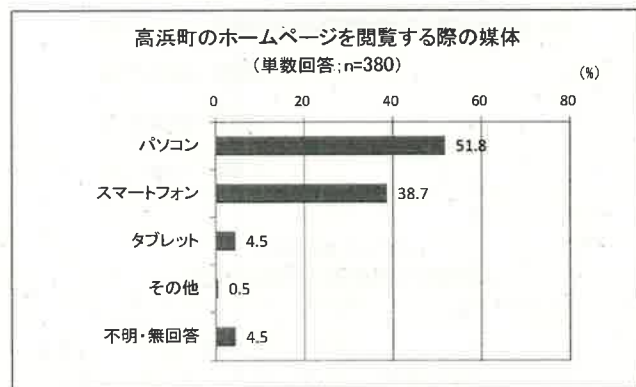
「見えていない」が最も多く54.8%、次いで「年に数回程度」が21.1%、「月に1回以上」が8.7%などとなっています。



■ 高浜町のホームページを閲覧する際の媒体

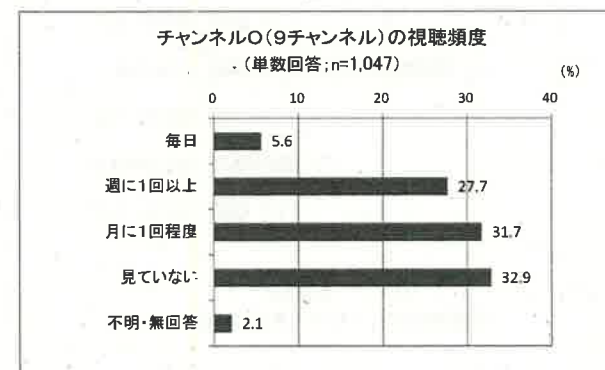
(「月に1回以上」「年に数回程度」「年に1回程度」の回答者)

「パソコン」が最も多く51.8%、次いで「スマートフォン」が38.7%、「タブレット」が4.5%などとなっています。

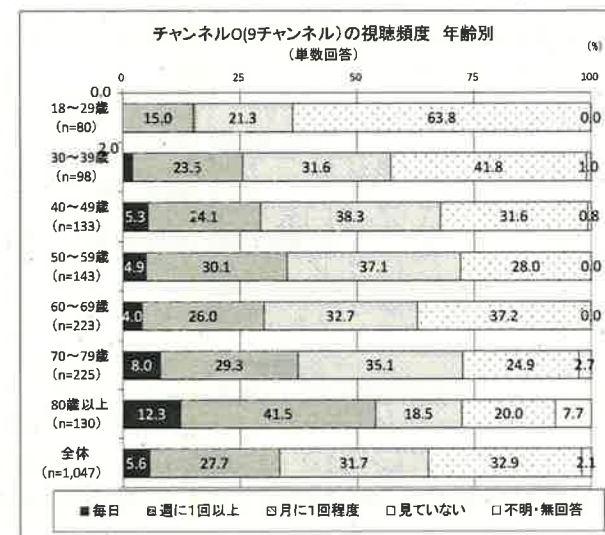


(16) チャンネルO(9チャンネル)の視聴頻度

「見ていない」が最も多く32.9%、次いで「月に1回程度」が31.7%、「週に1回以上」が27.7%、「毎日」が5.6%となっています。



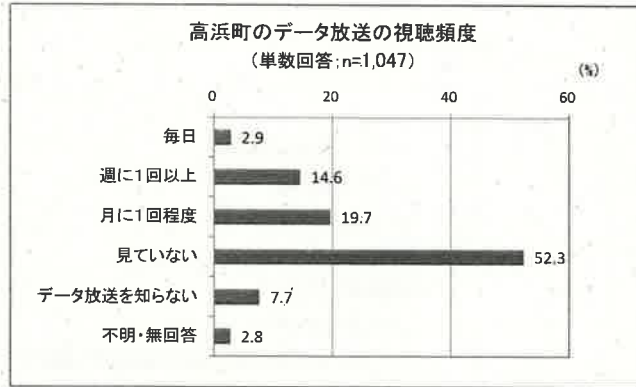
年齢別みると、「18～29歳」「30～39歳」「60～69歳」において、「見ていない」が最も多くなっています。



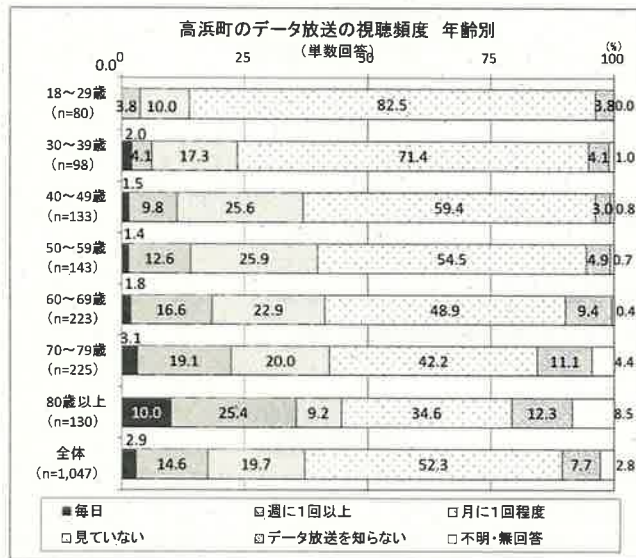


(17) 高浜町のデータ放送の視聴頻度

「見ていない」が最も多く 52.3%、次いで「月に1回程度」が 19.7%、「週に1回以上」が 14.6%などとなっています。

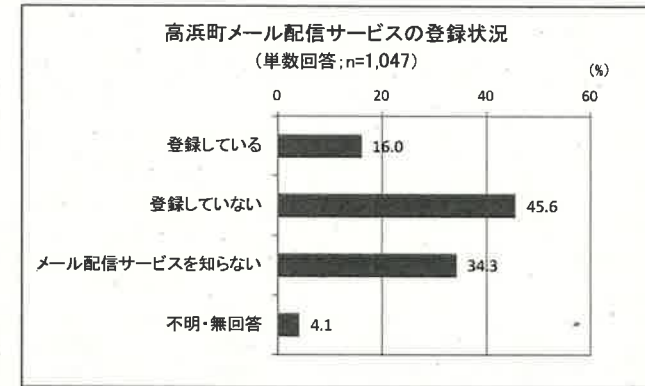


年齢別にみると、すべての年代で「見ていない」が最も多くなっています。

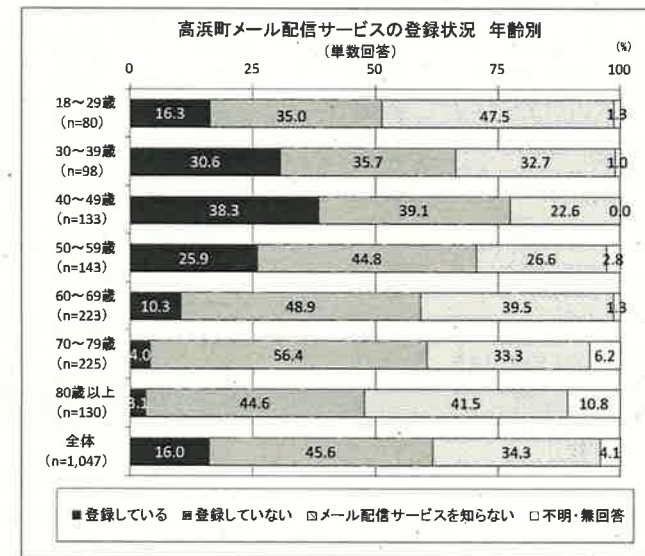


(18) 高浜町メール配信サービスの登録状況

「登録していない」が最も多く 45.6%、次いで「メール配信サービスを知らない」が 34.3%、「登録している」が 16.0%となっています。

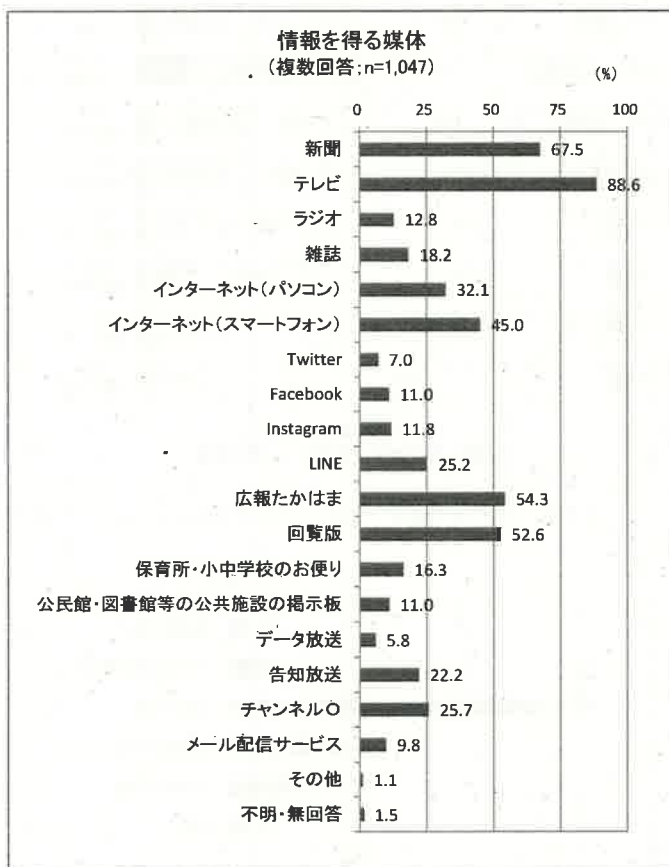


年齢別にみると、「18～29歳」では「メール配信サービスを知らない」が、その他の年代では「登録していない」が最も多くなっています。



(19) 情報を得る媒体

「テレビ」が最も多く 88.6%、次いで「新聞」が 67.5%、「広報たかはま」が 54.3%、「回覧板」が 52.6%、「インターネット（スマートフォン）」が 45.0%などとなっています。



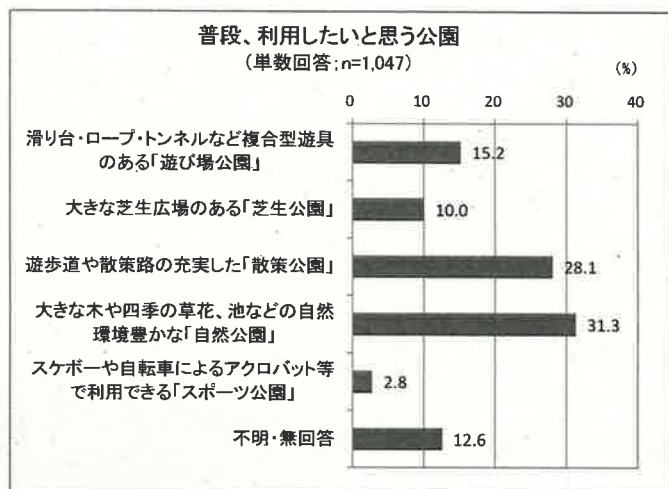
■ 情報を得る媒体（上位5項目、年齢別）

年代別の上位5項目は以下のとおりとなっています。「18~29歳」以外の年代において「テレビ」が最も多くなっています。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
18~29歳 (n=80)	インターネット (スマートフォン) 81.3%	テレビ 77.5%	LINE 48.8%	Instagram 43.8%	インターネット (パソコン) 35.0%
30歳代 (n=98)	テレビ 84.7%	インターネット (スマートフォン) 82.7%	LINE 55.1%	広報たかはま 44.9%	インターネット (パソコン) 39.8%
40歳代 (n=133)	テレビ 86.5%	インターネット (スマートフォン) 80.5%	新聞 57.1%	インターネット (パソコン) 49.6%	広報たかはま 46.6%
50歳代 (n=143)	テレビ 95.1%	新聞 77.6%	インターネット (スマートフォン) 62.9%	回覧板 61.5%	広報たかはま 58.7%
60歳代 (n=223)	テレビ 88.8%	新聞 78.9%	回覧板 61.9%	広報たかはま 57.0%	インターネット (スマートフォン) 41.7%
70歳代 (n=225)	テレビ 96.0%	新聞 88.0%	広報たかはま 70.7%	回覧板 67.6%	チャンネルO 32.0%
80歳以上 (n=130)	テレビ 84.6%	新聞 76.2%	回覧板 58.5%	広報たかはま 56.2%	チャンネルO 32.3%
全体 (n=1,047)	テレビ 88.6%	新聞 67.5%	広報たかはま 54.3%	回覧板 52.6%	インターネット (スマートフォン) 45.0%

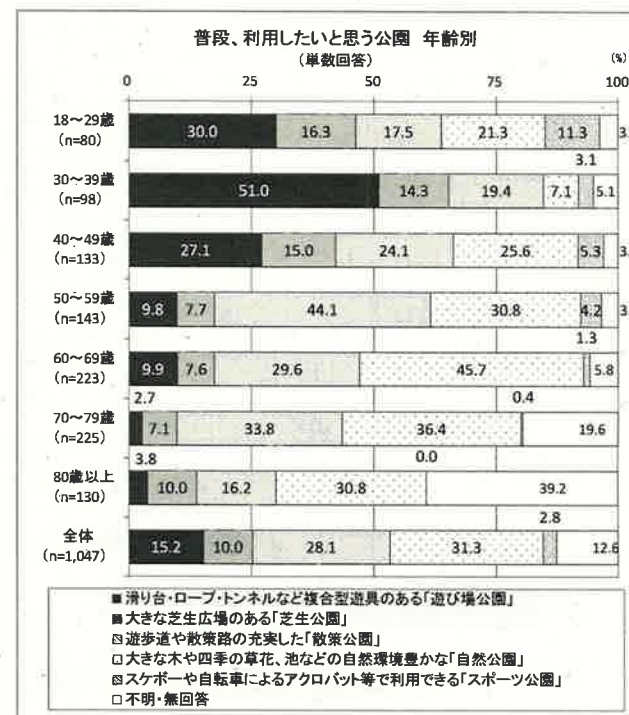
(20) 普段、利用したいと思う公園

「大きな木や四季の草花、池などの自然環境豊かな『自然公園』」が最も多く 31.3%、次いで「遊歩道や散策路の充実した『散策公園』」が 28.1%、「滑り台・ロープ・トンネルなど複合型遊具のある『遊び場公園』」が 15.2%などとなっています。



年齢別にみると、40歳代以下では「滑り台・ロープ・トンネルなど複合型遊具のある『遊び場公園』」が最も多くなっています。「大きな木や四季の草花、池などの自然環境豊かな『自然公園』」が「40歳代以上」では上位となっています。

また、年齢別による有意な差はみられません。





(21) 自慢できる高浜の地域資源

自慢できる高浜の地域資源として 280 人、延べ 513 件の回答があり、下記のように整理しました。

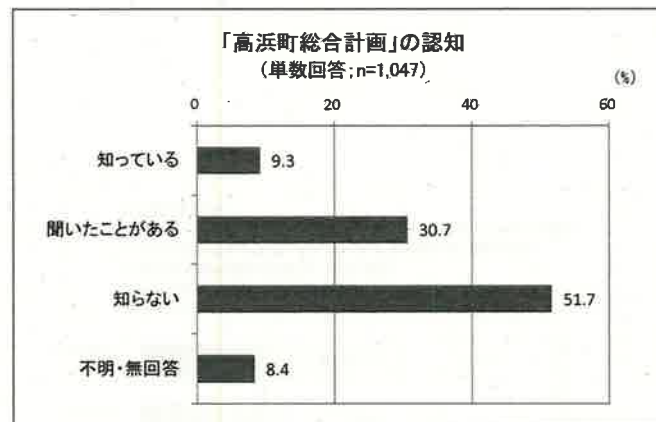
分類		内容
自然環境に関するもの(396)	山について(187)	山(101)、青葉山(68)、ハーバルビレッジ(7)、登山道・遊歩道(6)、安土山(5)
	海について(196)	海(168)、和田浜(21)、ブルーフラッグ(7)
	その他(13)	城山公園について(10)、星空について(3)
景色・景観・まちなみに関するもの(22)		山の風景(6)、沿岸の風景(4)、昔ながらの町並み(5)、その他(7)
歴史文化に関するもの(7)		寺社仏閣(5)、町屋(1)、古民家(1)
食文化に関するもの(64)		海産物(22)、魚(14)、農産物(12)、米(4)、トマト(4)、その他(8)
その他(24)		町民の人柄(9)、葉草(6)、季節のイベントや祭(3)、その他(6)

0 は件数

3. 高浜町総合計画について

(1) 「高浜町総合計画」の認知

「知らない」が最も多く 51.7%、次いで「聞いたことがある」が 30.7%、「知っている」が 9.3%となっています。

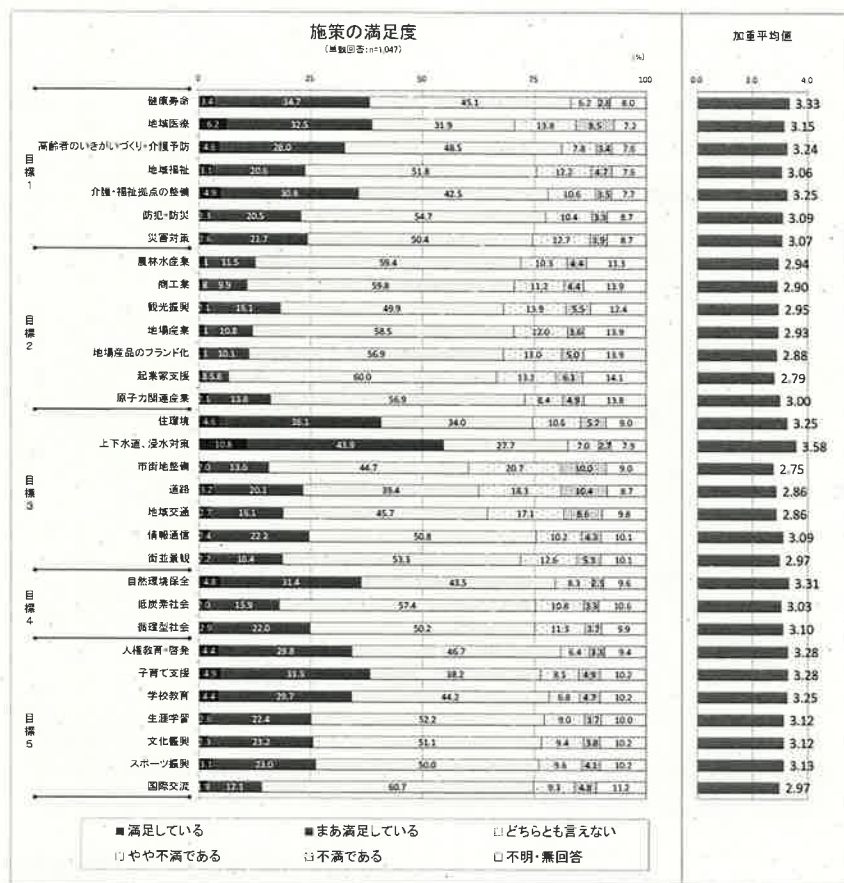


(2) 各政策の満足度

『満足』（「満足している」「まあ満足している」の合計）は「上下水道、浸水対策」が最も多く54.7%、次いで「住環境」が40.7%、「地域医療」が38.7%、「子育て支援」が38.2%、「健康寿命」が38.1%などとなっています。

一方、『不満』（「やや不満である」「不満である」の合計）は、「市街地整備」が最も多く30.7%、次いで「道路」が28.7%、「地域交通」が25.7%、「地域医療」が22.3%、「観光振興」が19.4%などとなっています。

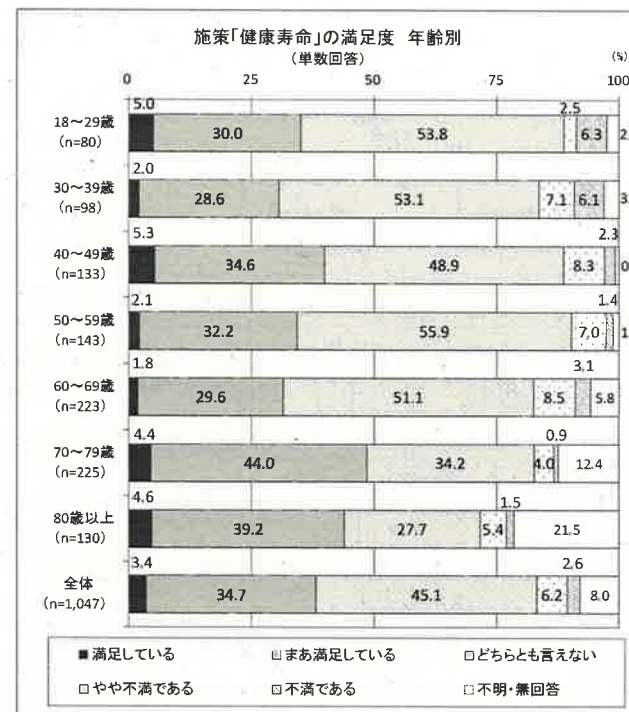
加重平均をみると、「上下水道」が最も高く3.58、次いで「健康寿命」が3.33、「自然環境保全」が3.31などとなっています。一方、「市街地整備」が最も低く2.75、次いで「起業家支援」が2.79、「道路」「地域交通」が2.86などとなっています。



■ 加重平均値が高い施策の属性別集計

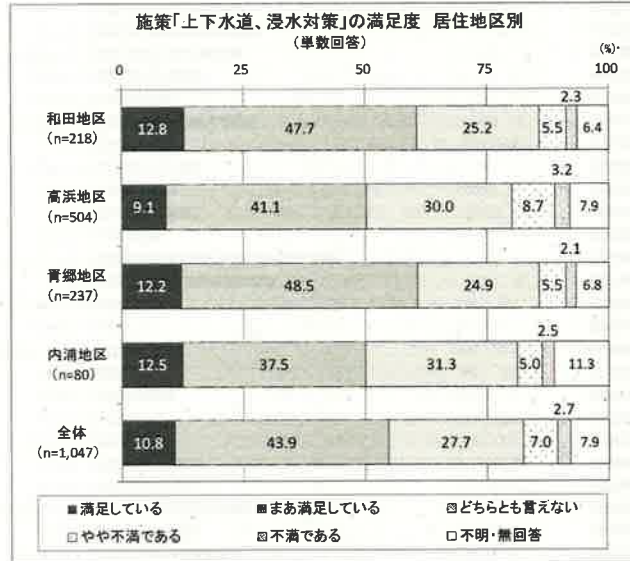
<健康寿命の年齢別満足度>

「健康寿命」について年齢別にみると、どの年代も『満足』（「満足している」「まあ満足している」の合計）は30%を超えています。また、年齢別による有意な差はみられません。



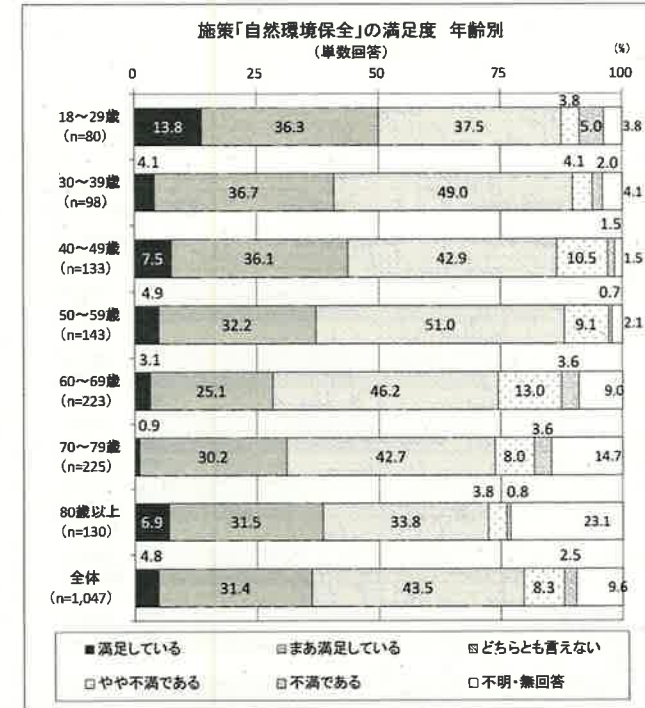
<上下水道、浸水対策の居住地区別満足度>

「上下水道、浸水対策」について居住地区別にみると、どの居住地区も『満足』（「満足している」「まあ満足している」の合計）は50%を超えています。また、居住地区別による有意な差はみられません。



<自然環境保全の年齢別満足度>

「自然環境保全」について年齢別にみると、どの年代も『満足』（「満足している」「まあ満足している」の合計）は30%を超えています。また、年齢別による有意な差はみられません。





■ 加重平均値が低い施策の属性別集計について

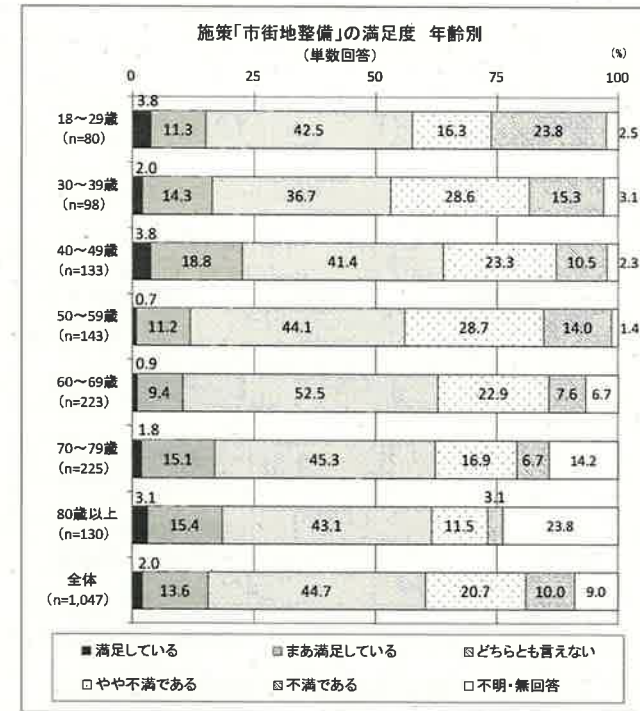
<起業家支援の年齢別満足度>

「起業家支援」について年齢別にみると、70歳以下の年代では、『満足』（「満足している」「まあ満足している」の合計）よりも『不満』（「不満である」「やや不満である」の合計）が多くなっています。また、年齢別による有意な差はみられません。



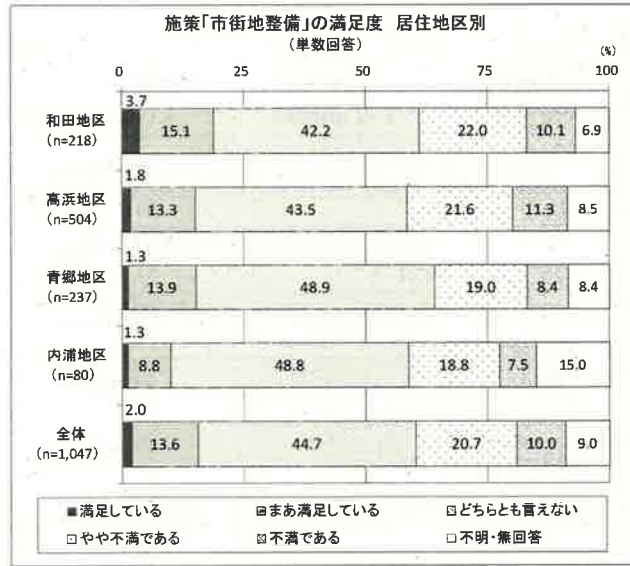
<市街地整備の年齢別満足度>

「市街地整備」について年齢別にみると、70歳以下の年代では、『不満』（「やや不満である」「不満である」の合計）が『満足』（「満足している」「やや満足している」の合計）を上回っています。また、年齢別による有意な差はみられません。



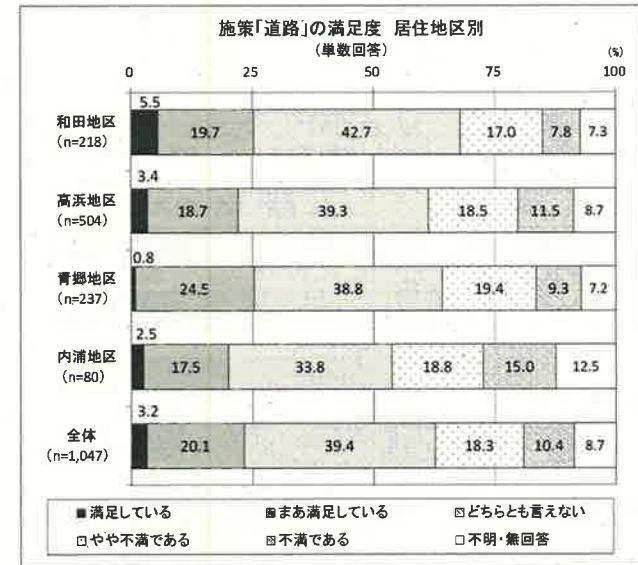
<市街地整備の居住地区別満足度>

「市街地整備」について居住地区別にみると、どの居住地区も『不満』（「やや不満である」「不満である」の合計）は 25%を超えており、『不満』（「やや不満である」「不満である」の合計）が『満足』（「やや不満である」「不満である」の合計）を上回っています。また、居住地区別による有意な差はみられません。



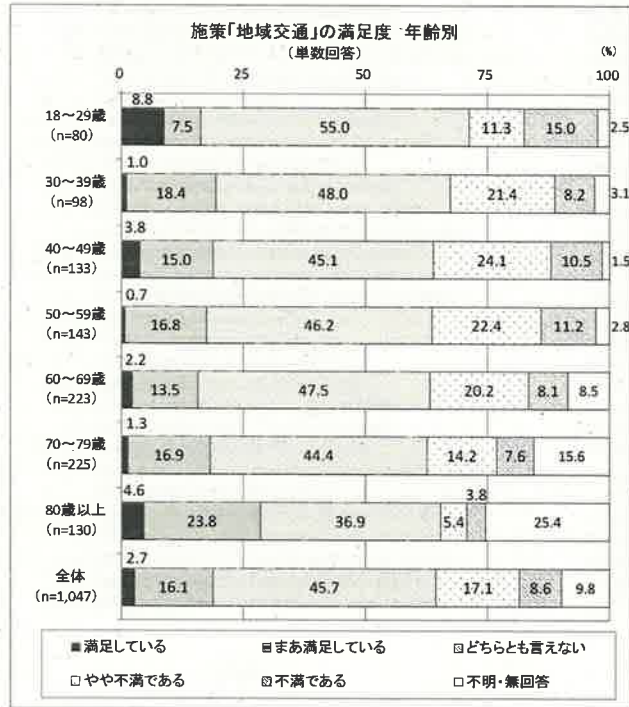
<道路の居住地区別満足度>

「道路」について居住別みると「和田地区」以外の地区には、『不満』（「やや不満である」「不満である」の合計）が『満足』（「満足している」「やや満足している」の合計）を上回っています。また、「和田地区」で「満足している」が多くなっています。



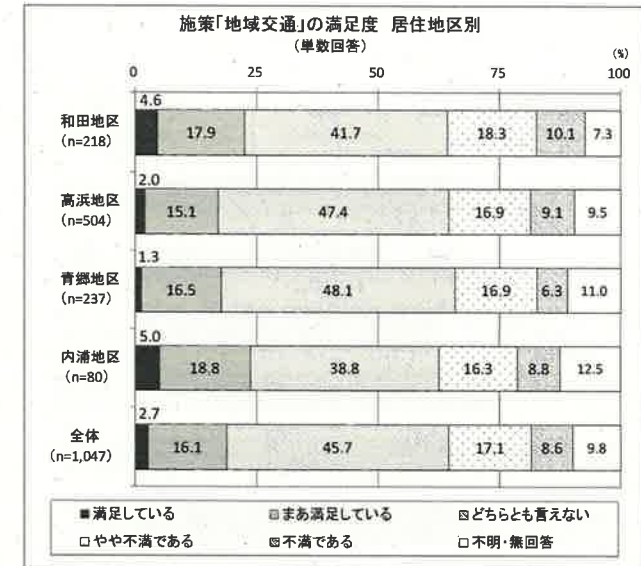
<地域交通の年齢別満足度>

「地域交通」について年齢別にみると、70歳以下の年代では、『不満』（「やや不満である」「不満である」の合計）が『満足』（「満足している」「やや満足している」の合計）を上回っています。また、年齢別による有意な差はみられません。



<地域交通の居住地区別満足度>

「地域交通」について居住地区別にみると、どの居住地区も『不満』（「やや不満である」「不満である」の合計）が20%を超えており、『不満』（「やや不満である」「不満である」の合計）が『満足』（「満足している」「やや満足している」の合計）を上回っています。また、「内浦地区」で「満足している」が多くなっています。





(3) 各政策の重要度

『重要』（「重要である」「まあ重要である」の合計）は、「地域医療」が最も多く 84.1%、次いで「介護・福祉拠点の整備」が 82.6%、「上下水道、浸水対策」が 82.2%、「地域福祉」が 80.6%、「子育て支援」「学校教育」が 80.5%などとなっています。

一方、『重要でない』（「あまり重要でない」「重要でない」の合計）は、「街並景観」が最も多く 7.6%、次いで「国際交流」が 5.6%、「文化振興」が 5.4%、「スポーツ振興」が 3.9%などとなっています。

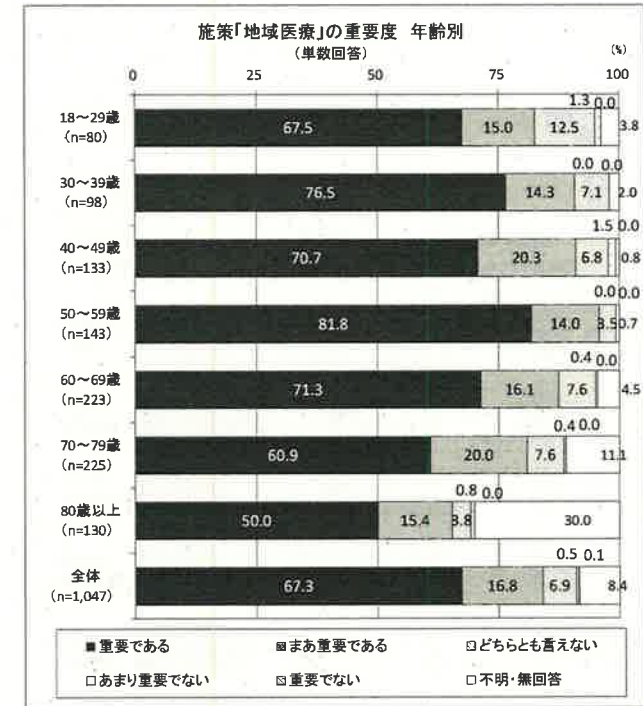
加重平均をみると、「地域医療」が最も高く 4.65、次いで「学校教育」が 4.57、「子育て支援」「介護・福祉拠点の整備」が 4.54 などとなっています。



■ 加重平均値が高い施策の属性別集計

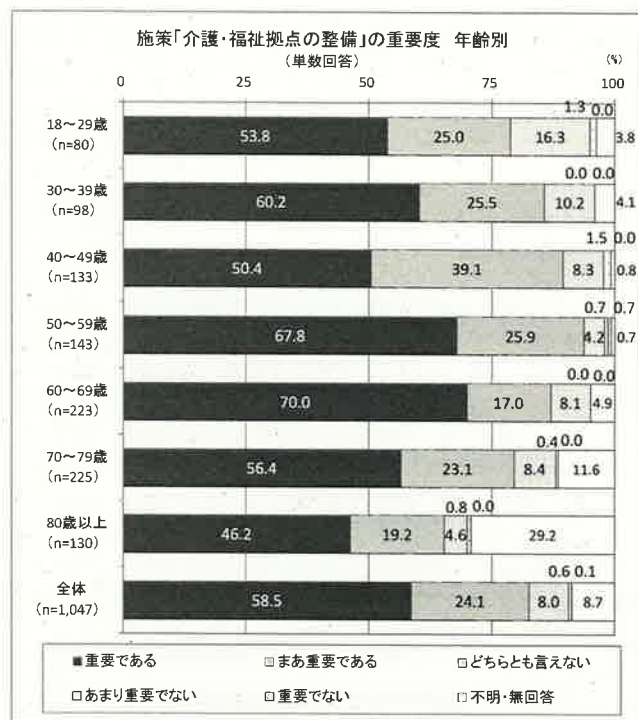
＜地域医療の年齢別重要度＞

「地域医療」について年齢別にみると、どの年代も『重要』（「重要である」「まあ重要である」の合計）は 65%を超えています。また、年齢別による有意な差はみられません。



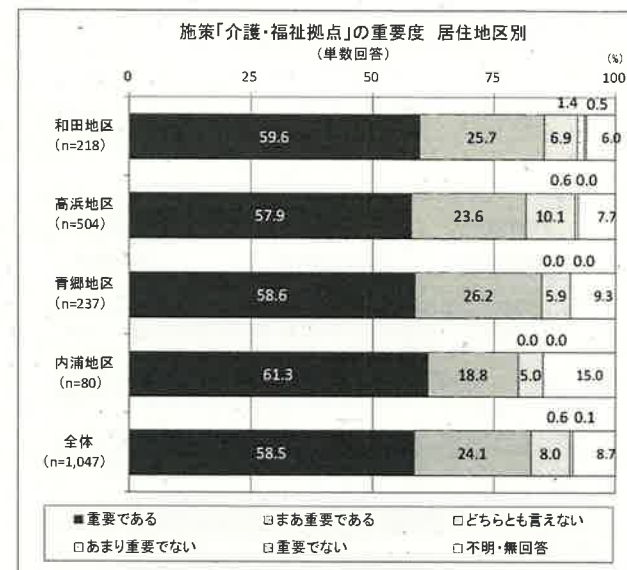
<介護・福祉拠点の整備の年齢別重要度>

「介護・福祉拠点の整備」について年齢別にみると、どの年代も『重要』（「重要である」「まあ重要である」の合計）は65%を超えています。また、年齢別による有意な差はみられません。



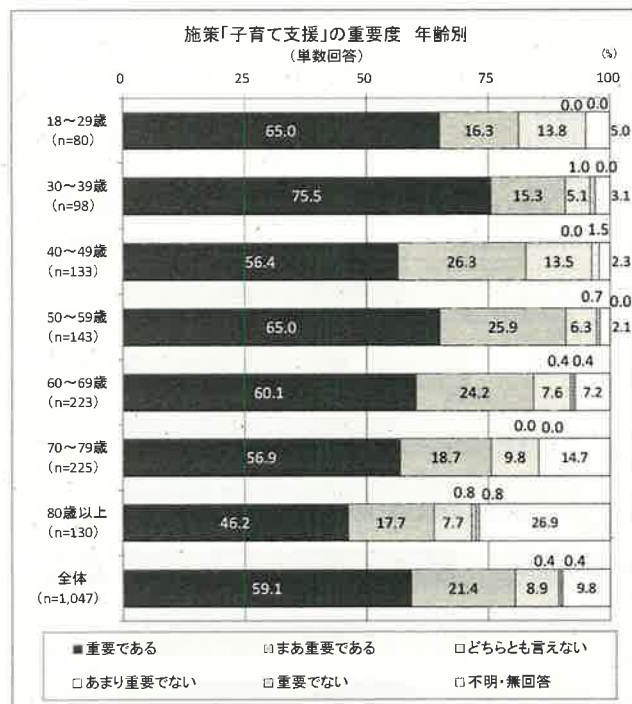
<介護・福祉拠点の整備の居住地区別重要度>

「介護・福祉拠点の整備」について居住地区別にみると、どの居住地区も『重要』（「重要である」「まあ重要である」の合計）は80%を超えています。また、居住地区別による有意な差はみられません。



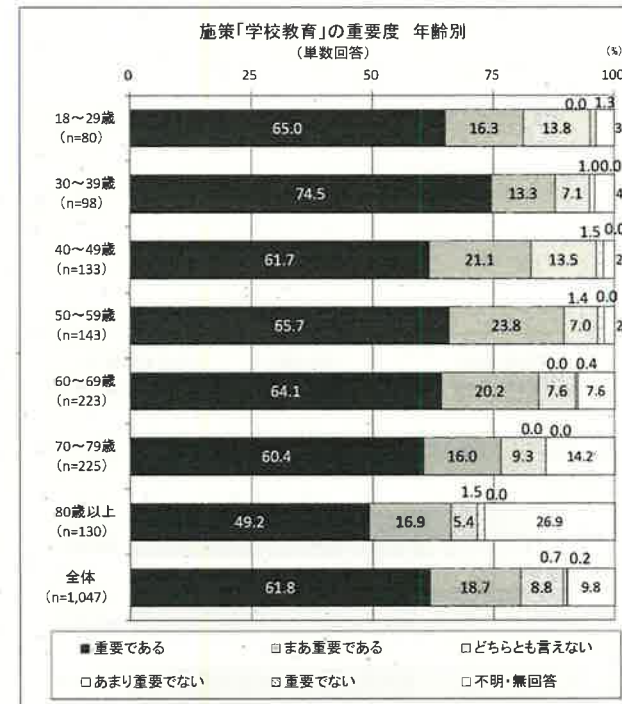
<子育て支援の年齢別重要度>

「子育て支援」について年齢別にみると、どの年代も『重要』（「重要である」「まあ重要である」の合計）は65%を超えています。また、年齢別による有意な差はみられません。



<学校教育の年齢別重要度>

「学校教育」について年齢別にみると、どの年代も『重要』（「重要である」「まあ重要である」の合計）は65%を超えています。また、年齢別による有意な差はみられません。





(4) 各政策の満足度と重要度

■ 全体

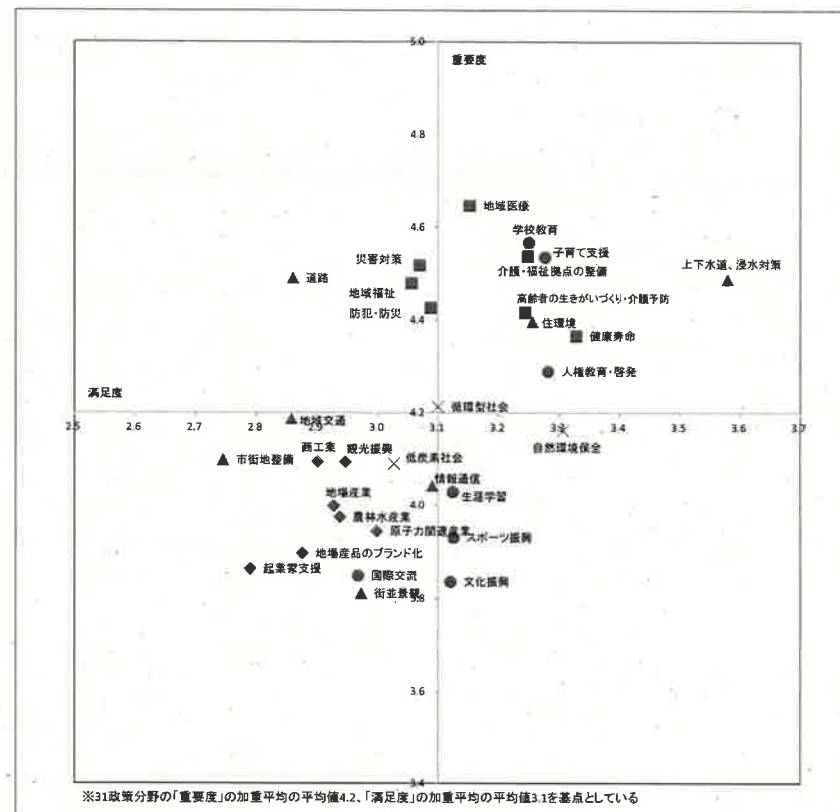
それぞれの設問において、結果の加重平均を求め、2軸4象限にプロットすることで、各政策について、満足度と重要度を評価しました。

なお加重平均は、満足度については、「満足している」+5、「まあ満足している」+4、「どちらともいえない」3、「やや不満である」2、「不満である」1、また、重要度については「重要である」+5、「まあ重要である」+4、「どちらともいえない」+3、「あまり重要でない」+2、「重要でない」+1の加重評点を与えて平均点を算出しています。

<分野：カッコ内は図中の記号>

<p>【目標1『誰もが安心して暮らせるまち』政策分野1~7】(■)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康寿命</li> <li>地域医療</li> <li>高齢者のいきがづくり・介護予防</li> <li>地域福祉</li> <li>介護・福祉拠点の整備</li> <li>防犯・防災</li> <li>災害対策</li> </ol>	<p>【目標4『豊かな自然を守り、地球環境に貢献するまち』政策分野22~24】(×)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自然環境保全</li> <li>低炭素社会</li> <li>循環型社会</li> </ol>
<p>【目標2『いきいきと働くことができるまち』政策分野8~14】(◆)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>農林水産業</li> <li>商工業</li> <li>観光振興</li> <li>地場産業</li> <li>地場産品のブランド化</li> <li>起業家支援</li> <li>原子力関連産業</li> </ol>	<p>【目標5『学びあい・教えあい、そして、人を育むまち』政策分野25~31】(●)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人権教育・啓発</li> <li>子育て支援</li> <li>学校教育</li> <li>生涯学習</li> <li>文化振興</li> <li>スポーツ振興</li> <li>国際交流</li> </ol>
<p>【目標3『安全快適で住みやすいまち』政策分野15~21】(▲)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>住環境</li> <li>上下水道、浸水対策</li> <li>市街地整備</li> <li>道路</li> <li>地域交通</li> <li>情報通信</li> <li>街並景観</li> </ol>	

「地域福祉」「防犯・防災」「災害対策」「道路」は重要度が高く、満足度が低くなっています。

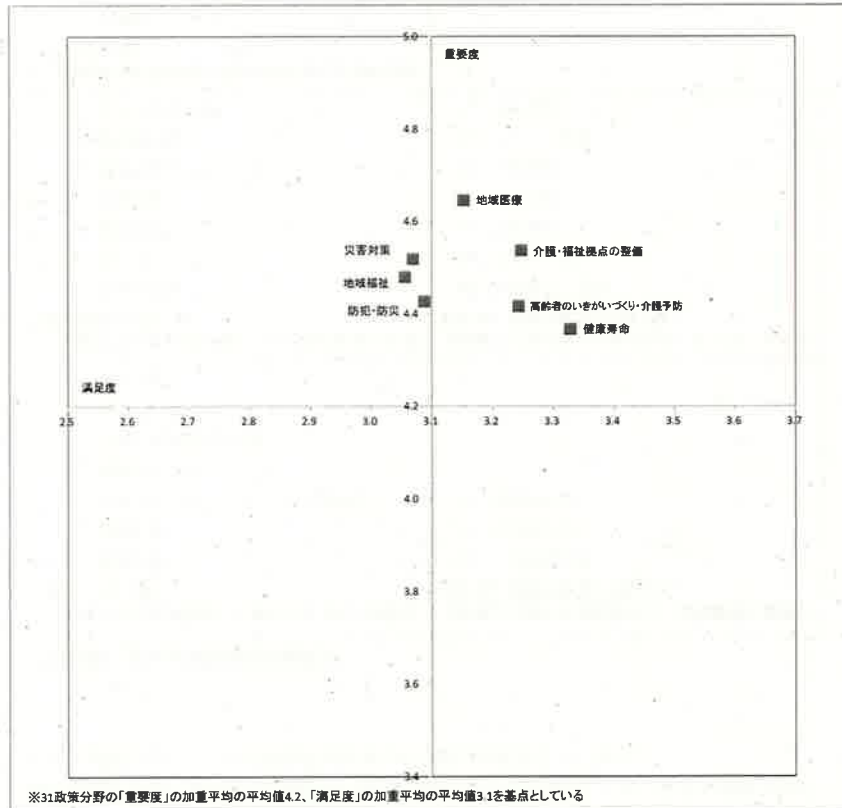


■ 目標別

【目標1『誰もが安心して暮らせるまち』】

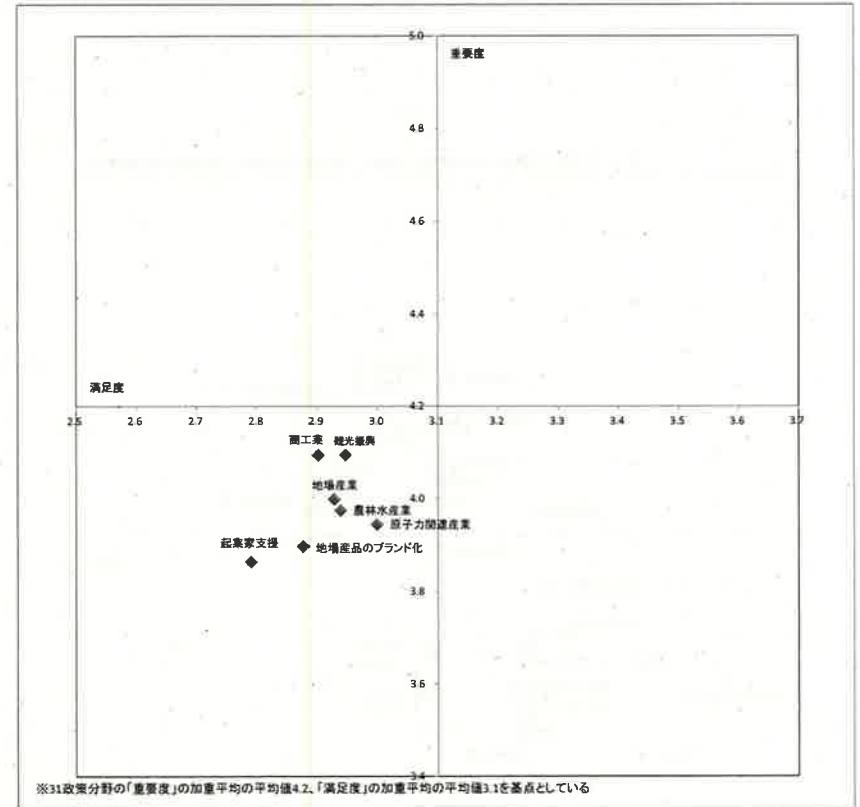
「地域福祉」「防犯・防災」「災害対策」は重要度が高く、満足度が低くなっています。

「健康寿命」「高齢者のいきがいづくり・介護予防」「地域福祉」「介護・福祉拠点の整備」は満足度、重要度ともに高くなっています。



【目標2『いきいきと働けることができるまち』】

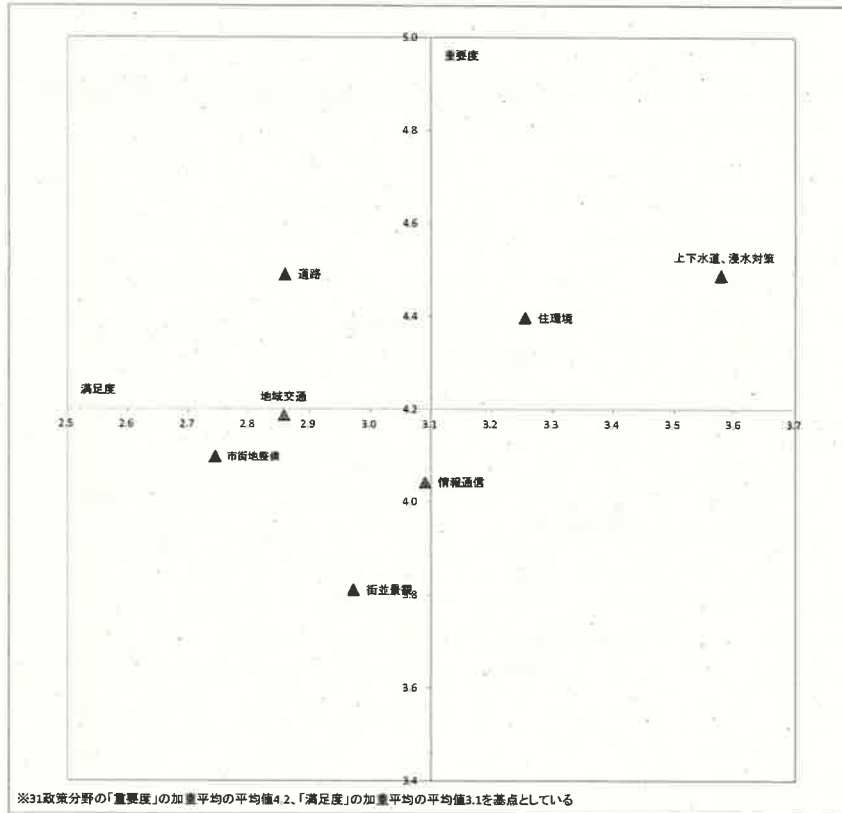
すべての分野において、満足度、重要度ともに平均を下回る位置にあります。



【目標3 『安全快適で住みやすいまち』】

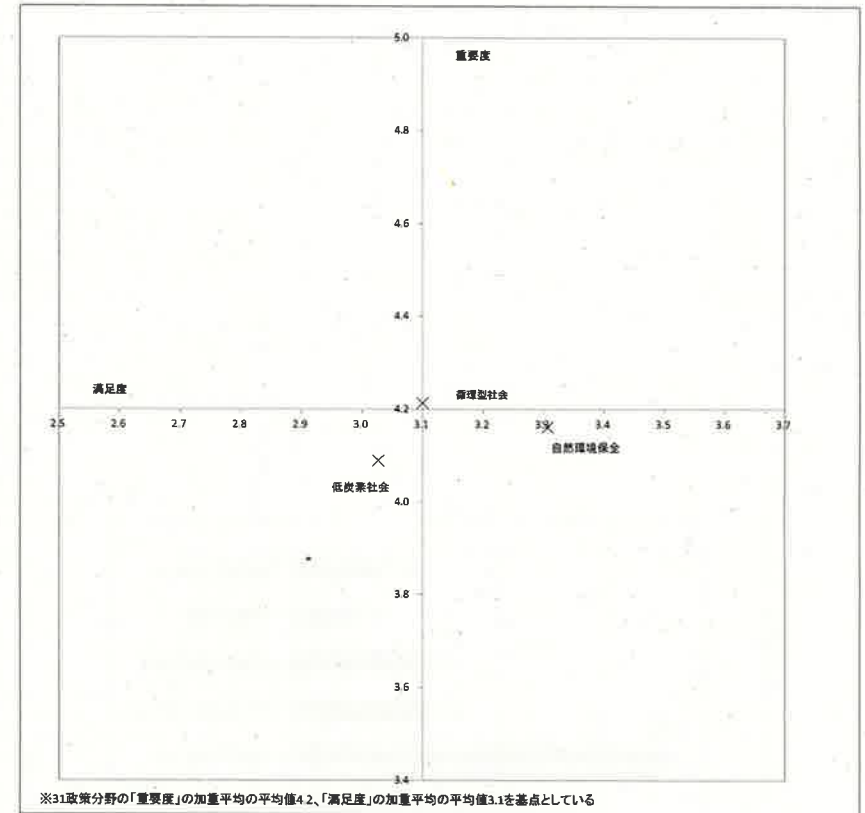
「道路」は重要度が高く、満足度が低くなっています。

満足度が平均を上回る位置にある分野が2分野、重要度が平均を下回る分野が4分野となっています。また、「上下水道、浸水対策」は全31分野の中で最も満足度が高くなっています。



【目標4 『豊かな自然を守り、地球環境に貢献するまち』】

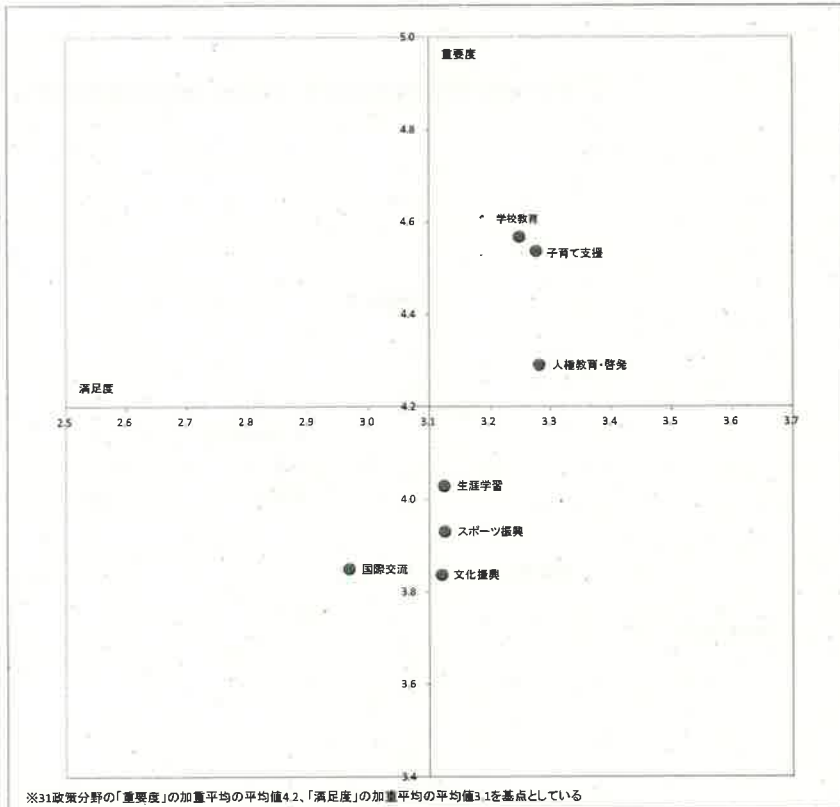
「自然環境保全」「低炭素社会」で重要度が平均よりも低くなっています。





【目標5 『学びあい・教えあい、そして、人を育むまち』】

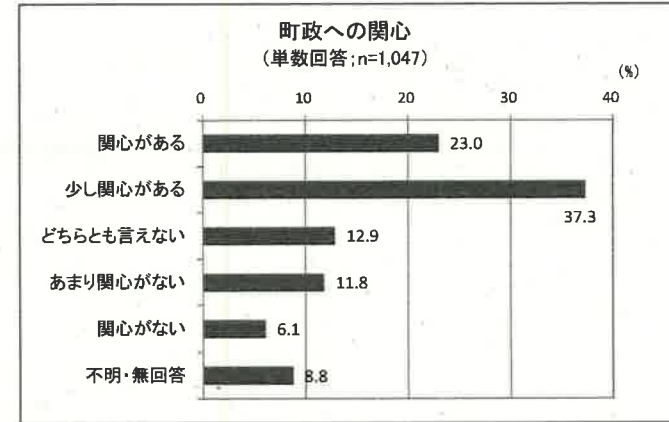
「国際交流」は満足度が平均よりも低くなっています。また、「子育て支援」「学校教育」「人権教育・啓発」は満足度、重要度ともに高くなっています。



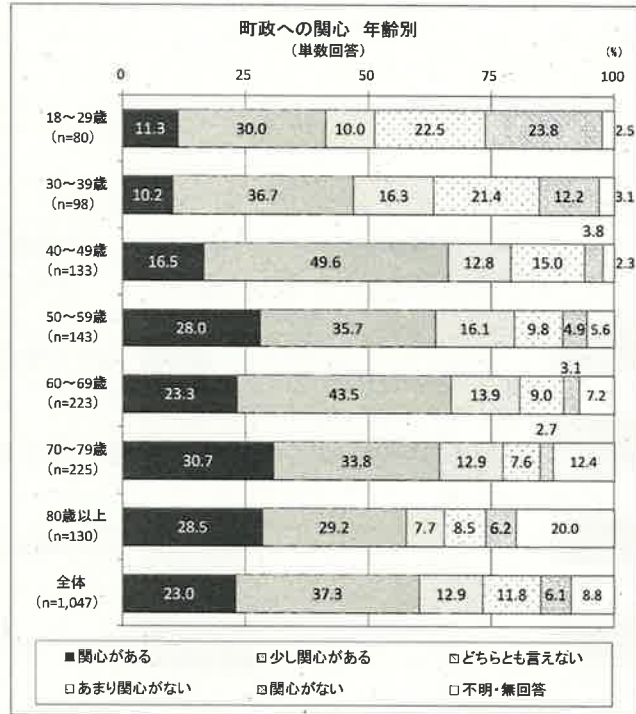
4. 町政について

(1) 町政への関心

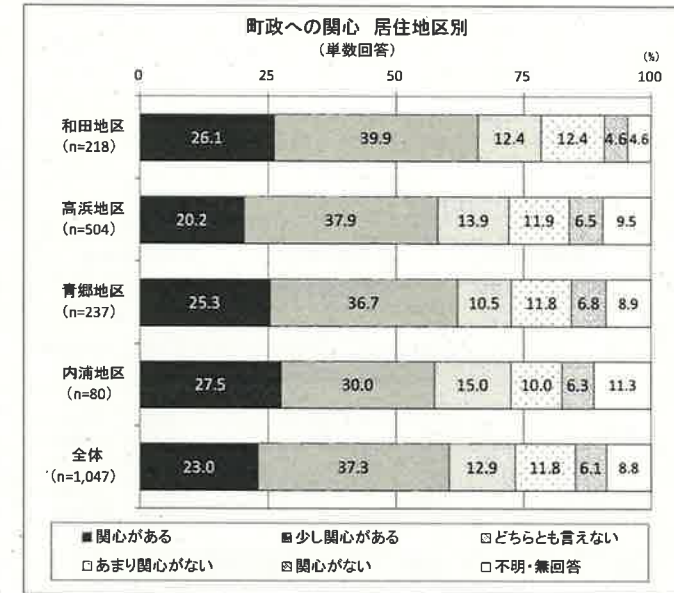
「少し関心がある」が最も多く 37.3%、次いで「関心がある」が 23.0%、「どちらとも言えない」が 12.9%、「あまり関心がない」が 11.8%などとなっています。



年齢別にみると、どの年代でも『関心がある』（「関心がある」「少し関心がある」の合計）が『関心がない』（「あまり関心がない」「関心がない」の合計）を上回っています。また、年齢別による有意な差はみられません。



居住地区別にみると、どの居住地区でも『関心がある』（「関心がある」「少し関心がある」の合計）が55%を超えています。また、居住地区別による有意な差はみられません。

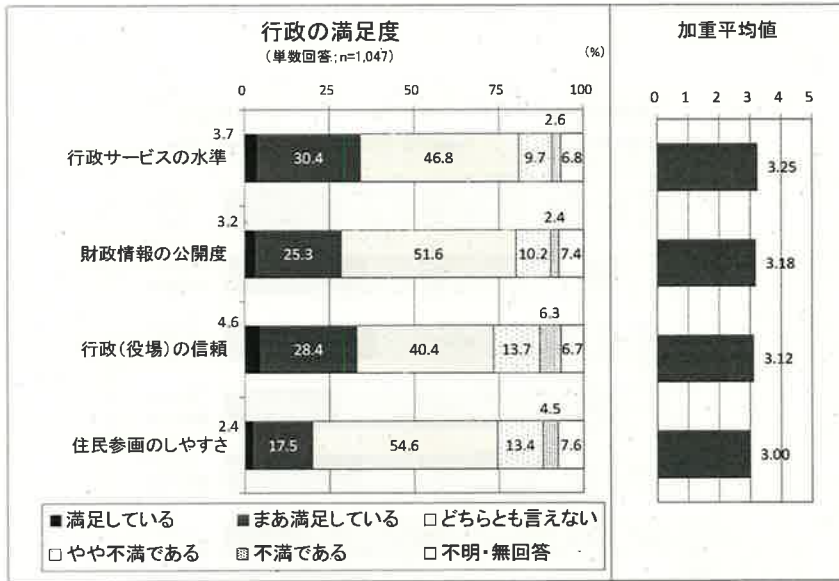


(2) 行政の満足度

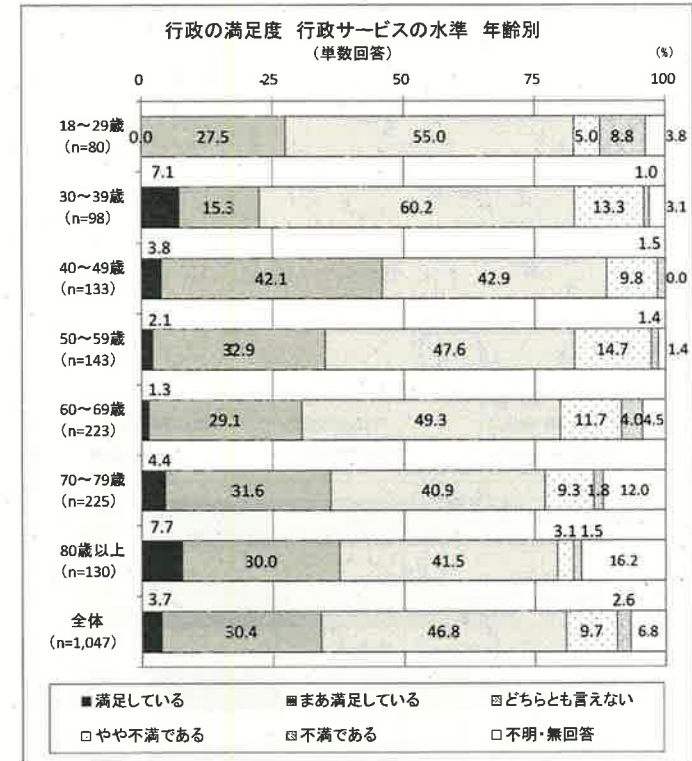
『満足』（「満足している」「まあ満足している」の合計）は「行政サービスの水準」が最も多く 34.1%、次いで「行政（役場）の信頼」が 33.0%、「財政情報の公開度」が 28.5%などとなっています。

加重平均をみると、「行政サービスの水準」が最も高く 3.25、次いで「財政情報の公開度」が 3.18、「行政（役場）の信頼度」が 3.12、「住民参画のしやすさ」が 3.00 となっています。

「行政（役場）の信頼」は「満足している」が最も多い一方で、「やや不満である」「不満である」も最も多くなっています。

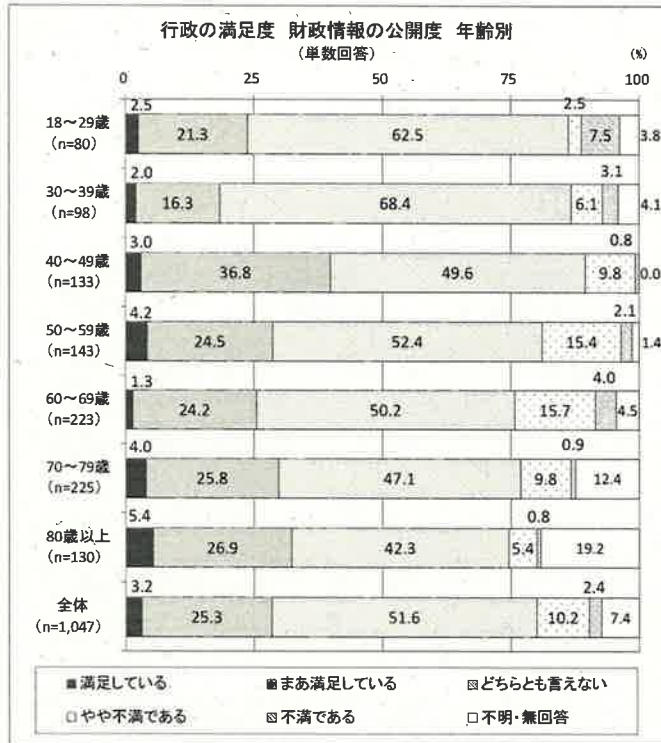


「行政サービスの水準」について年齢別にみると、どの年代も『満足』（「満足している」「まあ満足している」の合計）が『不満』（「やや不満である」「不満である」の合計）を上回っています。また、年齢別による有意な差はみられません。

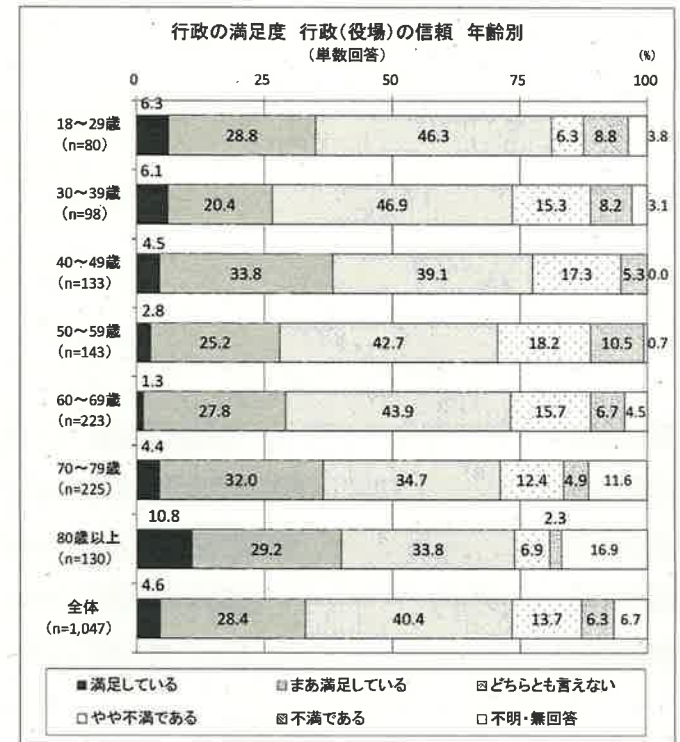




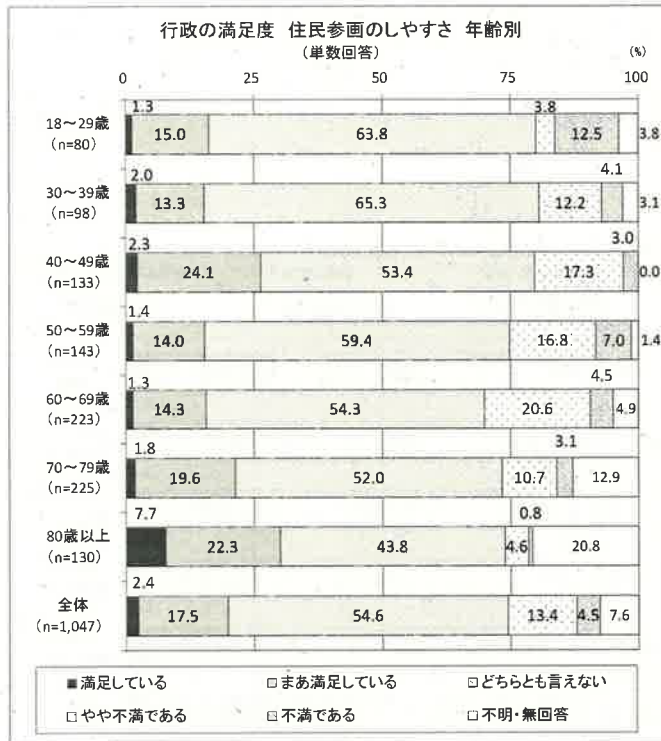
「財政情報の公開度」について年齢別にみると、「40～49歳」「80歳以上」では『満足』（「満足している」「まあ満足している」の合計）が30%を超えています。それ以外の年代で下回っています。また、年齢別による有意な差はみられません。



「行政（役場）の信頼」について年齢別にみると、「40～49歳」「70～79歳」「80歳以上」では『満足』（「満足している」「まあ満足している」の合計）が30%を上回っていますが、それ以外の年代で下回っています。また、年齢別による有意な差はみられません。



「住民参画のしやすさ」について年齢別にみると、「30～39歳」「50～59歳」「60～69歳」では、『不満』（「やや不満である」「不満である」の合計）が『満足』（「満足している」「まあ満足している」の合計）を上回っています。



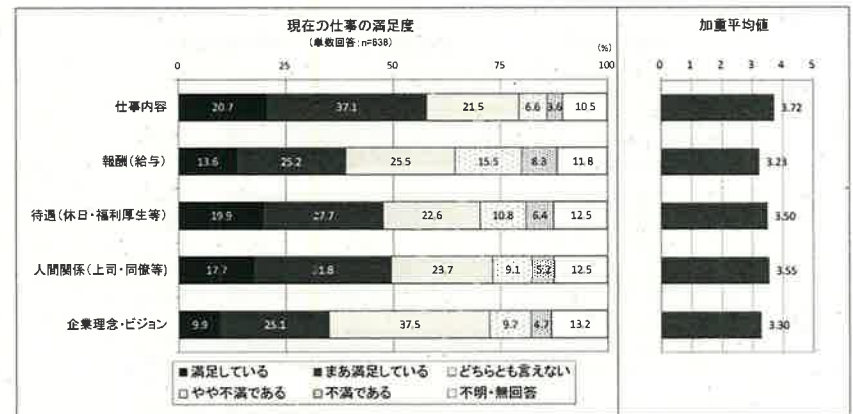
## 5. 就職状況と雇用について

### (1) 現在の仕事の満足度（現在、仕事をしている人のみ回答）

『満足』（「満足している」「まあ満足している」の合計）は「仕事内容」が最も多く 57.8%、次いで「人間関係（上司・同僚等）」が 49.5%、「待遇（休日・福利厚生等）」が 47.6%などとなっています。

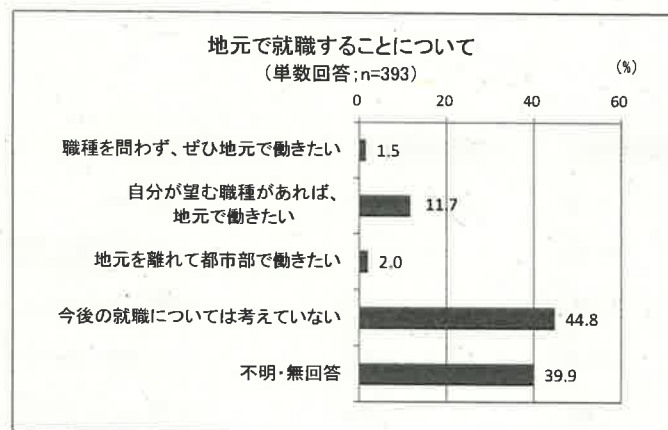
加重平均をみると、「仕事内容」が最も高く 3.72、次いで「人間関係（上司・同僚等）」が 3.55、「待遇（休日・福利厚生等）」が 3.50、「企業理念・ビジョン」が 3.30 となっています。

「報酬（給与）」については、「不満である」が最も多く、加重平均も最も低くなっています。



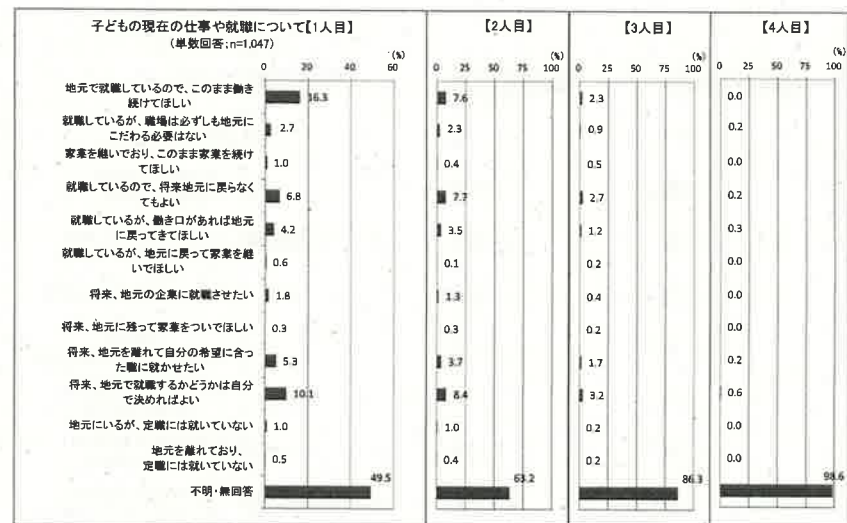
(2) 地元で就職することについて（現在、仕事をしていない人のみ回答）

「今後の就職については考えていない」が最も多く 44.8%、次いで「不明・無回答」が 39.9%、「自分が望む職種があれば、地元で働きたい」が 11.7%などとなっています。



(3) 子どもの現在の仕事や就職について

1人目は「地元で就職しているので、このまま働き続けてほしい」が 16.3%、「将来、地元で就職するかどうかは自分で決めればよい」が 10.1%、「就職しているので、地元に戻らなくてもよい」が 6.8%などとなっています。なお、「不明・無回答」が多くなっていますが、回答者のうち 70 歳以上が 30%を超えていることが関係していると推察されます。

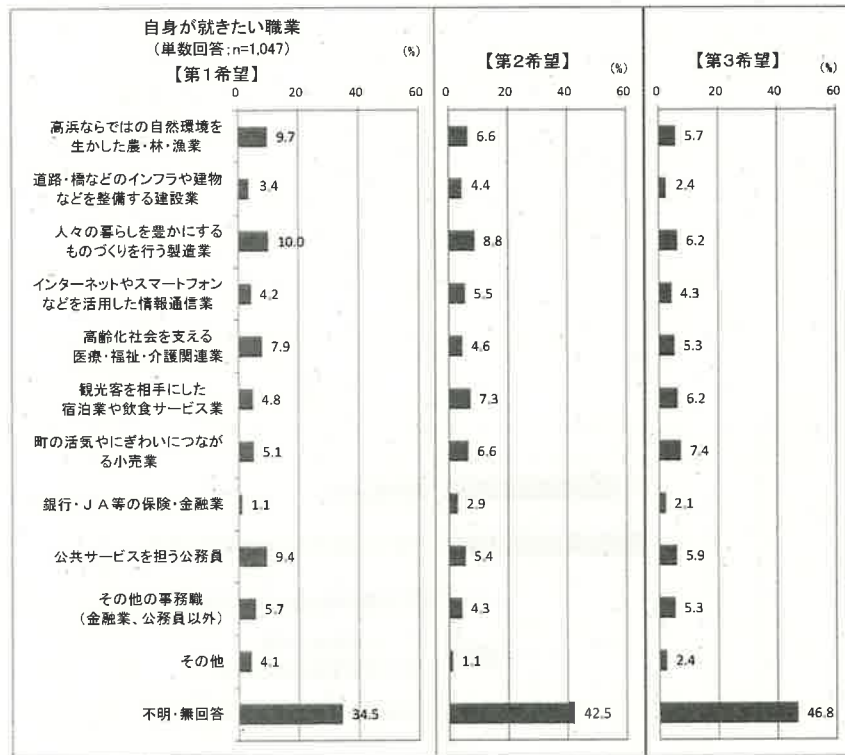




(4) 自身が就きたい、子どもに就かせたい職業

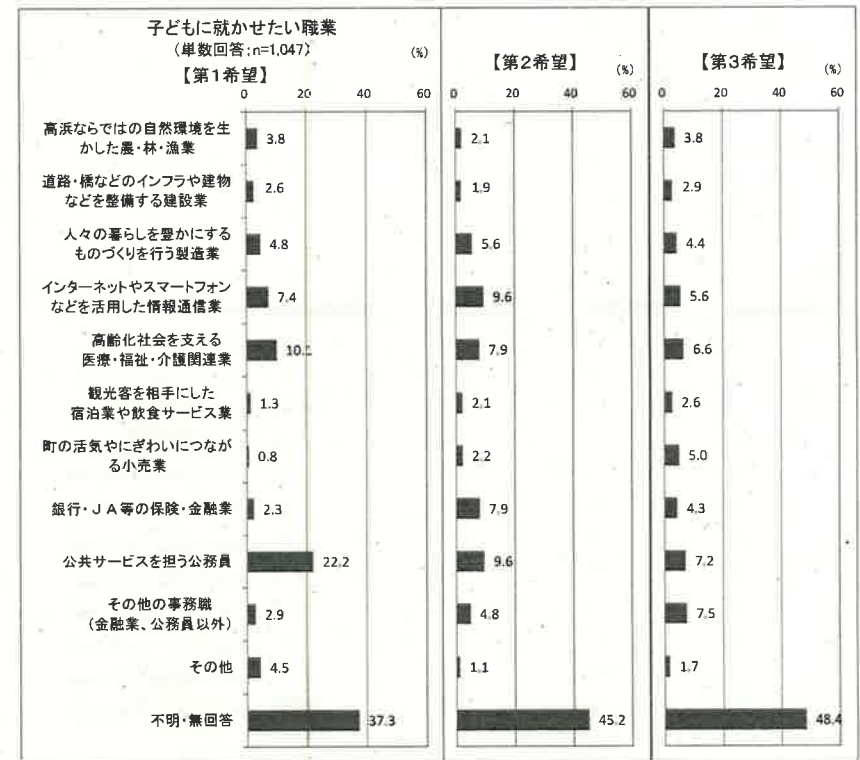
(自身が就きたい職業)

第1希望は「人々の暮らしを豊かにするものづくりを行う製造業」が最も多く10.0%、次いで「高浜ならではの自然環境を生かした農・林・漁業」が9.7%、「公共サービスを担う公務員」が9.4%などとなっています。なお、「不明・無回答」が多くなっていますが、回答者のうち70歳以上が30%を超えていることが関係していると推察されます。



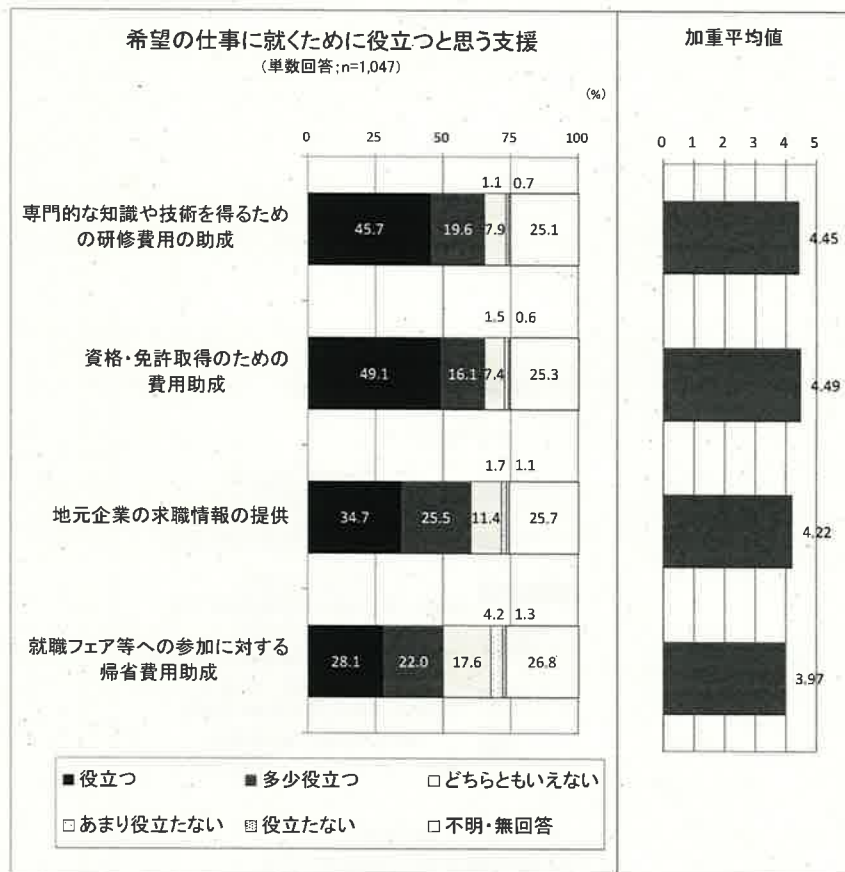
(子どもに就かせたい職業)

第1希望は「公共サービスを担う公務員」が最も多く22.2%、次いで「高齢化社会を支える医療・福祉・介護関連業」が10.1%、「インターネットやスマートフォンなどを活用した情報通信業」が7.4%、「人々の暮らしを豊かにするものづくりを行う製造業」が4.8%などとなっています。なお、「不明・無回答」が多くなっていますが、回答者のうち70歳以上が30%を超えていることが関係していると推察されます。



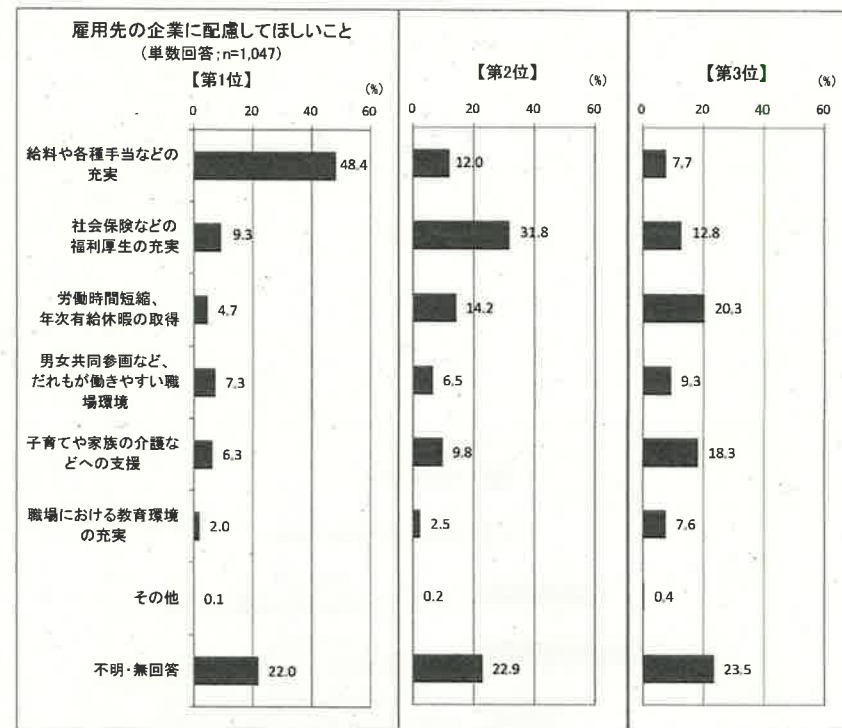
(5) 希望の仕事に就くために役立つと思う支援

「役立つ」は「資格・免許取得のための費用助成」が最も多く 49.1%、次いで「専門的な知識や技術を得るための研修費用の助成」が 45.7%などとなっています。これらの支援については加重平均が高くなっています。また、「役立つしない」はどの支援も低くなっています。



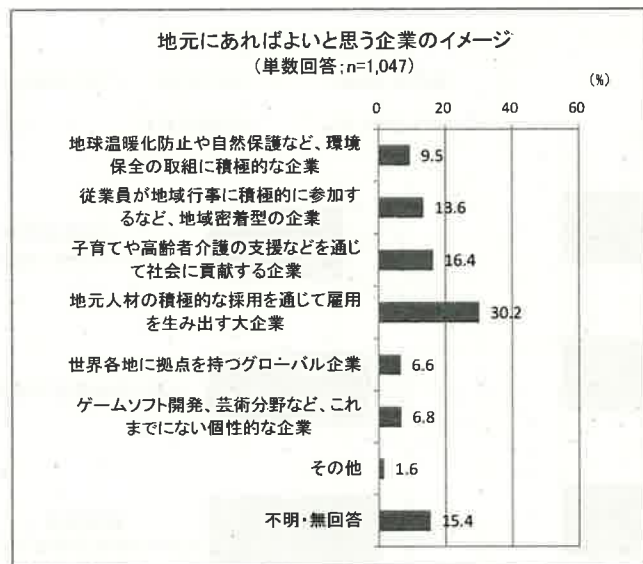
(6) 雇用先の企業に配慮してほしいこと

第1位は「給料や各種手当などの充実」が最も多く 48.4%、次いで「社会保険などの福利厚生への充実」が 9.3%、「男女共同参画など、だれもが働きやすい職場環境」が 7.3%などとなっています。



### (7) 地元であればよいと思う企業のイメージ

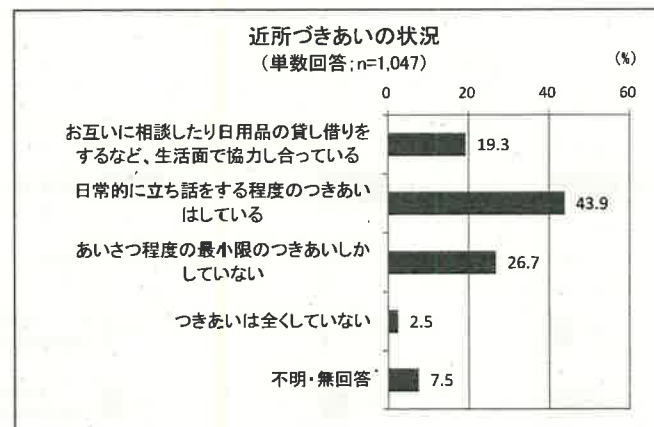
「地元人材の積極的な採用を通じて雇用を生み出す大企業」が最も多く 30.2%、次いで「子育てや高齢者介護の支援などを通じて社会に貢献する企業」が 16.4%、「従業員が地域行事に積極的に参加するなど、地域密着型の企業」が 13.6%などとなっています。



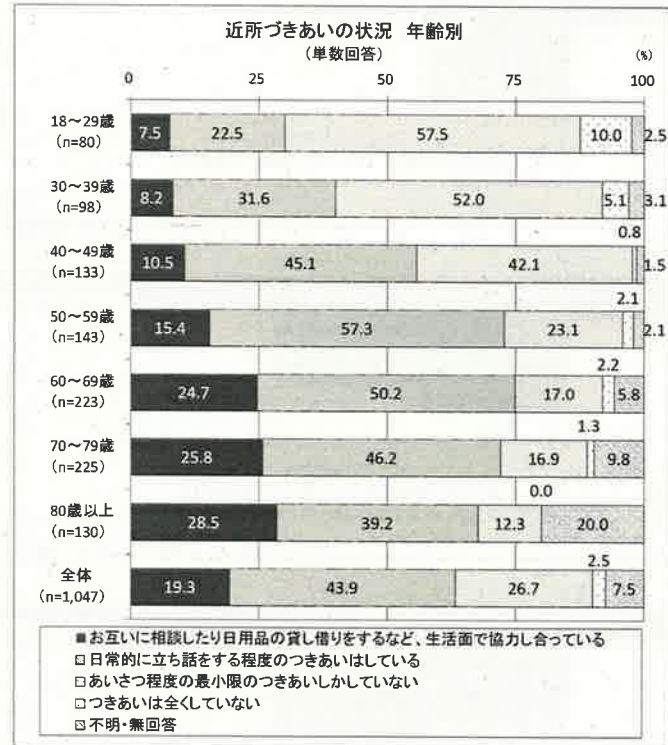
## 6. 地域との関わりについて

### (1) 近所づきあいの状況

「日常的に立ち話をする程度のつきあいはしている」が最も多く 43.9%、次いで「あいさつ程度の最小限のつきあいしかしていない」が 26.7%、「お互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力し合っている」が 19.3%などとなっています。

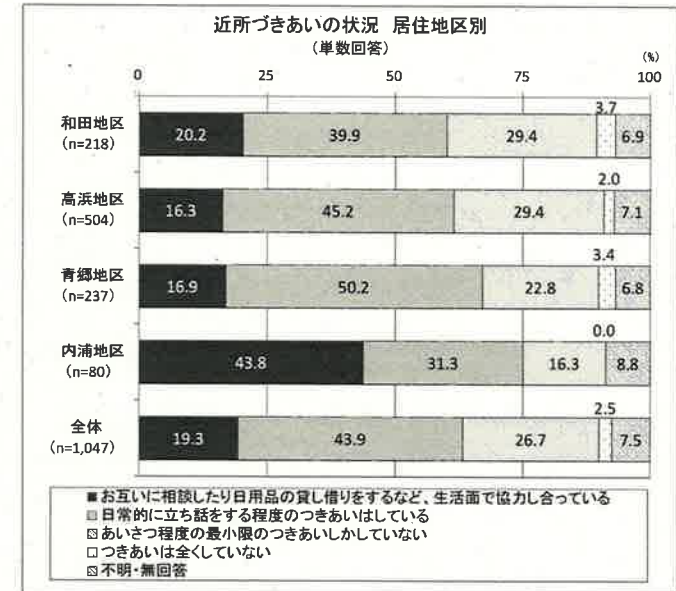


年齢別にみると、若い年代では「あいさつ程度の最小限のつきあいしかしていない」が多く、年代が上がると「お互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力し合っている」が多くなっています。また、年齢別による有意な差はみられません。



居住地区別にみると、内浦地区を除き、「日常的に立ち話をする程度のつきあいしている」が最も多く30%を超えています。

内浦地区では「お互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力し合っている」が他の地区と比較して多くなっています。



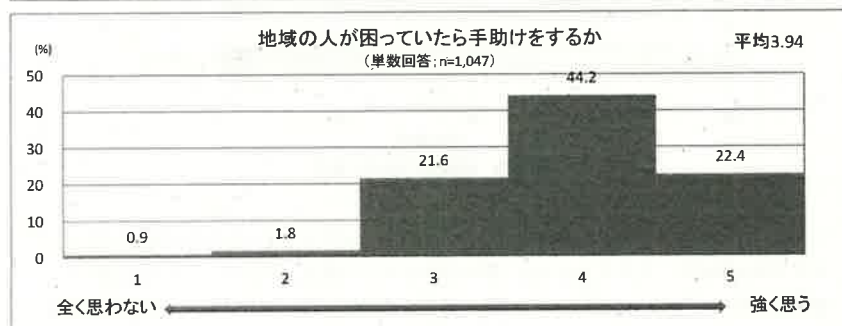
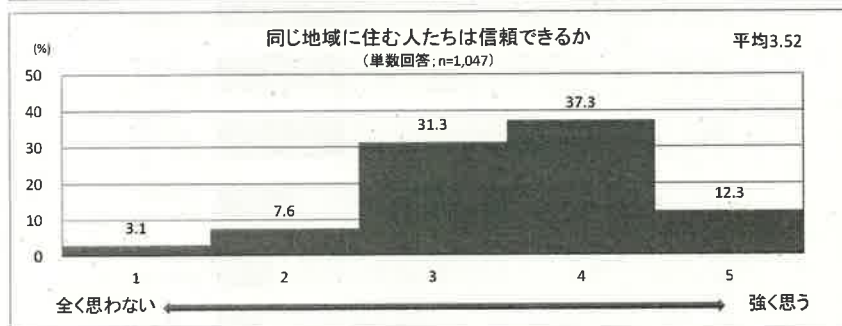
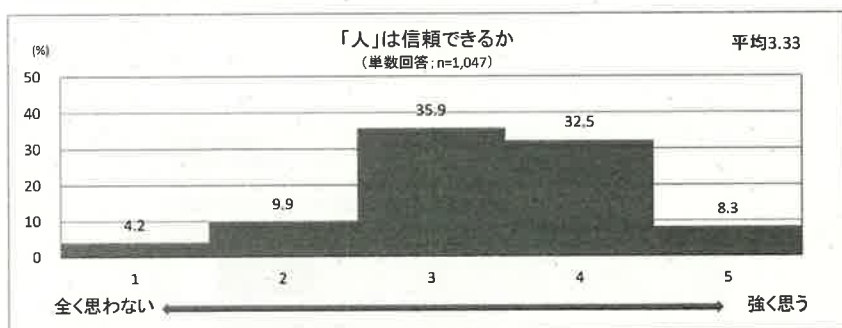


## (2) 人への信頼に関する考え方

「人に対する信頼度」の平均点は3.33、「3」が最も多く35.9%、次いで「4」が32.5%などとなっています。

「同じ地域に住む人への信頼度」の平均点は3.52、「4」最も多く37.3%、次いで「3」が31.3%などとなっています。

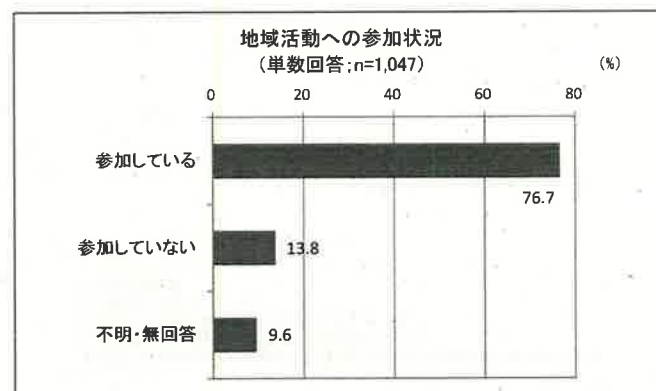
「地域の人が困っている際の手助け」の平均点は3.94、「4」が最も多く44.2%、次いで「5」が22.4%などとなっています。



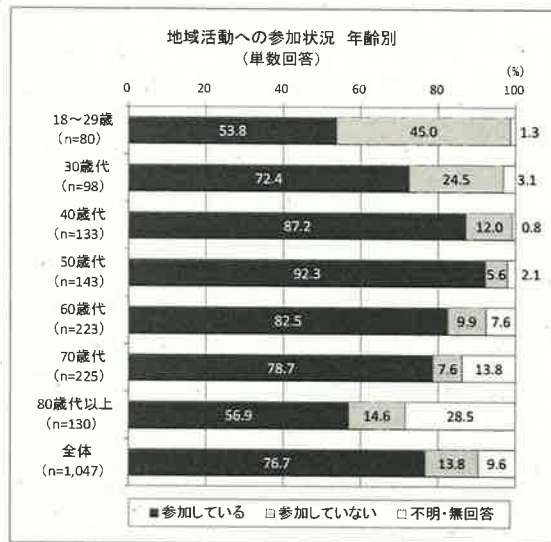
## (3) 地域活動への参加状況

(地域活動への参加率)

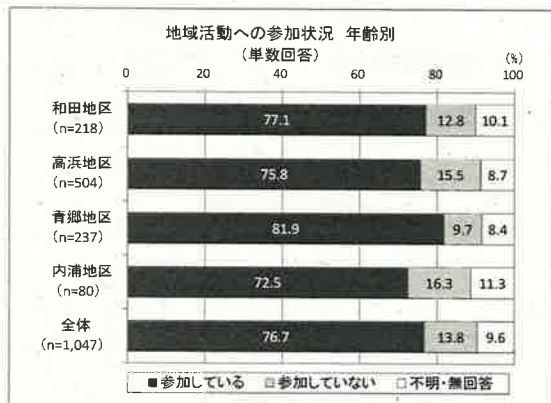
「自治会・町内会の活動」「ボランティア活動」「子育て支援活動」「高齢・障がい・地域福祉に係る活動」「スポーツ・文化・学習活動」「環境美化活動」「宗教的な活動(お祭りなど)」「防災・防犯活動」「その他」のいずれかに年数回以上参加している人は76.7%、全く参加していない人は13.8%となっています。



年齢別にみると、どの年代も「参加している」が50%を超えています。また、年齢別による有意な差はみられません。



居住地区別にみると、どの居住地区も「参加している」が70%を超えています。また、居住地区別による有意な差はみられません。



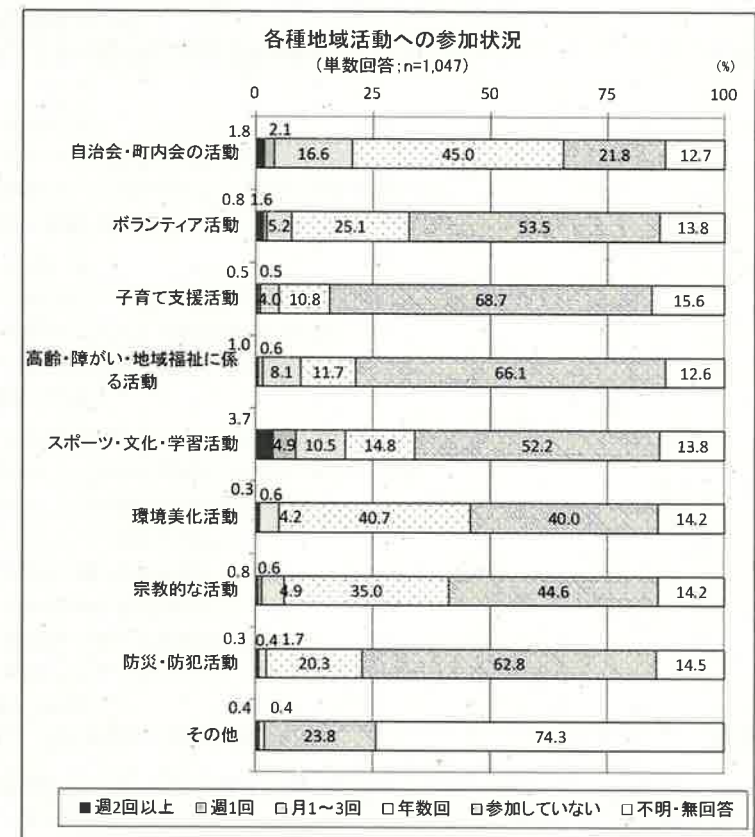
「週2回以上」は「スポーツ・文化・学習活動」が最も多く3.7%、次いで「自治会・町内会の活動」が1.8%などとなっています。

「週1回」は「スポーツ・文化・学習活動」が最も多く4.9%、次いで「自治会・町内会の活動」が2.1%などとなっています。

「月1～3回」は「自治会・町内会の活動」が最も多く16.6%、次いで「スポーツ・文化・学習活動」が10.5%などとなっています。

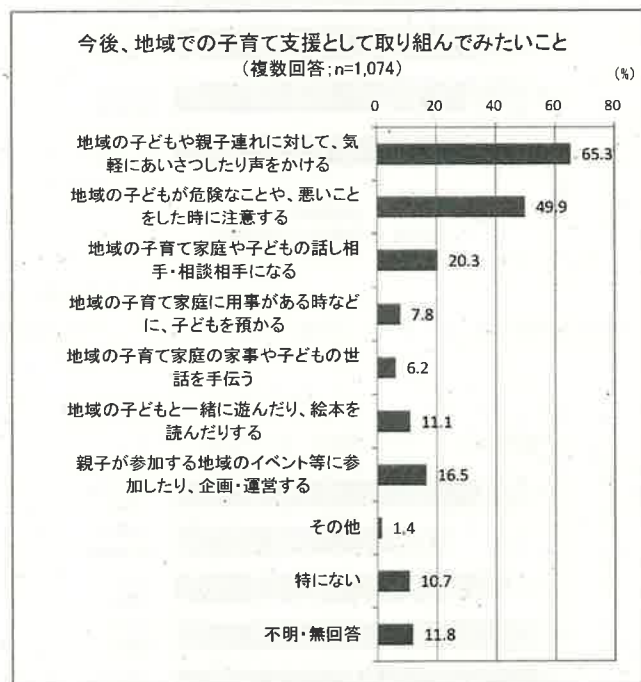
「年数回」は「自治会・町内会の活動」が最も多く45.0%、次いで「環境美化活動」が40.7%などとなっています。

「参加していない」は「自治会・町内会の活動」が最も少なく、「子育て支援活動」が最も多くなっています。



(4) 今後、地域での子育て支援として取り組んでみたいこと

「地域の子どもや親子連れに対して、気軽にあいさつしたり声をかける」が最も多く 65.3%、次いで「地域の子どもが危険なことや、悪いことをした時に注意する」が 49.9%、「地域の子育て家庭や子どもの話し相手・相談相手になる」が 20.3%、「親子が参加する地域のイベント等に参加したり、企画・運営する」が 16.5%などとなっています。



7. 自由記述の内容

自由意見欄には 256 名の方から延べ 442 件の意見をいただきました。その内容について、現総合計画の基本目標ごとに下記のように整理しています。

目標 1. 誰もが安心して暮らせるまち

76 件

○福祉 (41 件)

- 運転ができなくなってから (運転免許証返納後) の生活が不安 (11)
- 高齢者のための介護施設が欲しい (8)
- 高齢者向けの居場所が欲しい (6)
- 高齢者介護の充実を望む (4)
- バリアフリー環境の充実 (2)
- 障がい者の地域受け入れが不十分だと思う (2)
- 障がい者の就労支援施設/事業所が足りない (2)
- その他 (6)

○医療 (22 件)

- 子育てのためには産科・小児科が必要 (8)
- 高齢化を見据えた医療制度の充実を望む (3)
- 近隣自治体との広域連携で大病院を設立してはどうか (2)
- その他 (9)

○防犯・防災 (13 件)

- 地域によっては夜が暗いので街灯の設置を望む (4)
- 地すべり・崩落への対策が必要 (3)
- その他 (6)

目標 2. いきいきと働くことができるまち

105 件

○観光振興 (37 件)

- 道の駅は他地域と比較するといろいろと問題点が目立つ (6)
- ブルーフラッグ認定は良い、より PR すべき (6)
- ブルーフラッグは話題のみ先走り過ぎではないか (5)
- 新しいものごとではなく、既存の施設や自然を観光資源とすべき (5)
- ハーバルビレッジは有効活用されていないのでは (4)
- その他 (11)

○商工業 (26 件)

- 若い世代の就労先となるような企業を誘致して欲しい (11)
- 利便性や商品の取扱量などに優れた全国チェーン店などが欲しい (9)
- その他 (6)

○農林水産業 (18 件)

- 害獣対策を充分行って欲しい (5)
- 農業、漁業などを企業化したらどうだろう (4)
- 小規模農地での耕作ができるような規制の変更 (2)
- その他 (7)

○地場産業など (16 件)

- 地元になたな産業を立ち上げる(5)
- 地元産品のより活発な PR が望まれる(4)
- さまざまな形での起業支援があるといい(4)
- 地域住民のための産業を立ち上げるべき(3)

○原子力関連産業 (8 件)

- 原子力発電所に頼らない(産業構成、税金など) 方向性を持つべき(7)
- 原子力発電所があるとやはり不安(1)

**目標 3. 安全快適で住みやすいまち**

105 件

○道路／交通 (35 件)

- 生活道路が狭すぎる (9)
- 地域交通の充実を望む (9)
- 舗装、避難経路などの道路整備をして欲しい (8)
- バスの料金・路線を見直して欲しい (6)
- 歩道を整備して欲しい (3)

○街並景観 (31 件)

- 空き家が増え、景観や防犯上好ましくない (13)
- 各地域のゴミや雑草の処理が不十分 (8)
- 浜の整備、街路樹や花などで景観をより良くしたい (8)
- 電柱を撤去すると景観上好ましい (2)

○住環境／市街地の整備 (24 件)

- 子どものための遊び場が欲しい (13)
- 公園など住民が楽しめる場所が欲しい (5)
- ゴミ捨て場を整備して欲しい (2)
- その他 (4)

○生活のための情報提供 (15 件)

- ゴミの区分、回収日などの情報が必要 (5)
- その他の (10)

**目標 4. 豊かな自然を守り、地球環境に貢献するまち**

3 件

○自然環境の保全 (3 件)

**目標 5. 学びあい・教えあい、そして、人を育むまち**

49 件

○子育て支援 (11 件)

- 子育て支援をより充実させて行って欲しい (4)
- 待機児童など、保育園にはいくつかの問題がある (4)
- 子育て支援制度には満足している (3)

○学校教育をより充実して欲しい (6 件)

○文化振興 (32 件)

- スポーツ施設が欲しい (7)
- 七年祭への参加が強制的なので困る (5)
- 花火大会は一度にまとめたほうがいいのではないか (4)
- 各地のイベントを仕切るのは高齢者の負担になっている (4)
- その他 (12)

■その他

**町政に対する意見**

57 件

- これからの人材／リーダーの育成が必要 (9)
- 職員の資質や行動に信頼がおけない (9)
- 行政の姿勢に信頼性が乏しい (6)
- 除雪や害獣駆除の行政サービスが不十分である (5)
- 町税が高額すぎる (4)
- 住民の活動に対する経済的支援や助成が欲しい (4)
- 財政関連の情報を公開して欲しい (3)
- 住民の参加促進の体制をつくって欲しい (3)
- その他 (14)

**その他の記述**

47 件

- 若い人の住みよい町を目指すべき (16)
- 閉鎖的・保守的な地域だと思う (7)
- 住みやすくなって欲しい (6)
- 地域の特性を活かして行って欲しい (5)
- その他 (13)